

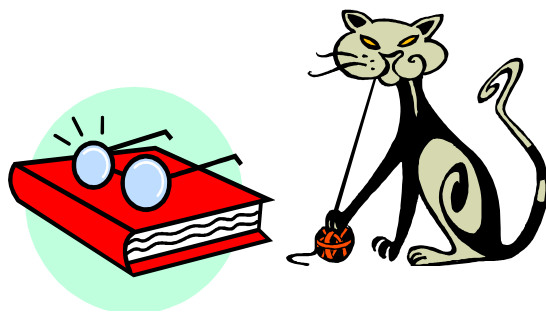
2014年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「使える」日本語を学ぶ！

～行動・体験型の教室活動をつくろう～



公益財団法人 愛知県国際交流協会



はじめに

このような体験はないでしょうか。中学校や高校の時に学んだ英語。テキストに出てきた文型を覚え、文法もばっちり頭にいれ、試験でもそこそいい点数をとっていたはずなのに、いざ外国人と話すと、何を言われているのかさっぱりわからない。言いたいことがあってもことばが全然出てこないから、ついつい黙ってしまう。洋画を見ても、字幕を見ないとまったく理解できない。もう、英語なんて大嫌い!!

あるいは、おとなになって、学生時代覚えた英語はすっかり忘れてしまったけれど、海外旅行で、とにかく勢いと度胸だけで話しかけた英語が…通じた! うれしい! 楽しい!!

愛知県国際交流協会では、平成10年からボランティアによる「プラザにほん語教室」を開催してきました。当初からその目的は、語学としての日本語を教えることではなく、日本人と外国人が同じ地域に住む住民として対等の立場でお互いに学びあう場をつくることでした。そのため研修は、教えるためのスキルよりも「外国人住民」を理解すること、「地域日本語教室の役割」を理解することに重点をおき、教え方はボランティアにお任せしていました。

でもその一方で、どんどん増えていった学習者からは「漢字を覚えたい」「敬語を覚えたい」「日本語能力試験1級の勉強がしたい」などと言われてしまいます。事務局が言う「多文化共生のための日本語教室」と学習者のニーズとの狭間で、ボランティアのみなさんはモヤモヤしながらも毎週毎週、テキストの準備をしたり、プリントをつくったり、それぞれ工夫をしながら教室活動を続けてくださっています。その様子に頭が下がると同時に、事務局自身も「理念」と「現実」のギャップに、ここ数年「地域の日本語教室の役割はいったい何だろう?」と疑問を感じ続けていました。

そうした中、文化庁から『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』が出されたのです。最初は、「こんなにテキストがたくさんある中で、なぜ文化庁はあえて、このようなテキストを作ったのだらう」「ボランティアは主体的・自主的な活動なのに『カリキュラム』というのはなぜだろう」とわからないことだらけでした。でも、このカリキュラム案が目指している『「生活者としての外国人」のための日本語教育』がどうということなのか理解できるにつれ、ずっと疑問に思っていた「地域の日本語教室の役割」も少し整理できたような気がしました。

日本に暮らしている外国人住民が日常生活の中で、「通じた」「わかった」「楽しい!」という瞬間をたくさん作りだしていくこと、それがひいては、日本で安心して安全に暮らせるという多文化共生社会の実現につながっていくのだと思います。そして、フットワークが軽く、地域のことをよく知っていて、きめ細かい活動ができるボランティアこそ、そうした場を作り出すのにとても大きな力を発揮するのではないかと思います。テキストによる従来の教え方を否定するわけではありません。テキストを使いながら、じっくり基礎を学ぶことも大切でしょう。でも、それだけでなく、「使える日本語」「生きた日本語」を学ぶ場を提供することができたら、学習者だけでなくボランティアにとっても楽しく、手ごたえのある活動になるのではないのでしょうか。

本書は、そうした「使える日本語」「生きた日本語」を学ぶための「行動・体験型」教室活動とはどういうものなのか、この地域の日本語ボランティアのみなさんと一緒に試行錯誤しながら考えたことをまとめたものです。まだまだ整理しきれていない部分、課題も残る内容になっていますが、地域の日本語教室、そしてボランティア一人ひとりが、それぞれの活動をふりかえり、よりよい活動を目指すためのきっかけになれば、とてもうれしく思います。

最後に本書を作成するにあたり、当協会の日本語教育事業にご協力いただいている東海日本語ネットワークのみなさん、プログラム研修に参加し、モデル授業を実施してくださった日本語教室とボランティアのみなさん、そして、何度も何度も長時間にわたる打合せを重ねながら原稿を書いてくださった編集委員のみなさんに心からお礼申し上げます。

平成27年2月

公益財団法人 愛知県国際交流協会

本書のつかいかた

本書は、文化庁2014年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(B)の委託を受け、「多文化共生社会実現に向けた地域の日本語教育推進事業」と題した事業の取り組みとして実施した「地域日本語教育プログラム研修」の実践過程をまとめたものです。

本書は6部構成になっています。

■ 冒頭に、愛知県内の外国人の状況と特徴を地図とグラフで示しました。現在活動している日本語教室はどのような外国人が住んでいる地域にあるのか、そしてどのような活動が期待されているのか、さらに愛知県における日本語教育事業に何が求められているのかを考える参考にしていただきたいと思います。

■ 第1章では、地域における日本語教室のあり方について、その背景と理念を述べています。
第2章とともに今年度実施した「地域日本語教育プログラム研修」の内容をもとにまとめました。

■ 第2章では、「行動・体験型の日本語活動」のつくり方を学んで実践していただくために、その具体的な手順を示しています。現在の活動を見直してみようという方にぜひご一読いただきたいと思います。

■ 第3章は実践事例集です。9テーマの行動・体験型の活動の実践過程を提示しています。
各テーマごとに、活動内容・活動方法・活動案・実際の活動の様子を4ページにわたって示しています。準備のためにすること、活動のポイント、活動の成果ややり残したことなども載せていますので、行動・体験型の活動を実施する際の参考にしていただけたらと思います。

■ 第4章では、本冊子を執筆した仲間を中心に、行動・体験型の活動を実践した過程をふりかえり、「プログラム研修」の成果や気づきを座談会形式で載せています。今後の地域日本語教育のあり方を一緒に考えていただきたいと思います。

■ 第5章では、教室活動を楽しく充実したものにしたり、現在の活動をふりかえったりするための情報やヒントを載せています。さらに、愛知県内の日本語教室の所在地の地図および日本語教室リストも掲載しました。日本語ボランティア希望者や学習者への情報提供の一助としてご活用ください。

● 愛知県の外国人住民	1
● 第 1 章 日本語教室のあり方とカリキュラム案	
日本語教室の「あり方」を考える	8
どうして「カリキュラム案」？	10
カリキュラム案活用のための『プログラム研修』を実施しました	12
● 第 2 章 行動・体験型活動のつくり方	
活動をつくる 4 つのプロセス	14
1. 活動内容を考える	15
2. 活動方法を考える	17
3. 活動の流れを考える	18
4. 活動案をつくる	19
防災（地震）プログラムを例に実践してみよう	20
【参考 1】標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例	26
【参考 2】標準的なカリキュラム案で「防災（地震）」を考えてみましょう	28
● 第 3 章 実践してみました	
テーマ 1 電車で出かける	30
テーマ 2 自転車が出かける	34
テーマ 3 図書館を利用しよう	38
テーマ 4 チラシを使って買い物しよう	42
テーマ 5 葉を買う	46
テーマ 6 救急車が来るまでにできること	50
テーマ 7 火事になったら	54
テーマ 8 地震に備える	58
テーマ 9 非常食を食べてみよう	62
● 第 4 章 座談会『多文化共生社会をめざした教室活動』	
プログラム研修をふりかえる	68
『行動・体験型』の活動 ～理念と実践～	70
コーディネーターの役割	70
多文化共生社会と教室活動のありかた	71
学び続けるために	72
● 第 5 章 日本語ボランティアお役立ち情報	
日本語教室の探し方	74
外国人住民が日本語教室に来る理由	76
外国につながる子どもについても知っておこう	77
知っ得ヒント集	78
学習者の出身国はどんな国？	80
愛知県の日本語教室マップ	82
教室活動に役立つウェブサイト	88

● 生活者としての外国人

「外国人労働者問題関係省庁連絡会議」において、平成18年ごろから使われたことばです。日本に居住する外国人の生活の側面に焦点をあてることばで、日常的な生活を営むすべての外国人を指します。外国人も「地域で暮らす生活者」であり、住民であるということを示しています。

● 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案

→ 本書 P. 10

● 生活上の行為

文化庁作成のカリキュラム案では日本語教育の内容として、来日間もない外国人が基本的な生活上の基盤を形成するために必要であるもの及び安全にかかわり緊急性があるもの10項目を「生活上の行為」として取り上げています。そのうち、教育、労働を除く8項目をすべての外国人に共通の行為としています。

→ 本書 P. 15

● 行動・体験型(中心)の教室活動

本書では「行動・体験型」、カリキュラム案では「行動・体験中心」ということばを使っていますが、意味は同じです。「生活者としての外国人」にとって日本語教育は、日本語についての知識を蓄えることが目的ではなく、日本語を使っているいろいろな生活上の行為ができるようになることを目指しています。

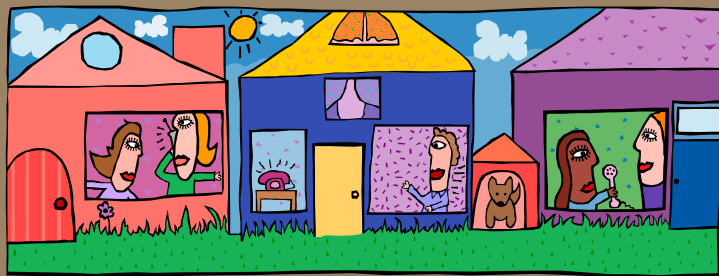
実際に日常生活で出会うであろうと思われる場面や課題を教室の中に持ち込み、
あるいは教室から出て地域社会の中で「行ってみる」「まねてみる」「見てみる」。
そして、体験したことをふりかえって、内容を確認したり、話を広げたりする。
さらに、それらを文章にしてみたり、発表したり、成果物をつくる。

この一連の活動が、行動・体験型(中心)の教室活動です。単に、外に出かけるとか、体験してみるだけの活動ではありません。

● エンパワメント

「生活者としての外国人」は、自分の生まれ育った環境を離れ、慣れ親しんだ生活や文化、仕事、自分を表現する方法や機会などと離れ、これまでできていたことが自分一人ではできなくなり、自信を失ってしまいます。「生活者としての外国人」にとって、日本語習得はそれ自体が最終目的ではありません。新たな意思疎通の手段を獲得することで、人とつながること、ことばの壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を発揮できるようになること、そして、社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画すること、つまり「エンパワメント」を実現することによって、初めて目標に到達したということが出来ます。

愛知県の外国人住民



愛知県にはさまざまな「外国人住民」が暮らしています。

日本語支援をするとき、学習者の状況を把握し、
生活の課題を一緒に解決するための教室活動をするのが大切です。

また、教室にはまだ来ていない潜在的な学習者のことも
関心をもつようにしましょう。

愛知県の100人のうち約3人が外国人住民

2014年6月末現在、日本に住む外国人の数は2,086,603人。

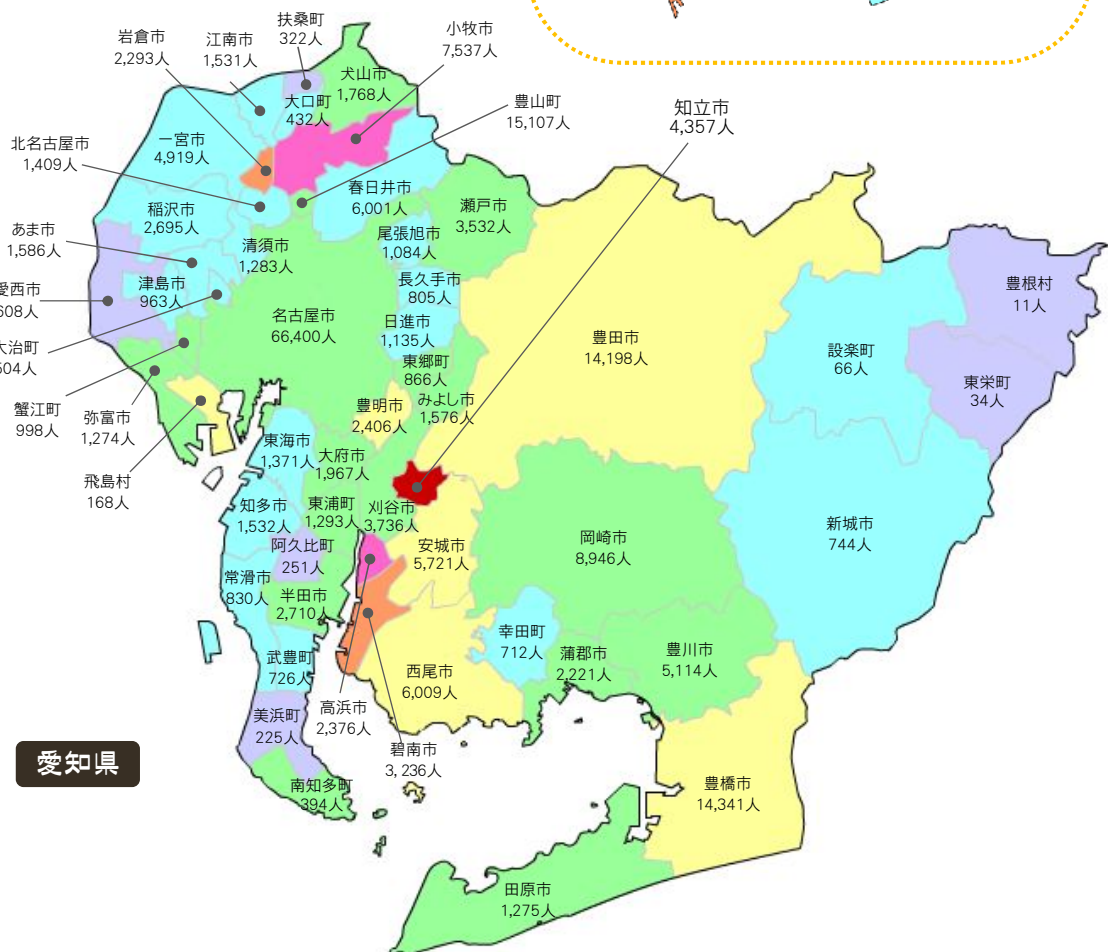
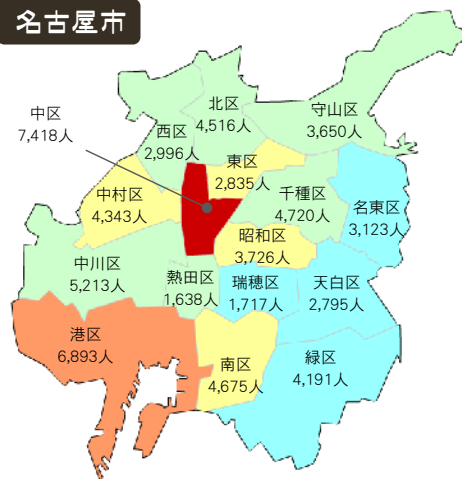
愛知県の外国人数は198,919人で、東京都(418,124人)、大阪府(203,673人)に次いで全国3位です。総人口に対する外国人比率は2.67%で、国の1.6%を大きく上回っています。

また、愛知県内でも市区町村によって外国人住民数や人口に占める割合に違いがあります。愛知県では名古屋市中区が9.08%と、最も割合が高くなっています。自分の住む地域や日本語教室のある地域はどのくらいの外国人住民が住み、その割合はどのくらいになっているのか、他の地域と比較しながら見てください。

外国人住民の総人口比

- 6%以上
- 5%以上
- 4%以上
- 3%以上
- 2%以上
- 1%以上
- 1%未満

名古屋市

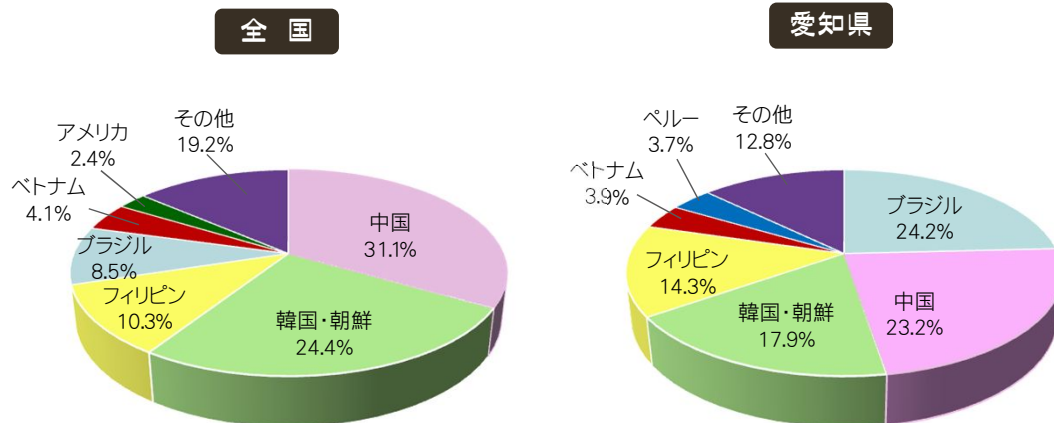


出典

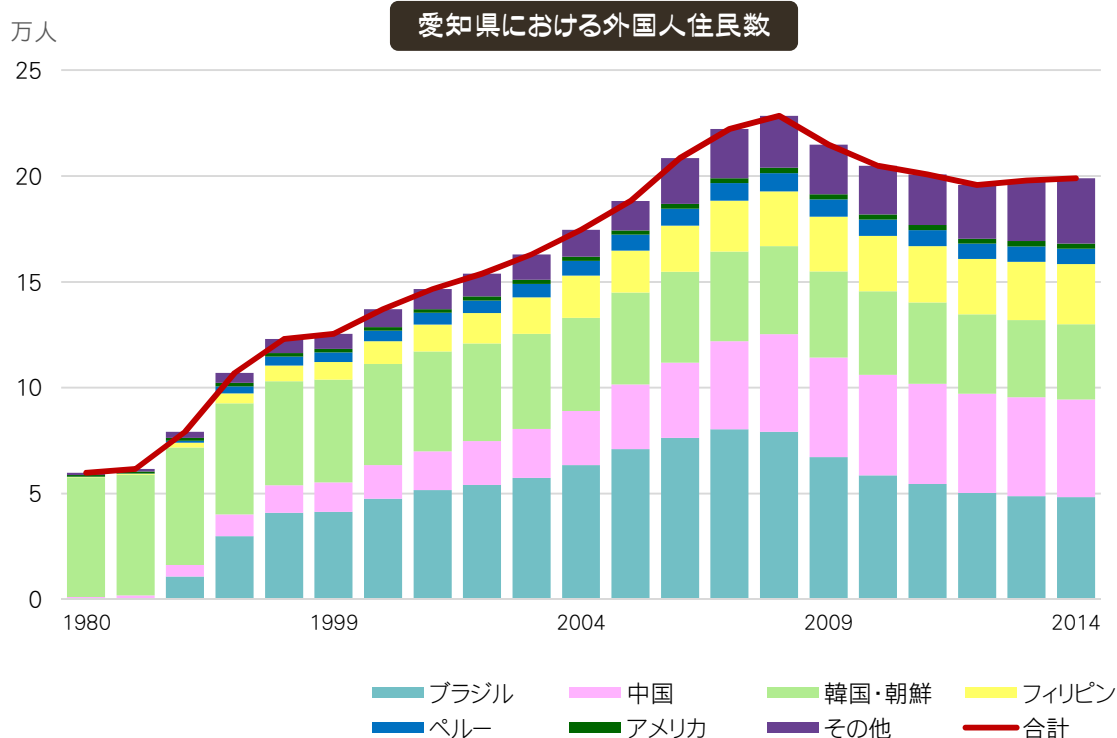
愛知県内市区町村外国人住民数及び総人口比率:愛知県多文化共生推進室ウェブサイト(2014年6月末現在)
名古屋市区別外国人住民数:名古屋市ウェブサイト(2014年7月1日現在)

国籍はブラジルが最多

外国人住民の特徴を国籍別にみると、日本全国では多い順に、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルとなっていますが、愛知県ではブラジルが最も多く、次いで中国、韓国・朝鮮、フィリピンと続き、この4カ国で全体の約80%を占めます。



外国人住民数の推移を見てみると、毎年増え続けてきていたのが、リーマンショックのあった2008年の228,432人をピークに徐々に減少し、2013年からまた増加に転じています。国籍別にみると、ブラジルは減る傾向にありますが、中国、フィリピンの増加は続いています。また、著しい増加傾向の国として、ネパールが1,404人（2008年）から3,001人（2014年）に、ベトナムが4,951人（2008年）から7,821人（2014年）に増えています。



※ 1980年～2013年までは12月末現在、2014年は6月末現在の数字です。

※ 1980年～2011年までは外国人登録者数、2012年以降は外国人登録法が廃止されたため、在留外国人数となっています。対象範囲が異なることになったため、単純に比較することはできません。詳細については法務省のウェブサイトをご覧ください。

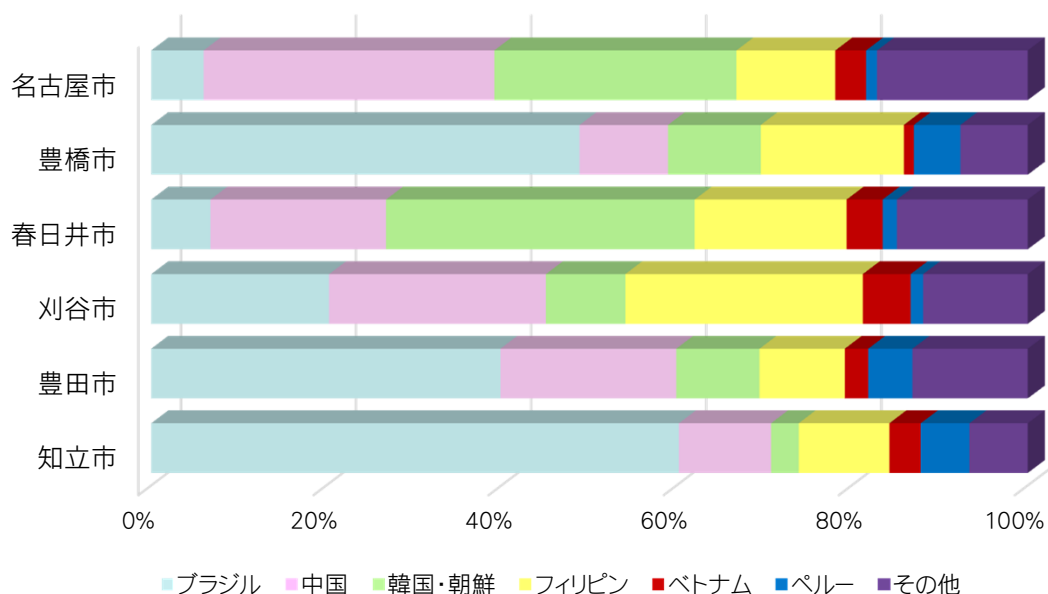
出典

法務省 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2014年6月末)

地域によって違う国籍別外国人の割合

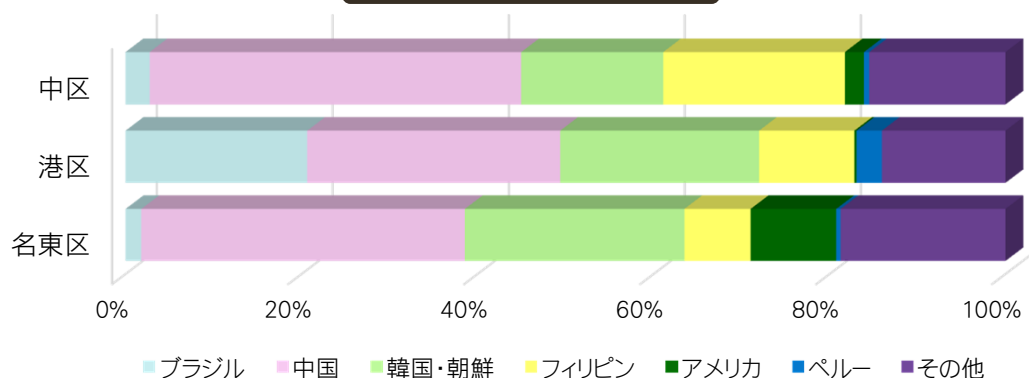
地域によって、外国人住民の国籍別割合も異なります。たとえば、豊橋市、豊田市、知立市ではブラジル人が占める割合が高く、名古屋市は中国人、春日井市は韓国・朝鮮人が最も多くなっています。また、刈谷市はブラジル人、中国人、フィリピン人がそれぞれ外国人住民数の4分の1を占めています。市町村それぞれの状況を知っておくことが大切です。

国籍別外国人住民数の割合



名古屋市内でも、区によって違いがみられます。たとえば、中区は中国人が多く、港区は比較的ブラジル人も多く住んでいます。また、名東区は、他の区に比べると、アメリカ人が多いことが特徴です。

国籍別外国人住民数の割合



愛知県のホームページには56市町村の国籍別外国人数、外国人数順位、人口比順位のデータが載っています。(URL:<http://www.pref.aichi.jp/0000038604.html>)

また、自治体によっては在留資格別のデータを公表しているところもありますので、さらに詳細な外国人住民の状況を把握することができます。

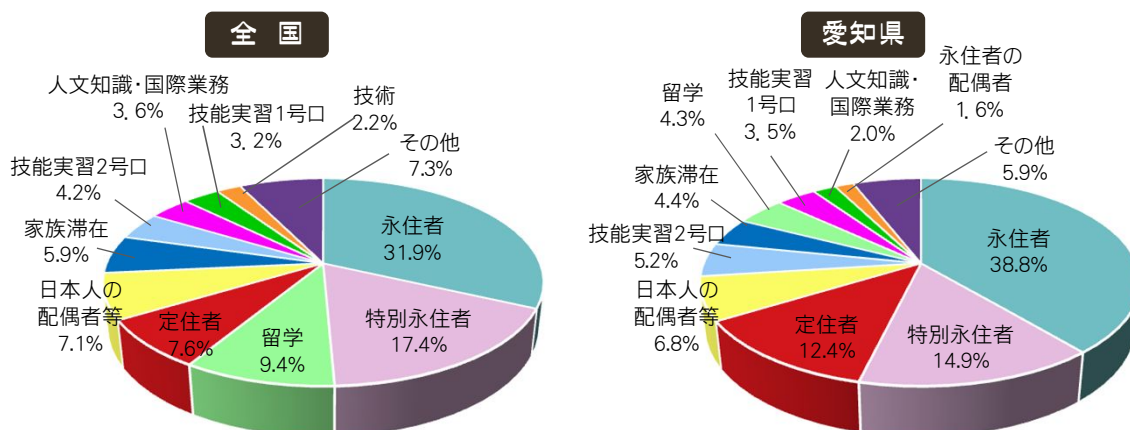
出典

愛知県内市町村外国人住民数及び総人口比率:愛知県多文化共生推進室ウェブサイト(2014年6月末現在)
名古屋市区別外国人住民数:名古屋市ウェブサイト(2014年7月1日現在)

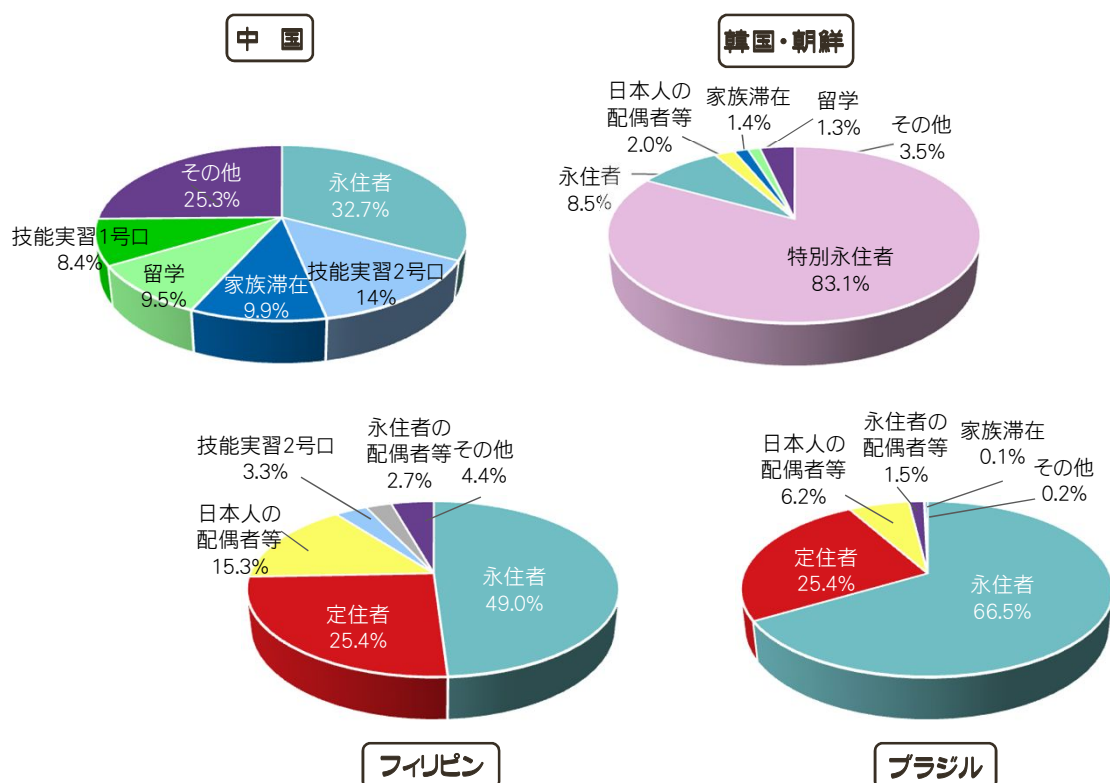
愛知県は「定住する」外国人が多い

在留資格には、①活動に制限のない身分に基づくもの（永住者、特別永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者）と、②留学など23種の特定の活動に基づくものがあります。

愛知県の外国人の特徴を在留資格別でみると、全国と比べて永住者と定住者の割合が多く、活動に制限のない在留資格の人の割合が全体の75%を占めています。また、留学の割合が少ないことがわかります。ただし、国籍別でみると、またその状況は異なってきます。



愛知県の外国人住民 国籍別・在留資格別

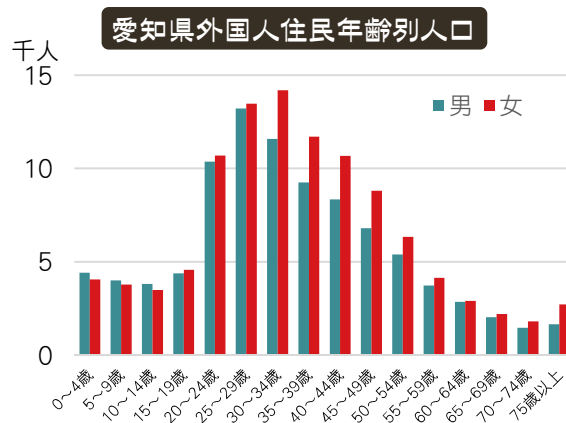
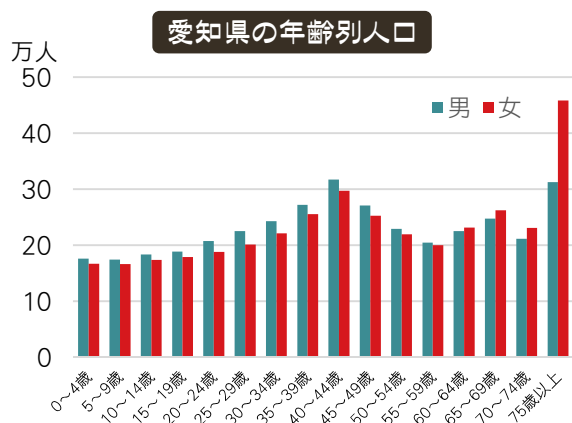


出典

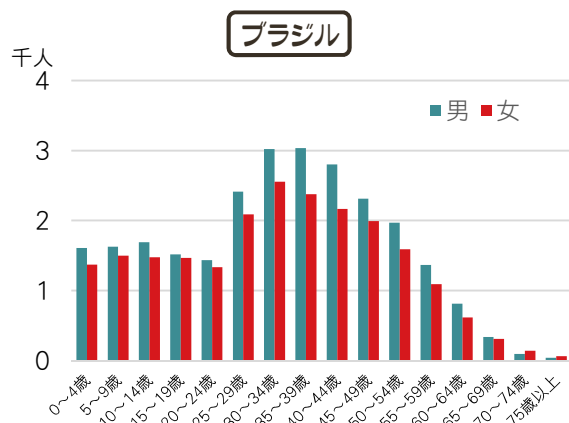
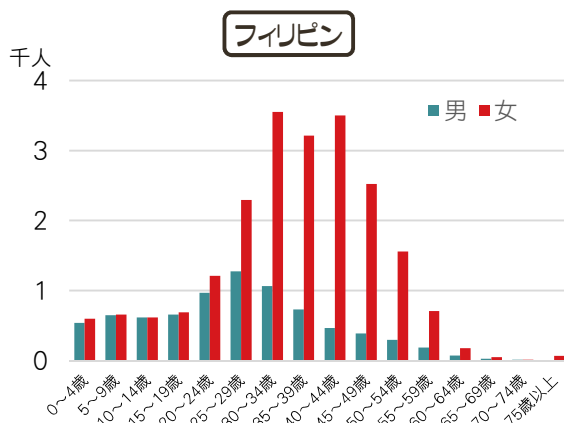
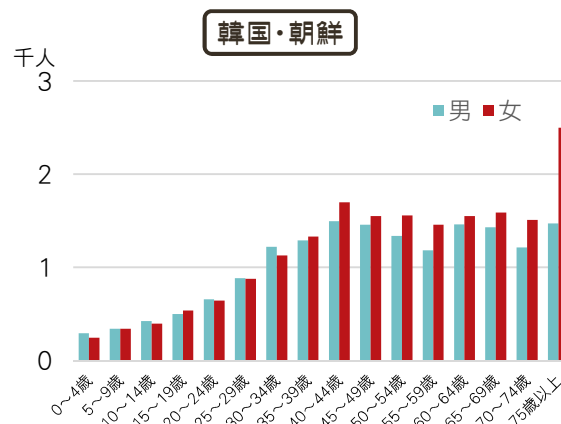
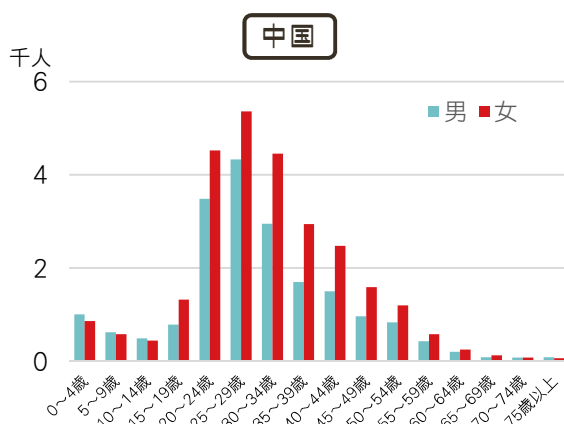
法務省 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2014年6月末)

年齢別では20歳～40歳代が多い

在留外国人の特徴を年齢別にみると、高校を卒業したあと20歳から40歳未満にピークがあり、子どもの数は少ないですが、年齢が低いほど数が増えていることがわかり、少子高齢化が進む日本人の人口構成と比べると大きな差があります。



また、国籍別でみると、ブラジルは男性が多いのに比べ、中国やフィリピンでは女性の数が多いことがわかります。



出典

法務省 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2014年6月末)

第 1 章

日本語教室のあり方と カリキュラム案

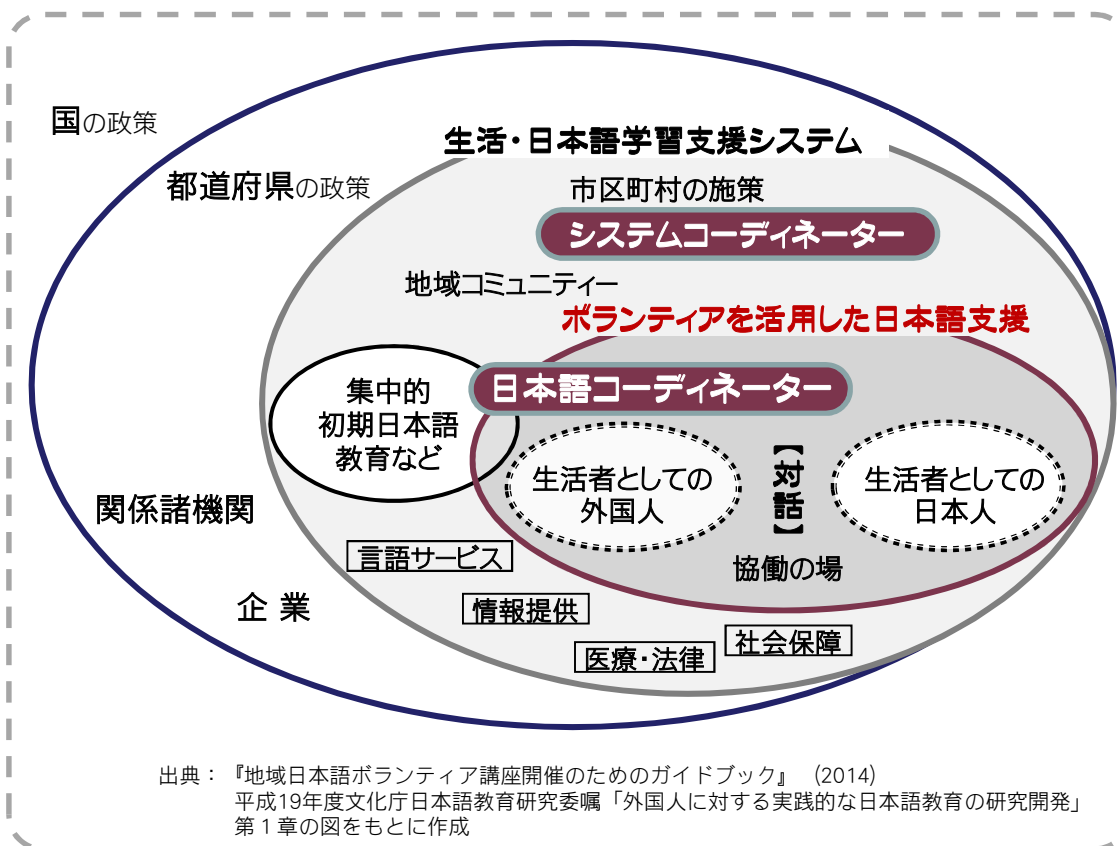


「外国人」と言っても、そのバックグラウンドは様々です。
そうした「外国人」の多様性を踏まえ、
外国人住民が安心して地域で暮らすことができ、さらには、
日本語を使って地域社会に参画することができるようになるための
教室活動を考えてみましょう。

日本語教室の「あり方」を考える

日本語教室って、どういう場所？

下の図は「地域日本語教育のシステム図」と呼ばれているものです。この図の中心の楕円「ボランティアを活用した日本語支援」が日本語教室を表しています。日本語教室は「生活者としての外国人(学習者)」と「生活者としての日本人(ボランティア)」が対話を通して協働する場だということがわかります。



出典：『地域日本語ボランティア講座開催のためのガイドブック』（2014）
平成19年度文化庁日本語教育研究委嘱「外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発」
第1章の図をもとに作成

よりよい活動をめざして

みなさんの教室では、どのような活動をしているのでしょうか。すでに、対話と協働の活動を実践している日本語教室もあるでしょう。けれども、多くの教室で、テキストを使って、あるいは、独自の教材を使って、教材にある言葉や文型を覚え、練習するという方法が一般的ようです。そして、長く活動している教室では、そのやり方が定着し、なかなか変えられないのではないのでしょうか。

現在の活動がうまくいっているからといって、よりよい活動を模索することから遠ざかってはいないでしょうか。現在の活動に不安を感じているボランティアはもちろんですが、満足しているボランティアこそ、新しい考え方や具体的な活動方法を試してみる必要があるでしょう。

「テキストがないと活動ができない」というボランティアにとっては、何か指標となるものが必要でしょう。そこで、愛知県国際交流協会では、日本語教室という場で対話を促し、協働の場へと導いていく活動を作るために、文化庁の「標準的なカリキュラム案」（→P.10）を活用したプログラム研修（→P.12）を実施することにしました。



どうして「対話」なの？

従来の言語教育では「ことばは繰り返し練習することで身につく」という考え方のもと、まず、言語体系（語彙や文型）を理解し、理解したものを使って練習し、覚えてから、実際に使ってみるという流れで行ってきました。ところが、この方法では身につかないという批判が起きたのです。

そして、「ことばを身につけてから使ってみる」のではなく、「実際に使ってみることで身につく」という考え方が主流になってきました。テキストなどで与えられたことより、コミュニケーションを通して得たもののほうが記憶に残るということ、また、与えられたことばを何度も繰り返すより、実際に使ってみることでそのことばが身につくということは、多くの人が経験していると思います。

この考え方に沿えば、まず相手の言いたいことを聞くことで「日本語」を理解し、自分の言いたいことを言うことで「日本語」を覚えるのです。**お互いに相手の言うことを何とか理解しよう、理解してもらおうと工夫するのが「対話」**です。対話を重ねることが日本語を習得する近道なのです。

日本語を習得するのは外国人だけではなく、日本人も対話を通して外国人とのコミュニケーションツールとなる「やさしい日本語」を身につけるのです。



じゃあ、「協働」は？

外国人住民の増加に伴い、多文化共生が地域社会に求められる時代になってきました。**地域日本語教室は多文化共生を体現する場**でもあります。異なる文化・言語の人々が共生するためには、参加者が**対等な関係性**のもとに活動することが大切です。上で述べた「対話」も双方が理解し合おうと必死で聞き・伝えるわけですから「協働」と言えるでしょう。そして、それぞれが持つ経験や考え方を相互に理解し、それらを活かした活動と一緒にすることも「協働」です。この「協働」によって、学習者はその活動になくてはならないメンバーとして尊重され、エンパワーメントされるのです。そこでは、ボランティアは単に学習者に寄り添い、その学習をサポートするだけでなく、協働者として活動に加わります。

多文化共生を目指す日本語教室では、学習者に来ってもらうだけでなく、多くの「生活者としての日本人」にも活動に参加してもらう機会をつくるべきでしょう。日本語教育に興味がなくとも、地域社会の様々な場所で外国人と触れ合う立場の人やごく普通の日本人にも参加してもらったり、そういう人たちと触れ合える場所に出向いたりする活動も取り入れたいものです。

日本語コーディネーターの役割

システム図の日本語教室には、生活者としての外国人（学習者）と生活者としての日本人（ボランティア）以外に、「**日本語コーディネーター**」と呼ばれる人がいます。

コーディネーターは具体的に何をするのでしょうか。教室という場に学習者とボランティアがいるだけでは、活動が成立するとは限りません。特に学習者の日本語のレベルが低い場合にはどのようにしてコミュニケーションをとったらいいのか、わからないのが普通です。「こんなふうに言えば通じますよ」といったモデルを示して**対話のコツを伝えたり**、学習者の理解を助ける「もの」を準備したりして、**対話がスムーズにいくよう動きかけます**。また、単なるおしゃべりをしていれば日本語が身につくと考えするのも問題です。そこで**学習が起きる環境をつくるように工夫**することが日本語コーディネーターの役割です。

日本語コーディネーターは、外部から人を呼んで学習者とボランティアと一緒に学んだり、地域の人と一緒に参加してもらえよう企画を立てたり、といった**活動のためのプログラムを考え、実施に向けて、協力してくれる人たちとの調整にあたる**ことも役割の一つです。

どうして「カリキュラム案」？

「標準的なカリキュラム案」とは？

文化庁では、定住外国人の増加を受け、2007年に、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置しました。2008年には今後検討すべき日本語教育の課題として、「地域社会の一員として外国人が社会参加するのに必要な日本語学習の支援で①内容の改善、②体制の整備、③連携協力の推進の3点について早急に検討が必要」と報告しています。

この報告を受け、日本語教育の内容・方法の改善に向けて2010年から3年かけて作成・提示されたのが「標準的なカリキュラム案」をはじめとする5点セットです。カリキュラム案では、「生活者としての外国人」が日本語を用いて社会生活に参加できるようになることを目指し、そのための具体的な内容をリストとして示しています。

カリキュラム案の目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り生活できるようになること

カリキュラム案の目標

日本語を使って

- 健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 自立した生活を送ることができるようにすること
- 相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 文化的な生活を送ることができるようにすること

カリキュラム案5点セット + ハンドブック

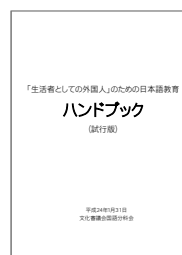


『指導力評価』には、日本語教育実践者が活動をふりかえり、よりよい活動をめざすためのチェック項目、研修プログラム例などが掲載されています。

『能力評価』には、学習者の日本語能力を把握する方法や学習成果を記録する様式などが掲載されています。

『カリキュラム案』『ガイドブック』『教材例集』は、教室活動の内容を考えるためのもので、それぞれ「教室活動でとりあげる内容」「カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせるときのポイント」「行動・体験型の教室活動で用いる教材」が掲載されています。本書では、主にこの3点を活用したプログラムを掲載しています。

そして、『ハンドブック』を見れば、5点セットの全体像、活用の仕方を把握することができます。



プログラム作成のポイント

「カリキュラム案活用のためのガイドブック」には、プログラムを作成する際のポイントとして、以下の 4 点が挙げられています。

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫を行うこと
- ② 教室活動は行動・体験中心のものとし、実際に「できるようになる」ためのものとする
- ③ それぞれの地域における専門家や地域住民を巻き込み、日本語教室を開いたものにする
- ④ 対話による相互理解を促進していくこと

これらのポイントを押さえた日本語教育を行うことで、単に日本語を覚えるだけではなく、実際に人とつながり、それまで外国人が言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮できたりするようになり、さらに社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画することが重要であるとしています。日本語の学習はあくまでも手段であり、それを日本語教育の最終目標とはしないということです。

①からは、カリキュラム案はテキストのようにそのまま使うものではなく、地域や学習者に合わせてアレンジする必要があることがわかります。つまり、学習内容を学習者も一緒に決めることができるのです。



②は、教室活動が「生活に必要なことができるようになる」ことをめざしていることを意味しています。「行動・体験中心」ということばは本講座のタイトルにある「行動・体験型の教室活動をつくろう」の基になっています。

③④とそのあとの言葉からは、システム図を基に述べてきた対話と協働の活動がイメージできると思います。

文化庁ではカリキュラム案等を普及するために、2012年度から教室運営を必須とした事業「地域日本語教育実践プログラム (A)および(B)」を委託しており、様々な地域で「カリキュラム案」を活用した事業が実践されるようになりました。愛知県内でもいくつかの団体で文化庁事業を実施しています。その成果は文化庁のホームページ上で報告されています。

ポイント

- 対話によって日本語が身につく！
- 日本語教室は多文化共生のための「協働」の場
- 文化庁作成カリキュラム案では、行動・体験型の活動をする
- カリキュラム案を使うと、「対話と協働」の活動ができる

カリキュラム案活用のための『プログラム研修』を実施しました

愛知県には、100以上の「地域の日本語教室」があります(→P.82)。当協会では、そうした教室で活動するボランティアを対象に、プログラム研修「行動・体験型の教室活動をつくろう!」を開催し、文化庁の「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を活用しながら、多文化共生社会の視点を持った日本語教育のあり方をみんなで一緒に学びました。また、学んだことを踏まえたモデル授業を考え、それぞれの日本語教室で実践してみました。

平成26年度は、14教室から26名が参加し、お互いの実践活動を見学しあいながらスキルアップを図るとともに、情報交換、ネットワーク作りも行いました。

回	月日	タイトル・内容
1	6/28	オリエンテーション:標準的なカリキュラム案とは? 活動紹介+事例紹介、なぜカリキュラム案なのか
2	7/5	活動のつくり方1:学習者に役立つ活動テーマとは? 教室の学習者の一人を念頭に生活課題を解決するための活動テーマを考え、教室活動をイメージする
3	7/12	活動のつくり方2:活動案をつくろう! 選択した活動テーマに沿って各教室に即した活動案を作成する
4	7/19	活動のつくり方3:実践に向けて 各グループの活動案を共有し、実施に向けて必要なことを確認する
宿題:教室に持ち帰って、実施計画を立て、9/10までに活動案を提出する		
5	9/13	実践活動計画を共有しよう 各教室の実施計画を共有し、それをもとに見学日程を決める
実践活動の実施と見学(9月中旬から10月) 10/30までに実践報告を提出し、発表の準備をする		
6	11/1	実践活動のふりかえり 自分たちの実践をふりかえり、今後の活動に活かす



第 2 章

行動・体験型活動の 作り方



「対話と協働」の日本語教室活動を実践するには
どうすればいいのでしょうか？
本章では、活動を実践するための具体的なプロセスを
整理してみましょう。

活動をつくる4つのプロセス

日本語教室は、対話による日本語習得の場

日本語教室は文法や語彙を直接教える場ではなく、参加者がテーマに沿って対話することで結果としてことばを身に付けていく場です。そのために教材を工夫し、学習者に合わせた「やさしい日本語」で話すようにすることが大切です。

1 活動内容を考える

→P. 15

学習者が生活するうえで必要なことをテーマとする

➡ テーマにかかわる「生活上の行為」を参考に
活動内容を決める

2 活動方法を考える

→P. 17

活動の協力者を考え、活動者と活動場所の視点から、
活動できることを4つに分けて書きだす

3 活動の流れを考える

→P. 18

活動内容ごとに、「イメージをつかむ」「行動・体験する」
「ことば・表現を知る」「発展的な活動」に整理する

4 活動案をつくる

→P. 19

それぞれの活動にかかる時間と順序、教材を考えて、
活動案をつくる

1 活動内容を考える

まず、学習者の状況・生活課題・学習ニーズを把握する

みなさんの日本語教室に参加している学習者はどんな人たちですか？日本でどんな生活をしているかわかりますか？そして、どのような生活課題を抱えているのか想像してみてください。そこから彼らの学習ニーズが見えてくることでしょう。学習ニーズとは、決して、文法が学びたいとか、会話を勉強したい、漢字を教えてほしいといったものを指すものではありません。日本で暮らす上で、日本語を使ってなにができることが必要か、その「生活上の行為」を指します。

学習者の
状況

学習者の生活課題
学習ニーズ

活動内容
(生活上の行為)

カリキュラム案から活動内容を選択する

標準的なカリキュラム案では、以下の10項目のうち、「教育」と「労働」に関する生活上の行為は抜いてあります（そのため、活字の色を変えて記載しています）。これは全ての外国人にとって共通の部分抽出して作成したためということです。実際には、それぞれの教室において、地域や学習者の実情に合わせて考えます（カリキュラム案の121ページ以降には、V・VIの下位項目も記載してあります）。

I 健康・安全に暮らす

- ・ 健康を保つ
- ・ 安全を守る

II 住居を確保・維持する

- ・ 住居を確保する
- ・ 住環境を整える

III 消費活動を行う

- ・ 物品購入・サービスを利用する
- ・ お金を管理する

IV 目的地に移動する

- ・ 公共交通機関を利用する
- ・ 自力で移動する

V 子育て・教育を行う

- ・ 子どもに教育を受けさせる

VI 働く

- ・ 仕事を探す
- ・ 仕事をする
- ・ 仕事に役に立つ能力を高める

VII 人とかわる

- ・ 他者との関係を円滑にする

VIII 社会の一員となる

- ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
- ・ 地域社会に参加する

IX 自身を豊かにする

- ・ 余暇を楽しむ

X 情報を収集・発信する

- ・ 通信する
- ・ マスメディアを利用する

カリキュラム案を活用して活動内容を決めることができます。「生活上の行為の一覧」の詳細版（→本書P.26～27/カリキュラム案P.12～13）を見てみましょう。たとえば、「I 健康・安全に暮らす」の下位項目である「01 健康を保つ」には、さらに「(01) 医療機関で治療を受ける」「(02) 薬を利用する」「(03) 健康に気を付ける」の3つの下位項目があります。**このレベルを活動のテーマとして選びます。**そして「(01) 医療機関で治療を受ける」には、さらに、「隣人に容態を伝えて助言を求める」「初診受付で手続をする」「医者診察を受ける」「病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する」などの項目が並んでいます。これらを参考に、活動内容を決定します。

学習者と一緒に考える

何を学習したいかは、学習者自身が決めるのが一番です。学習者と一緒にワークショップ形式で、自分たちが学びたいことを考えてもらうこともできます。

また、「生活上の行為の分類一覧」は23言語で翻訳されていますので、その一覧を学習者と一緒に見ながら、どんなことができるようになりたいかを考えてもいいでしょう。実際には、学習内容を決めてから実施するまでには準備に時間がかかりますから、初回は、誰にとっても必要な「健康・安全」に関するものなどを選んでおくのも一案です。以下のURLから多言語詳細版PDFがダウンロードできます。

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/index_2.html

文化庁のホームページから以下を順にクリックしてください。> 国語施策・日本語教育

> 日本語教育 > 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容・方法の充実

> 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック



活動内容の詳細を決める

学習内容である「生活上の行為」を選択したら、もう少し具体的な内容を決めていきましょう。その行為ができるようになるためには、学習者にとって、どのようなことが必要になるでしょうか。カリキュラム案には「能力記述」の欄があります。ここに注目して、学習者ができるといいことを具体的に考えます。

たとえば、「隣人に容態を伝えて助言を求める」の能力記述の欄には、「隣人に症状を伝えることができる」「隣人に適切な医療機関の助言を求めることができる」「隣人に適切な医療機関の所在を聞くことができる」の3つが載っています。これらを参考に、**地域の状況や学習者の日本語能力に合わせて、具体的な学習目標を考えます**。たとえば、「隣人に症状を伝えることができる」では、学習者と隣人との人間関係を確認することも学習内容になります。症状をどう伝えるかを学習者の経験に基づいて学ぶことも必要です。学習者の日本語レベルで何ができるかを考えながら、学習者にとって必要だと感じる項目の優先順位を決め、とりあえず活動方法とそれに費やす時間を考える段階まで残しておくといいでしょう。

また、カリキュラム案の生活上の行為の分類リストに出ていない項目を設定することもあるでしょう。むしろ、自分たちで考えた生活上の行為から出発したほうがいいのです。特に、子育てや労働については、多言語版も能力記述もありませんので、学習者の状況を把握して、自分たちで考える必要があります。

カリキュラム案には、能力記述のほか、場面、やりとりの例、機能、文法、語彙、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能などの欄もありますので、活動内容の参考にすることができます。その際に、これらの項目にとらわれて、「まず、ことばを覚えてもらわなきゃ」といった活動にならないよう、気をつけましょう。

ポイント

- 活動内容とは、学習者ができるようになるといい生活上の行為
- 活動内容を決めるには、学習者の状況を把握することから始める
- 活動内容は、学習者と一緒に考えたほうがいい
- 文化庁作成のカリキュラム案の能力記述は活動内容の詳細を決める時の参考になる

2 活動方法を考える

地域のリソースを把握する

活動内容として考えた生活上の行為は、実際の生活では、どこでだれと行うのでしょうか。そのときに使用する「もの」にはどんなものがあるでしょうか？

外国人が多く住む場所で開催している地域密着型の教室なら、参加者は生活上の行為を共通のルール、共通の場所で行っていると考えられますので、教室活動も地域リソースを十分に活用することが可能でしょう。一方、様々な地域から集まってくる利便性の良い場所で開催される駅前型の教室では、学習者が住む地域の生活上のルールや行為を行う場所も異なるでしょうから、利用する施設にも制限があるでしょう。このような教室の特徴を念頭に、使用可能な施設や協力してくれる人、使える資料などを考えましょう。

また、一緒に活動する「生活者としての日本人」も、地域密着型の教室なら、同じ地域に住む人に声をかけるといいのですが、駅前型の教室では、地域住民というよりは、広く興味を持ってくれそうな人に声をかけることになるでしょう。

どこで、だれと、活動するか

活動をするうえで活用可能な施設や人、ものなどの地域リソースが把握できたら、活動場所を教室内外と教室外に出向く場合、また、活動する人をいつものメンバーと協力者が参加する場合、というように4つに分けて、どんな活動ができるか考えてみましょう。

どこで だれと	教室の中で	地域に出向いて
いつもの メンバー	何について話すか	どこで・何をするか
専門家や 地域住民との協働	どんな人に来てもらうか 何を依頼するか	どんな人に、何を依頼するか

たとえば、「飲食店を利用する」をテーマとして選択したとき、教室でいつもの活動をするなら、外食の経験を伝え合う、行ってみたいお店について話す、ネットで情報を得るなどの活動が考えられるでしょう。教室に来てもらうなら、誰を呼びますか？ 教室から街に出るなら、実際にレストランに行くことがまず思いつくでしょう。さらに、その下位項目の「店ごとに受けられるサービスと代価を理解する」について考えてみましょう。色々なお店を訪ねてアンケートを実施するということもできるでしょう。アンケートをするなら、その前にどんな内容にするか教室でみんなで作ってみる必要が出てきます。そして、アンケートの結果をグルメマップにしてみたり、さらに、そのマップを配付したり、発表する機会があるかもしれません。学習者は「店ごとに受けられるサービスと代価を理解する」を学んで伝える側になるわけです。このように、同じ目的の活動が場所や参加者を変えて展開されるのです。

行動・体験型の活動は、体験活動を準備し、体験して、良かったねと感想を述べ合うような単純なものではないはずです。**体験が実際に生活の中で生きるよう、そのための日本語が身につくような学習計画**をつくっていきましょう。学習計画は実際の活動の中からうまれていってもいいのです。



- 活動する人と場所によって、4つにわけて考えるとわかりやすい
- 活動方法はいろいろ。アイデアを出し合ってみよう

3 活動の流れを考える

活動全体の構成要素を考える

カリキュラム案の「教材例集」は、教材例を用いて教室で「何をするのか」ということを示しています。学習者である外国人が、生活上の行為について、イメージをつかみ、実際に、あるいは擬似的にその生活上の行為を体験・行動し、そこで用いられることばを知る、そして発展的な活動を行うという流れに基づいて作成されています。



まず、「イメージをつかむ」では、活動テーマを想起させる実物、写真やイラスト、動画などを準備します。専門家を招いて話を聞いたり、最初から実際に体験すれば、その活動自体がイメージをつかむ活動と言えるでしょう。

実際に体験する代わりに教室内で「体験・行動する」場をつくる場合は、写真などを見ながらお互いの経験を話したり、ワークシートを活用して、ロールプレイやシミュレーションをしてみたり、場合によっては教室を飛び出してインタビューをしたり、アンケートをとったりという活動もできます。それらの活動をまとめて発表する機会が持てれば、「発展的な活動」につながるでしょう。

「ことば・表現を知る」活動は、聞き取ったり、読み取ったり、話し合いに必要とされたりする「日本語」を、その場、その場で学習者が必要と感じてメモしたり、指導者が確認したりすることを指します。そういった意味で、ことばは一方的に押し付けるものではなく、学習者自身が必要とすることばを選択し、身につけていくのです。体験後の活動も大切にしたいと思います。体験した「日本語」をメモしたり、写真に撮ったり、パンフレットなどを持ち帰ったり、場合によっては録音したものを文字に起こして、次の教室に臨めば、具体的な体験をふりかえりながら日本語を確認できます。

構成要素にそって活動を整理する

活動内容をもとに、場所と協力者で区分する4つの場面（→P. 17 「どこで、だれと、活動するか」）で何をするかを考えてきましたが、それらの活動は上の4つの構成要素のどの活動に当たりますか？ そこであげた活動を生活上の行為ごとに整理してみると、全体像が見えてきます。

構成要素 \ 活動内容	生活上の行為・能力記述
	(具体的な活動を記述する)

4 活動案をつくる

活動案をつくる

実際に活動するときは、どの生活上の行為を取り上げるか、どの順序で取り上げるか、それぞれの活動に要する時間はどのくらいになるかを考えて、活動案を作ります。活動案には、まとまった活動ごとに分けて「活動のねらい」を書きましょう。

また、実施後には活動案と同様の記載項目のほかに、参加者の様子や担当者または記録者の所感を記載します。P.24や第3章に活動案の例を示していますので、参考にしてください。

活動案／記録	担当者：		記録者：	
教室名		実施クラス		
テーマ／目標				
テーマ決めの経緯	なぜこのテーマにしたか（いつ、だれが、どのように）			
活動日時	日付、曜日、何時から何時まで（時間数）			
活動場所	市区町村名、施設名			
参加者	学習者人数（国籍別）、学習者の特徴（どのような立場の人、日本語レベルなど） 支援者人数			
協力者	人数、立場または所属機関名			
活動のねらい	準備・教材	活動内容（対話と協働）		
（所用時間）				
（所用時間）				
（所用時間）				
参加者の声	ふりかえりの時間に出た学習者のコメントや支援者のコメント			
担当者の所感	うまくいった点 心残りに思った点 体験・行動型の活動を実践したことについて（感想）			

事前に準備すること・もの

活動に先立って、準備しておくことがあります。1つは協力者の依頼と連携です。もう一つは教材などの準備です。また、ボランティア保険などに入っておくようにしましょう。

出前講座を依頼するときは、自治体などを通すとスムーズにいくことがあります。また、「やさしい日本語」での対応を少しでもお願いできるような工夫と連携に時間をかけましょう。施設見学などを行うときは事前に下見しておく、活動内容が見えてきます。

教室内で使用する実物、写真、DVD、資料や絵カード、ワークシートなどは事前に準備しておく必要があります。教材例集やウェブサイトにも参考になるものがあります。

防災(地震)プログラムを例に実践してみよう

学習者が必要とする生活上の行為には様々なものがあります。その中で、日本語の能力にかかわらず、また、日本人にとっても改めて学習したい項目として防災(地震)を例に考えてみましょう。右ページは様式になっていますので、左ページを参考にそれぞれのテーマで実践してみてください。

1 活動内容を考える

まず、テーマを「防災(地震)」、目標を「地震について知り、備えることができる」とし、次に、防災(地震)をテーマとした「生活上の行為」として

- ① 地震について知る ② グラツと来たとき対処する
- ③ 避難場所に行ける ④ 災害に備える

の4つをあげることができます。

このうち、④災害に備えるについては、さらに下位項目が必要と思われるので、

- a. 避難袋を備える b. 我が家の防災対策をする c. 防災カードをつくる

に設定しました。

これらの活動をする際に、学習者の日本語レベルにどう対応するか考える必要があります。

2 活動方法を考える

生活上の行為ができるようになるために、どこで、どんな人たちの協力を得て、どんな活動ができるか、考えられるものを書き出しましょう。ただし、**日本語学習の基本は教室の中での行うもの**です。単なるイベントに終わらないよう、体験したことを教室に持ち帰って追体験できるような学習計画をたてましょう。

どこで だれと	教室の中で	地域に出向いて
いつもの メンバー	①地震について知る：DVDや写真を見る	①地震について知る+④災害に備える： 防災センター見学(施設の人と協働も可能)
	②グラツと来たとき対処する： どうすればいいか話し合う・やってみる	
	③避難場所に行く：地図で確認する	③避難場所に行く：街を歩いてみる
	④災害に備える a.避難袋を備える： 何を入れればいいのか話し合う b.我が家の防災対策をする： どんな対策をしているか話し合う c.防災カードをつくる： 記入する	④災害に備える：防災グッズ売り場に行く
専門家や 地域住民との協働	①地震について知る+④災害に備える： 出前講座を頼む	①地震について知る+④災害に備える： 防災訓練に参加する

日本語教室の中で行う活動は基本的に「対話」中心ですが、グループに分かれてワークショップ形式にしたり、絵カードなどを活用してゲーム感覚を取り入れると「協働」の要素が強くなります。また、テーマに関する専門家等による出前講座などはどんな教室でも実施可能でしょう。

教室外の活動では、防災センターなどはどんなタイプの教室も実施しやすいと思いますが、防災訓練などの地域行事への参加は、地域密着型の教室ならではの活動でしょう。

ここに挙げたものは、こんなことができそうという活動をかなり網羅的に載せてありますが、実際には、すべてを行うことは難しく、1回2時間程度でできる活動には限りがあります。1回を少し長くとったり、何回かに分けて行ってもいいですし、時間を経て行ったり、来年に持ち越したりしてもいいのです。



実践してみましょう。

1 活動内容を考える

教室の学習者の状況を想像して、または、教室で学習者と一緒に活動テーマを決めます。
まず、必要とする生活上の行為（上位項目）を列挙して、その中から実施するテーマを選びましょう。
テーマを簡潔に示し、活動の目標を「～ができる」という形で設定します。

テーマ

目標

テーマが決まったら、文化庁作成の「標準的なカリキュラム案について」のテーマの下位にある生活上の行為や能力記述を参考に、地域の状況や学習者の日本語能力に合わせた「活動内容」を設定します。

活動内容（生活上の行為）

2 活動方法を考える

生活上の行為ができるようになるために、どこで、どんな人たちの協力を得て、どんな活動ができるか、考えられるものを書きましょう。ただし、日本語学習の基本は教室の中で行うものです。決して、単なるイベントに終わらないよう、体験したことを教室に持ち帰って追体験できるような学習計画をたてましょう。

どこで だれと	教室の中で	地域に出向いて
いつもの メンバー		
専門家や 地域住民との 協働		

3 活動の流れを考える

活動場所と活動者で区分した4つの窓にあげた活動方法を構成要素にそって整理してみると、活動の全体像が見えてきます。防災をテーマとした生活上の行為（活動内容）は、①地震について知る、②グラツと来たとき対処する、③避難場所に行く、④災害に備える、の4つで、④災害に備えるについては、さらに、a. 避難袋を備える、b. 我が家の防災対策をする、c. 防災カードをつくるに分けました。各活動内容に活動アイデアと準備すること・ものを並べると、以下のようになります。

活動内容 構成要素	①地震について知る	②グラツと来たとき対処する	③避難場所に行く	④災害に備える		
				a.避難袋を備える	b.我が家の防災対策をする	c.防災カードをつくる
イメージをつかむ	DVDや写真・実物を見る←DVDや写真			実物を見る ←避難袋と防災グッズ	防災グッズの 写真を見る ←写真を撮る	
専門家や 地域の人を 招く	出前講座を頼む←依頼(主催者から)と打合せ					
見学 外出	防災センターを見学する←下見と申込み					
	防災訓練に参加する ←打ち合わせ		街を歩いてみ る←下見	防災グッズ売り場に行く ←下見と見学の連絡		
教室内 体験・行動 する	地震の経験を 話し合う	どうすればい いか話し合う/ やってみる ←防災絵カード	地図で確認す る ←地図	何を入れ ればいいのか 話し合う ←防災グッ ズカード	どんな対策を しているか話 し合う ←ワークシート	防災カード を読む・記 入する ←防災小冊 子
ことばを 知る	教室活動のあとで学習したことを確認する←ふりかえりシート					
発展的な 活動	学んだことを伝える←防災クイズをつくり、地域のイベントでブースを出す					

このように活動アイデアが並んだら、実際の教室でこのテーマにどのくらいの時間をかけられるかを考えて、この中からそれぞれの活動に要する時間や活動順序を考えながら、実践可能なものを選択し、活動案を作成します。もちろん、最初から活動内容を絞って、考えてもかまいません。





実践してみましょう。

3 活動の流れを考える

それでは、実践するテーマについて、活動内容ごとに実施する活動を整理しましょう。活動内容が複数の場合は、縦線を自由に引いてください。そして、そこで必要となる教材（素材やワークシート）、事前に準備することなども書き込み、書き終わったら、ひとまとまりの活動に要する時間もおおまかに書いてみましょう。

テーマ／目標	
活動内容	
イメージをつかむ	
専門家や地域の人を招く	
見学 外出	
教室 内 体験・行動 する ことばを 知る	
発展的な 活動	

4 活動案をつくる

実践する活動が整理できたら、それを基に、P. 19に沿って活動案（→P.25様式）を作成しましょう。活動案の書き方については、第3章も参考にしてください。

例1 地域の防災フェスタに参加したことを契機に、防災に関する活動を続けた事例です。

活動のねらい	準備・教材	活動内容（対話と協働）
【1日目】 活動1: 防災について知る／地域の人と交流する (90分+30分)	○主催者に連絡する	①教室に集合し、防災フェスタの会場に移動する ②防災フェスタの講演を聞く、アトラクションに参加する
		③教室に戻る ④防災フェスタに参加してわかったこと・感想を話し合う
【2日目】 活動2: 防災について避難所を知る (60分)	○防災冊子（防災フェスタで配付） ○ハザードマップ ○白紙	①グループに分かれて防災冊子を読む ②住所、連絡先などを冊子に記入する ③住んでいる地域や働いているところの避難場所を確認する ④自分の避難場所を紙に地図で描く→避難方法を説明する
活動3: 家の中の防災対策を進める (30分)	○チェックシート ○白紙	①グループで防災チェックシートを確認する ②我が家の現状（部屋の見取り図）を描く→説明する ③これから何をするか、購入するものなどを話し合う
活動4: ふりかえり (30分)	○ふりかえりシート	①ふりかえりシート記入：わかったこと・避難場所・これからすること ②他のグループと共有する（発表する）
【3日目】 活動5: 防災知識を確認（2時間）	○模造紙 ○厚紙 ○クイズの景品	①グループに分かれて、以下のことをする 防災クイズを作る／団地の防災マップを作る （その他：看板やクイズの景品づくり、出店メニューを考える）
【4日目】 活動6: 防災知識を伝える／地域の人と交流する (2時間)	○ホワイトボード ○前回作ったもの	地域のふれあい祭でブースを出す ①防災ブースで防災クイズを行う ②防災マップの説明をする ③教室に戻って、活動のふりかえりをする （その他：出店ブースで売り子をしたり、他のブースを見学する）

例2 1回2時間で完結する教室活動として行った事例です。準備もほとんどいりません。

活動のねらい	準備・教材	活動内容（対話と協働）
活動1: 地震について知る（30分）	○ホワイトボード ○過去の地震の写真（新聞記事）	①「3.11」とボードに書き、東日本大震災の時どこにいたかを話す ②写真を見て感想を述べ合う ③新聞記事からキーワードを提示する
活動2: 地震が起きたとき対処できる (30分)	○防災カード (Webより入手)	①グループで地震のとき周りでどんなことが起こるか話し合う →どう対処するか話し合う ②防災カードを使って、行動する順番を決める →他のグループと共有→理由を質問し合う ③自宅以外の様々な場所での対処法について話し合う
活動3: 避難袋を常備する (30分)	○避難袋・防災グッズ（持参） ○防災グッズカード (Webより入手)	①「非常持ち出し袋」の中身を紹介（手動懐中電灯・ラジオ、簡易トイレ、防災シートなど）→ほかに何が必要か話し合う ②グループで防災グッズカードを使って何を持って行くか優先順位を考える／どうしても持っていきたいものがあったらカードに絵を描く（文字を書く） →他のグループと共有する：優先理由を質問・説明し合う
活動4: ふりかえり (30分)	○ふりかえりシート	①我が家の防災対策をふりかえりシートに記入する →発表する



実践してみましょう。

4 活動案をつくる

活動案／記録	担当者：		記録者：
教室名		実施クラス	
テーマ／目標			
テーマ決めの経緯			
活動日時			
活動場所			
参加者			
協力者			
活動のねらい	準備・教材	活動内容(対話と協働)	
参加者の声			
担当者の所感			

【参考1】標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例

I 健康・安全に暮らす [7単位]

01 健康を保つ [3.5単位]

(01) 医療機関で治療を受ける [2単位]

- 01隣人に容態を伝えて助言を求める
- 02初診受付で手続をする
- 03医者 の 診察を受ける
- 04病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する

(02) 薬を利用する [1単位]

- 01医療機関で処方せんをもらい、内容を確認する
- 02症状を説明し、薬を求める
- 03薬剤師等の「効能、用法、注意」の説明を理解する

(03) 健康に気を付ける [0.5単位]

- 01流行性の病気についての情報を理解し適切に対処する
- 02食品や飲料水の安全情報を理解する

02 安全を守る [3.5単位]

(04) 事故に備え、対応する [2単位]

- 01各種の標識・注意書き等を理解する (高電圧危険, 感電注意, 立入禁止等)
- 02有効な施錠の仕方について理解する
- 03警察 (110番) に電話する
- 04近くの人に知らせる (事件等)
- 05救急車を要請する
- 06近くの人に知らせる (事故等)

(05) 災害に備え、対応する [1.5単位]

- 01自治体広報, 掲示, 看板等を理解し, 現地を確認する
- 02避難場所・方法を理解する・人に聞く
- 03☆地震について理解する
- 04身を守る (地震発生時)
- 05☆台風について理解する
- 06天気予報・台風情報に留意し理解する
- 07消防・救急 (119番) や警察 (110番) に電話する (火災等)

II 住居を確保・維持する [2単位]

03 住居を確保する [1.5単位]

(06) 住居を確保する [1.5単位]

- 01不動産業者に相談する
- 02居住する地域を選択する
- 03賃貸契約をする
- 04引っ越し業者に依頼する
- 05必要な手続を行う

04 住環境を整える [0.5単位]

(07) 住居を管理する [0.5単位]

- 01☆開始手続について理解する
- 02申込みをする (電気, ガス, 水道等)

III 消費活動を行う [4.5単位]

05 物品購入・サービスを利用する [3単位]

(08) 物品購入・サービスを利用する [3単位]

- 01必要な品物を扱う店等を探す
- 02☆目的によって店舗の種類を使い分けることを知る
- 03販売しているところを探す
- 04デパート, スーパーマーケット, コンビニ, 電器店, 書店等で買い物をする
- 05店内の表示を見たり店員に尋ねて欲しいものの場所を探す
- 06売り場を尋ねる
- 07店員に商品について尋ねる
- 08値段を知る
- 09商品の機能や値段を尋ねる
- 10商品の表示を読む
- 11値段・税率を計算する
- 12試着を申し出る
- 13色違いのものを頼む
- 14サイズの変更を申し出る
- 15ポイントカードや割引券を利用する
- 16クレジットカードを利用する
- 17必要なものを選んで購入する
- 18支払いをする (対面販売)
- 19返品・交換をする
- 20注文する
- 21店ごとに受けられるサービスと代価を理解する (飲食店等の利用)
- 22希望の食べ物を扱う店を探す
- 23電話で予約する
- 24店員と話す
- 25店で人数や禁煙・喫煙などの希望を伝える
- 26メニューを読む
- 27メニューを選んで注文する
- 28食券を買う
- 29追加の注文をする
- 30支払いをする (飲食店)
- 31☆店ごとに受けられるサービスと代価を理解する (各種サービスの利用)
- 32店舗を探す
- 33利用方法を知る
- 34コンビニエンスストアのサービス (ATM, ファックス, 公共料金の支払い等) を利用する
- 35クリーニング店, レンタルビデオ店, 美容院, 理容店を利用する
- 36商品に添えられた情報を的確に理解する
- 37新聞広告・折り込み広告を理解する

- 38レシートを確認する
- 39レシートを理解する
- 40代金を支払う
- 41カードの利用の可・不可を確認する

06 お金を管理する [1.5単位]

(09) 金融機関を利用する [1.5単位]

- 01申込みをする(口座開設)
- 02預金の引出しをする

IV 目的地に移動する [3.5単位]

07 公共交通機関を利用する [2.5単位]

(10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する [1.5単位]

- 01発車する時刻や掛かる時間を尋ねる
- 02目的地への行き方を尋ねる
- 03券売機を利用する

(11) タクシーを利用する [1単位]

- 01タクシー乗り場を探す
- 02道路でタクシーを止める
- 03行き先を告げる
- 04運賃を聞き取り、支払う

08 自力で移動する [1単位]

(12) 徒歩で移動する [1単位]

- 01住所表示、交差点名、街の案内地図などを読む
- 02地図上で目的地を確認する
- 03地図を書いてもらう
- 04目的地の方向や距離を確認する
- 05目的地までの道を尋ねる

VII 人とのかかわる [2.5単位]

14 他者との関係を円滑にする [2.5単位]

(31) 人と付き合い [2.5単位]

- 01☆あいさつの種類と目的を理解する
- 02☆TPOに合った適切なあいさつ形式を理解する
- 03時宜に合ったあいさつを学んで実行する
- 04☆あいさつの文化的相違を理解する
- 05相手に合わせたあいさつをする
- 06日常のあいさつをする
- 07人間関係のきっかけを作るあいさつをする
- 08☆自己紹介の仕方を理解する
- 09☆相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する
- 10仕事上の公的な自己紹介をする
- 11私的な場面で自己紹介をする
- 12分からないとき、疑問に思ったとき信頼できる相手に質問する(日本の一般的なマナー等について)

VIII 社会の一員となる [4.5単位]

15 地域・社会のルール・マナーを守る [2.5単位]

(33) 住民としての手続をする [1単位]

- 01☆各種手続の種類や内容について理解する
- 02役所の受付で外国人登録窓口の場所を尋ねる

- 03支払方法を確認する(各種税金)
- 04必要性を確認する(確定申告、還付申告)

(34) 住民としてのマナーを守る [1.5単位]

- 01居住地域のゴミ出しについて地域の公的機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する
- 02居住地域のゴミ出しの方法について隣人に質問する
- 03マナーについて人に相談する

16 地域社会に参加する [2単位]

(35) 地域社会に参加する [2単位]

- 01居住地の自治会について隣人に尋ねる
- 02自治会の会員になる
- 03行事に参加する

IX 自身を豊かにする [2単位]

20 余暇を楽しむ [2単位]

(44) 余暇を楽しむ [2単位]

- 01☆余暇を過ごす場所や利用方法を知る
- 02適当な人からアドバイスをもらう
- 03同僚や周囲の人からの口コミ情報を得る
- 04☆施設の種類の種類や制度について知る(地域の公共施設)
- 05利用方法を尋ねる(地域の公共施設)

X 情報を収集・発信する [4単位]

21 通信する [3.5単位]

(45) 郵便・宅配便を利用する [2単位]

- 01☆郵便局のシステムを理解する
- 02手紙や葉書を書いて送る
- 03不在配達通知に対応する
- 04宅配便を受け取る

(46) インターネットを利用する [0.5単位]

- 01☆インターネットのサービス内容・利用方法を理解する
- 02インターネット検索の方法を人に尋ねて理解する
- 03電子メールを書く

(47) 電話・ファクシミリを利用する [1単位]

- 01電話を掛ける
- 02応答する

22 マスメディアを利用する [0.5単位]

(48) マスメディア等を利用する [0.5単位]

- 01テレビ番組を見る

※「I」～「X」は生活上の行為の大分類、「01」～「22」は中分類、「(01)」～「(48)」は小分類に対応している。なお、「標準的なカリキュラム案」120ページ「生活上の行為の分類一覧」から「V 子育て・教育を行う」及び「VI 働く」を省いている。

※「(数字)」は基本的な生活基盤の形成に不可欠である、又は、安全に関わり緊急性があるために必要不可欠な生活上の行為の事例を示す。「☆」は基本的な生活基盤の形成、又は安全に関わり緊急性があるため、情報として知っておく必要があると考えられるものを示す。

【参考2】「標準的なカリキュラム案」で「防災(地震)」を考えてみましょう

- 1 まず『標準的なカリキュラム案』P.120で、「生活上の行為の分類一覧」を確認します。防災については、「大分類 I 健康・安全に暮らす」の「中分類 02 安全を守る」の「小分類 (05) 災害に備え、対応する」が該当します。

- 2 次に、P.124の表で事例を確認しましょう。たとえば…

0501130	公共の防災・防災に関するアナウンスを聞く
0501140	防災訓練に参加する
0502010	★ 地震発生時に適切に行動する
0502010	★ 地震について理解する
0502020	★ 身を守る
0502030	避難する
0502040	避難の指示に従う
0502050	避難訓練等で学んだことを生かし適切に避難する
0502060	情報を正確に理解する
0502070	震災直後のマスコミ情報を理解する
0502080	人に聞く
0502090	★ 人を助ける
0502100	★ 他の人に助けを求める
0502110	★ 家族・近隣の住民と相互に助け合う
0502120	食料を確保する
0503010	★ 台風発生時に適切に行動する
0503010	★ 台風について理解する

- 3 さらに、P.22～25の表で、どんなことができるようになるか、どんな日本語が学べるかなどを参考にしましょう。

0502010	★ 地震について理解する	身を守る	身を守る方について説明を読んでも理解できる	身を守る方について人に質問して理解できる	家族 近隣 友人 教師
0502020	★ 身を守る	身を守る	身を守る方について説明を読んでも理解できる	身を守る方について人に質問して理解できる	家族 近隣 友人 教師

- 4 『教材例集』P.55～71を参考に教材を準備しましょう。



ポイント

カリキュラム案はあくまで参考資料です。
このとおりに行う必要はありません。
学習者の状況やニーズに合わせてアレンジしましょう。

1 生活上の行為の分類一覧

大分類	中分類	小分類
I 健康・安全に暮らす	01 健康を維持する	0101 健康を維持する
	02 安全を守る	0201 安全を守る
	03 生活の質を高める	0301 生活の質を高める
	04 社会参加する	0401 社会参加する
	05 災害に備え、対応する	0501 災害に備え、対応する
	06 環境を保全する	0601 環境を保全する
	07 文化を継承する	0701 文化を継承する
	08 国際理解を深める	0801 国際理解を深める
	09 生涯学習を続ける	0901 生涯学習を続ける
	10 社会貢献する	1001 社会貢献する
	11 自己実現を図る	1101 自己実現を図る
	12 夢をかなげる	1201 夢をかなげる
	13 未来を創る	1301 未来を創る
	14 社会を築く	1401 社会を築く
	15 未来を築く	1501 未来を築く
	16 未来を築く	1601 未来を築く
	17 未来を築く	1701 未来を築く
	18 未来を築く	1801 未来を築く
	19 未来を築く	1901 未来を築く
	20 未来を築く	2001 未来を築く
	21 未来を築く	2101 未来を築く
	22 未来を築く	2201 未来を築く
	23 未来を築く	2301 未来を築く
	24 未来を築く	2401 未来を築く
	25 未来を築く	2501 未来を築く
	26 未来を築く	2601 未来を築く
	27 未来を築く	2701 未来を築く
	28 未来を築く	2801 未来を築く
	29 未来を築く	2901 未来を築く
	30 未来を築く	3001 未来を築く

評価項目	評価内容
0501	0501130 公共の防災・防災に関するアナウンスを聞く 0501140 防災訓練に参加する
0502	0502010 ★ 地震発生時に適切に行動する 0502010 ★ 地震について理解する 0502020 ★ 身を守る 0502030 避難する 0502040 避難の指示に従う 0502050 避難訓練等で学んだことを生かし適切に避難する 0502060 情報を正確に理解する 0502070 震災直後のマスコミ情報を理解する 0502080 人に聞く 0502090 ★ 人を助ける 0502100 ★ 他の人に助けを求める 0502110 ★ 家族・近隣の住民と相互に助け合う 0502120 食料を確保する
0503	0503010 ★ 台風発生時に適切に行動する 0503010 ★ 台風について理解する

評価項目	評価内容
0501	0501130 公共の防災・防災に関するアナウンスを聞く 0501140 防災訓練に参加する
0502	0502010 ★ 地震発生時に適切に行動する 0502010 ★ 地震について理解する 0502020 ★ 身を守る 0502030 避難する 0502040 避難の指示に従う 0502050 避難訓練等で学んだことを生かし適切に避難する 0502060 情報を正確に理解する 0502070 震災直後のマスコミ情報を理解する 0502080 人に聞く 0502090 ★ 人を助ける 0502100 ★ 他の人に助けを求める 0502110 ★ 家族・近隣の住民と相互に助け合う 0502120 食料を確保する
0503	0503010 ★ 台風発生時に適切に行動する 0503010 ★ 台風について理解する

第 3 章

実践してみました



「行動・体験型」活動では、実際に出てきた日本語をひろって、
対話を広げ、学びにつなげていくことが大切です。
すべてを網羅しているわけではありませんが、実践の中で
出てきた日本語の一部を下記の記号でご紹介しました。



こんな日本語ができました

- ☆ … 学習者からのことば
- ♡ … 日本語ボランティアや協力者からのことば
- 📎 … テーマにあわせて、あらかじめボランティアや
協力者が準備して学んだ語彙

1 電車で出かける

実践した教室

- ・日曜日の午後に開催している地域の教室です。
- ・学習者の多くはアジア圏から来た近隣企業で働く技能実習生です。
- ・ボランティアはおもに近くに住んでいる人たちです。
- ・教室の開催施設が主催者で、職員がサポートしています。
- ・有償の日本語コーディネーター（指導者）と専任のシステム・コーディネーターがいます。
- ・日本語コーディネーターは教室のコースデザイン・進行や関係者間の調整などを行います。

活動のテーマと目標を設定する

コース開始前の担当者会議（日本語コーディネーター3名とシステム・コーディネーター）で、学習者の日本語使用状況や使用領域とアンケートによるニーズ調査からテーマを決定しました。

学習者の状況

- 会社と家や寮の往復の毎日で、日本人との交流が少ない
- 普段、同じ国の人と行動を共にしている

学習者の声

- 日本人と一緒に出かけたい!
- 行ってみたい場所について話したい!

テーマ

出かける

目標

公共交通機関を使って、行ってみたい場所へ行くことができる



活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ パンフレット等から必要な情報を読み取る ・「行ってみたい場所」について話し合う。 ・行く場所を決める。 ○ 体験に必要な行為を理解する ・目的地に行く方法を知る。 ・目的地で何ができるか話し合う。 ○ お知らせ文書を理解する ・文書を読んでみる。	○ 学んだ日本語が使えることを実感し、生活と結びつける ・教室の最寄り駅に集合し、岡崎城に一緒に出かける。
専門家や地域住民との協働	特になし	特になし

活動案をつくる

※ ここでは活動案 (→P. 25) の一部を掲載しています

活動日時		1日目 6月8日(日) 13:30～15:00 2日目 6月15日(日) 13:30～15:00 3日目 6月22日(日) 12:00～16:00		
参加者		学習者 17名 技能実習生および製造業労働者 日本語レベル:初級 出身国:中国・タイ・インド・ベトナム・スリランカ ボランティア 8名 日本語コーディネーター 3名 事務局 1名		
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	必要な情報を読み取る	90分	○ 名古屋市・豊田市・岡崎市の観光案内 ○ 施設のパンフレット ○ iPad ○ 地図 ○ ワークシート	行き先を決める 1 学習者とボランティアがペアになって観光案内や有名施設のパンフレットやiPadを見ながら「行ってみたい場所」について話し合う。 2 ワークシートに話し合ったことを記入する。「何がありますか」「何ができますか」「何がしたいですか」 3 各自が「行ってみたい場所」を伝え合う。 → 一緒に出かける場所を決定する。
2日目				
活動2	体験に必要な行為を理解する	60分	○ 写真(最寄駅や乗り換え駅の時刻表、路線図、駅構内) ○ 行く場所のパンフレット ○ 入館料金表など ○ iPad ○ ワークシート	行き方を理解する 1 行く場所までの交通機関、またそこで何ができるか、学習者と日本語パートナーで話し合う。 2 ワークシートに記入する。「何がありますか」「どうやって行きますか」「(時間は)どれくらいかかりますか」「(お金は)いくらかかりますか」 3 調べたことを伝え合う。
活動3	文書を理解する	30分	○お知らせ文書	お知らせ文を読む 1 「〇〇へ行こう!」のお知らせ文を読む。ボランティアに「やさしい日本語」に直してもらい、必要な情報を読み取る。(日時・集合場所・持ち物 など)
3日目				
活動4	出かける	4時間	○ふりかえりシート	学んだ日本語を使えることを実感し、生活と結びつける 1 路線図と料金表を読んで切符を購入する。 2 電光掲示板などの駅構内の表示を理解する。 3 一人ずつ施設へ入館する(料金表を読んで窓口でチケットを購入する。 4 「したいこと」をする。
	ふりかえり	15分		ふりかえりシートに「したこと」「できたこと」を記入して伝え合う。

事前の準備・下調べ

- 候補地を選ぶ(費用はいくらかかるか / 所要時間が適当か / 教室活動にふさわしい場所かどうか使用される日本語がふさわしいかどうか)
- 出かける場所が決まったら活動2の前に、現地を下見し、実際の所要時間を調べ、写真を撮っておく。また、現地でどんなことができるか体験してみる。

活動1 行先を決める

- 1 学習者とボランティアがペアになって、観光案内、有名施設のパンフレット、iPadを見ながら「行ってみたい場所」について話しました。
- 2 ワークシートに話したことを書きました。
- 3 各自が「行って見たい場所」を伝え合いました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ サムライがいます
- ☆ お城が見たいです
- ☆ サムライに会いたいです



行き先は『岡崎城』に決定!



行ってみたい場所

なまえ

なにがいますか？ありますか？	なにができますか？	なにがしたいですか？



活動2 行き方を理解する

- 1 『岡崎城』までどうやって行くのか、写真やiPadで交通機関を調べながら話しました。
- 2 ワークシートに記入しました。
- 3 調べたことを伝え合いました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 名鉄電車で行きます
- ☆ 1時間かかります
- ☆ 940円かかります
- ☆ 大人一人200円です

活動3 お知らせ文を読む

学習者とボランティアがペアになって「お知らせ文」を読みました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 「雨天決行」ってどんな意味？
→ ♡「雨でも行きます」ということだよ
- ☆ 「緊急連絡先」とは何？
→ ♡急に電話をかけたい時の番号が書いてあるよ

わからない言葉を
ボランティアが
「やさしい日本語」に
言い換えました。

翻訳するのではなく、
日本人向けの文書に
ルビをふりました。

お知らせ文
岡崎城に出かけよう！



- 日時 6月22日(日) 午前12時から16時30分まで
- 場所 岡崎城
岡崎市康生町56-1(岡崎公園内) *雨天決行
- 集合場所と時間 玄関前12時 (竹村駅12時15分)
- 持ち物 交通費(900円)と入場料(200円)、飲み物、
ワークシート、筆記用具(鉛筆、ボールペン、消しゴムなど)
- 緊急連絡先 携帯 XXXXX

(メモ) 名前 _____

活動4 学んだ日本語が使えることを実感し、生活と結びつける

教室の最寄り駅に集合し、名鉄電車で岡崎公園へ一緒に出かけました。

- 1 実際に時刻表や路線図を見て、電車の料金を確認しました。
- 2 日本人と一緒に、初めて切符を買いました。
- 3 プラットフォームを降りて、電車の乗り換えをしてみました。



こんな日本語ができました

♡ 普通しか止まらないよ

☆ 『普通』と『急行』の違いは何？

☆ 『先発』と『次発』の意味は何？



教室で学んだ
言葉を使って
言えました！！

[illegible]

- 4 岡崎城の料金表を見て、金額を確認しました。



こんな日本語ができました

☆ 大人一人、いくらですか？

- ⑤「したいこと」をしました。
…展示物を見る、戦国武将隊(サムライ)と一緒に踊る



こんな日本語ができました

☆ (サムライと握手をして) 胸がキュンとしました

♡ 岡崎公園の中にお城があります

実践を終えて

- 教室の外に出て実際に活動することで、当初立てた目標や目的がさらに広がった。
- 活動を始める前に下見したことで、当日の時間管理がしっかりできた。
- 学習者やボランティアの意外な一面を見ることができて、双方の関係が深まり、距離が縮まった。
- 電車の乗り換えや路線図の読み方など、教室で学んだことを実際にやることで、学習者が自信をもって日本語を使用し、行動することにつながった。（後日、友達を岡崎城に連れて行った学習者がいた）
- 費用や保険など、学習者への配慮が必要である。
- 教室の学習だけでなく、実際に外に出ることで自信をもって行動範囲を広げられるといい。
- これで一人で出かけることができる。



ポイント

- 入念な計画と準備が重要！
- 時間管理をしっかりと！

2 自転車で出かける

実践した教室

- ・日曜日に開催している地域の教室です。
- ・今回、教室に参加したのは、
 - 毎週、日本語教室に来ている学習者
 - 学校の授業が終わってから学校の勉強をしに来る外国人の子ども達とその親
 - 近隣に住む日本人（よく自転車を利用する人）
 - 日曜日に学習者の支援をしている日本人

活動のテーマと目標を設定する

教室に自転車でくる学習者が多い。しかし、自転車の正しい交通ルール知っている人は意外に少ないとわかったので、教室の日本人支援者で決定しました。

学習者の状況

毎日通勤に自転車を利用している技能実習生、よく自転車进行り回している子ども達。しかし、日本で自転車の交通ルールをきちんと教えられたことはない。

学習者の声

ベトナムでは1台の自転車に大人が3人ぐらい乗っていることがあるが日本はどうか。



テーマ

自転車の交通ルール知ってる？

目標

学習した正しい自転車の交通ルールを理解して、自転車を活用した地域のイベントに参加する。

活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ 自転車による事故、困ったことなどの経験を参加者で話し合う。 ○ 専門家による交通指導 ・ 自転車の基本的な交通ルールの話を聞く。 ・ DVDを視聴してよくある事故、注意すべきことなどの話を聞く。 ○ 質疑応答 ・ 話を聞いて質問があったら警察官にどんどん質問する。	○ 地域の行事に参加して、学習したことを実践する。
専門家や地域住民との協働	警察官、地域の自転車愛好家	・ イベント主催者、協賛者

事前の準備・下調べ

- 警察官、地域の自転車愛好家との日時の摺合せ
- イベント主催者と外国人参加についての話し合い（参加費などについて）
- イベントのチラシ、走行マップを事前に入手して走行可能か検討
- できる限りの範囲で走行コースを下見

活動日時	1日目 10月5日(日) 10:00~15:00 2日目 10月12日(日) 8:45~15:00 3日目 10月19日(日) 10:00~12:00			
参加者	1日目 29名(ペルー・中国・ミャンマー・ベトナム・ボリビア・ブラジル・日本) 2日目 11名(ベトナム・ロシア・ペルー・日本) 3日目 15名(ベトナム・ロシア・中国・ミャンマー・フィリピン・ペルー) 日本語サポーター 4名			
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	日本における自転車の正しい交通ルールを知る	120分	○参加者用いす ○プロジェクター・スクリーン・マイク ○ホワイトボード・WH用ペン	専門家(警察官)による話 1 今まで自転車に乗っていて困ったことがあったか、など自転車についての経験などを話し合う。 2 DVDを見ながら、自転車でよく見られる事故の話、自転車のルールについての詳しい説明などを聞く。 3 警察官にわからないことを質問する。
活動2	自転車走行中に自転車に何かあった時の対処方法を知る	60分	ブルーシート・自転車(スポーツタイプ、一般的なもの)	地域の自転車愛好家による自転車の整備の話 ○実際に自転車を使ってチェーンが外れたときどうするか、パンクしたときはどうするかなど具体例を挙げてアドバイスしてもらう。
活動3	○自分の住む地域を知る ○イベントの詳細と走行する場所を確認する	60分	○イベントの案内チラシ・模造紙・サインペン ○立ち寄り拠点の写真やイラスト・桃太郎の紙芝居	参加する地域のイベントについてみんなで予習しておく ○イベントの案内チラシを参考に走行マップを作る。(各拠点がどんな所か、何が行われているかなどを距離や勾配と共に地図に記入。)
2日目				
活動4	1日目の活動で学習した自転車の交通ルールを実践する	7時間	○集合場所と時間の確認 ○イベント参加受付をしておく。(参加者用のTシャツ、スタンプラリー付マップをもらう)	地域のイベントに参加する 1 自転車で33kmをみんなで走る。→交通ルールを再確認する。 (走行中に会った人々と交流を図る。スタンプポイントで行われている行事に積極的に参加する。)
3日目				
活動5	○学習した交通ルールを守って走ったか再確認する ○日本語の学習に役に立ったかなど考える	120分	○プロジェクター・スクリーン・1日目、2日目の活動記録写真 ○A3画用紙・ ○付箋紙 ○1日目で作ったロードマップ ○ふりかえりシート	1日目、2日目の活動についてふりかえる 1 1日目の活動を写真を見ながらふりかえる。 2 各自メモ用紙に覚えている自転車のルールを書く。(全員書き終わったら順番に読み上げる。学習者の代表が画用紙に箇条書きする。できあがったものをみんなで確認する。) 3 2日目の活動の記録写真を見る。 4 学習した自転車のルールを守って走ったか話し合う。 5 1日目に作ったロードマップに、イベントに参加して走行中にあったこと、したこと、見たことなど走る前と実際に走った後の感想など付箋紙に書き、ロードマップに貼ってマップを完成する。 6 ふりかえりシートに気になった日本語、覚えた日本語などを書く。

活動1 日本における自転車の正しい交通ルールを知る (警察官の話)

- 1 DVDを見ながら、よくある事故を知りました。
- 2 事故を避けるために、交通ルールを教えてもらいました。
(警察官の話に出てくる言葉、文を図などを使って説明)
- 3 ワークシートに記入しました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 油断は大敵
- ☆ ヘッドフォン
- ♡ 迷走、共済、加害者
- ☞ 路側帯、内輪差、歩道、二人乗り、
防犯登録、一時停止



活動2 自転車走行中に何かあったときの 対処方法を知る

- 1 乗る人に適切なサドルの高さの決め方を学びました。
- 2 チェーンが外れたとき、パンクした時など
事故の対処法を学びました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ 空気を入れる、パンク、ブレーキ、
自転車の整備

事前の打ち合わせが大事。
学習者が対処法を良く知っていたので、学習者が先生になるのもよかったかも。



活動3 参加する地域のイベント『自転車散歩in いぬやま』 の内容をみんなで確認

イベント案内のチラシを読みました。(どんなイベントなのか詳細を知る)
チラシを参考にロードマップを作りました。(走行中に立ち寄り場所、距離、
道路状況、すること、などをマップに書き込みました)



こんな日本語が出てきました

- ☆ 桃太郎神社?“神社”は知っているけど。
- ♡ (愛知) 用水、急な登り坂、下り坂
- ☞ グルメで巡る、産業振興祭、学園祭



活動4 イベントに参加して、学習した自転車の交通ルールを実践する

- 1 交通ルールを守って、安全走行することをみんなで確認しました。
- 2 棄権するときの対処法をみんなで確認しました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ ゴール目指してがんばるぞ!
- ☆ OOさん だいじょぶ?
- ☆ 気持ちいい〜!
- ♡ ゆっくり行きましょう
- ♡ ラジオ体操



活動5

自転車の交通ルールの再確認。 交通ルールを守って走行できたかふりかえる

- 1 覚えている交通ルールを付箋紙に書きました。
- 2 書き終わったら各自書いたものを読み上げました。
(学習者の代表が聞いたことを画用紙に箇条書きし、みんなで読み上げました)
- 3 走行中にしたこと、あったこと、見たこと、感じたことなどを各自付箋紙に書き、書いた人が読み上げて、マップに貼っていました。
- 4 「ふりかえりシート」に記入しました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ わき見運転って知ってる?
- ☆ きれいな女の人を見たときにするんだよ
- ☆ ナンパ?
- ♡ 手放し運転はだめだよ
- ☆ 走行中に急な下り坂が楽しくて、してしまった
- ☆ あっ、鵜だ
- ☆ 田楽?

実践を終えて

- 学習者からは、「とてもおもしろかったです」「面白くて楽しかった」「自転車のルールを覚えめました」「新しい言葉を覚えめました(鴨)」「もう1回したいです」「今日のテーマは楽しかった」「みんなと話して楽しかった」「これから日本の生活のことばを勉強したい」「日本文化を学習したい」などの声が聞かれた。
- 学習者は、「日本語の学習」ということなど意識しないで、自分の知っている日本語でいろいろな国の人と交流していたのが印象的だった。
- 何気なく利用している自転車にもこんな交通ルールがあるのだということを理解してもらえた。
- 日本語サポーターの中には、日本語が上手な学習者も加わって、通訳の役割を果たすことにより、レベル0の人たちにも楽しく参加してもらえた。



ポイント

- 地域のリソースに協力していただくとき、事前の打ち合わせは大切。
複数のところに依頼するときは特に、話が重複しないよう調整する必要がある。
- 学習者のニーズだけでなく、知識や経験も聞いておくことが必要。

3 図書館を利用しよう

実践した教室

- ・市の国際交流協会が主催している。
- ・平日の午前中に開催していて、中国、ベトナム、ロシアなどの主婦や子育て中の学習者もいる。
- ・ボランティアは教室の近くに住んでいて年齢や性別はさまざまである。

活動のテーマと目標を設定する

- ・ボランティア同士の会議で、教室から歩いて行けるという利便性を考えて図書館を使用することにしました。
- ・図書館に依頼する活動について具体的に話し合い、依頼書を作成し、国際交流協会から頼んでもらいました。

学習者の状況

- 子育て中の主婦が多い。
- 初級終了程度が多い。

学習者の声

- 市の公共施設の利用法について知りたい。
- 子どもに絵本を読み聞かせたい。

テーマ

図書館を利用する

目標

図書館を訪問して利用方法やサービスの内容を知る。



活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	・学習者の国の図書館についての体験談やルールを話す。 ・図書館員に持ってきたもらった利用カード申請書に必要事項を記入する。⇒図書館員に申請書を持ち帰ってもらい、来週の訪問時には貸し出しカードを受け取ることができるようにしておく。 ・借りたい本について話し合いながら決める。	・図書館を訪問して、貸し出しカードを受け取る。 ・本の貸し出し・返却方法を知る。 ・借りたい本を実際に借りてみる。
専門家や地域住民との協働	・出前講座（「ようこそ図書館へ」）で、図書館員に図書館の紹介をしてもらう。	・図書館員に館内を案内してもらう。 ・子どもたち向けに読み聞かせの実演をお願いする。

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時	1日目 9月25日(木) 10:00～11:30 2日目 10月 2日(木) 10:00～11:30 3日目 10月 9日(木) 11:00～11:30			
参加者	学習者 5名 入門レベルから中・上級者、出身国:中国、ベトナム、ロシア 支援者 7名			
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	図書館が どんなところ かイメージをつかむ	90分	○図書館の案内図 ○貸し出しカード申請書 ○身分証明書 ○語彙リスト	図書館ってどんなところ？ 1 出前講座(「ようこそ図書館へ」)で、図書館員の人に話をしてもらう。 2 図書館員の説明を聞いて、申請書にボランティアと一緒に必要事項を記入する。 3 次回図書館で借りる本を決める。
2日目				
活動2	(図書館で) 本の貸し出し・返却方法や館内のサービス内容を知る	90分	○貸し出しカードを受け取る。 ○学習者の居住地区の公共施設案内 ○会議室の予約 ○読み聞かせの実演をお願いしておく。	図書館へ行ってみよう！ 1 ボランティアとペアになり、借りたい本を探す。 2 係りの人に質問したり、パソコン(OPAC)で検索したりする。 3 返却方法(返却ポストを含む)を聞いてボランティアと一緒に自宅の最寄りの返却場所を調べる。 4 お話コーナー(親子で声に出して絵本が読める場所)で、絵本の読み聞かせの実演してもらう。 5 図書館のイベント案内をしてもらう。
3日目				
活動3	図書館へお礼の手紙を書く	15分	○メッセージカード	図書館へお願いしよう！ 1 図書館を利用して良かった点、改善してほしい点を話し合う。 2 ボランティアと一緒に図書館の人へお礼のことばを書く。
ふりかえり	図書館でできたことをふりかえる	15分	○ふりかえりシート	ふりかえり ○図書館を利用した感想を話し合う。 ○できたこと、難しかったことについて書く。

事前の準備・下調べ

- 国際交流協会から図書館へ依頼してもらう計画書を作成する。
- 貸し出しカードを出前講座の時に持ってきてもらい、活動当日に受け取れるように計画する。
- 図書館員とボランティア間でしっかり打ち合わせをする。
- 出前講座の講師に、「やさしい日本語・つたわる日本語」で説明するように頼む。
- 借りたい本が見つからない場合を考えて、あらかじめ指定した本のリストを作成する。

活動1 図書館ってどんなところ？

- 1 出前講座（「ようこそ図書館へ」）で図書館員の人に話をしてもらいました。
- 2 図書館員の説明を聞いて申請書にボランティアと一緒に必要事項を記入しました。
- 3 次回、図書館で借りる本を決めました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ 月曜日はお休みです
- ♡ 朝9時から夕方7時まで開いています
- ♡ 本は2週間借りることができます



活動2 図書館へ行ってみよう！

- 1 ボランティアとペアになり、借りたい本を探しました。
- 2 係の人に質問したり、パソコン（OPAC）で検索しました。
- 3 返却方法（返却ポストを含む）を聞いてボランティアと一緒に自宅の最寄りの返却場所を調べました。
- 4 お話コーナー（親子で声に出して絵本が読める場所）で絵本の読み聞かせの実演をしてもらいました。
- 5 図書館のイベント案内をもらいました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ 図書館が開まっているときは返却ポストに返すことができます
- ♡ 返却期限は守らなければいけません

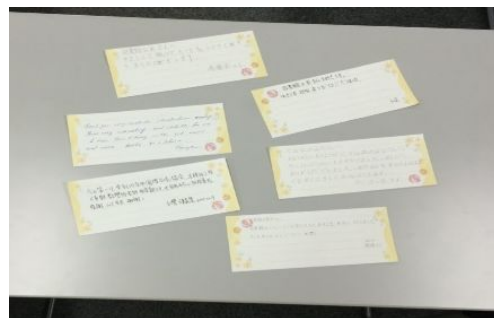
活動3 図書館へお願ひしよう！

- 1 図書館を利用して良かった点、改善してほしい点を話し合いました。
- 2 ボランティアと一緒に図書館の人へお礼のこたえを書きました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 漫画をもう少し増やしてほしいです
- ☆ 中国語の本はあったが、ベトナム語やハングルがなかったので入れてください



図書館の人にメッセージカードを書きました。
いろいろな要望が出ました。

活動4 ふりかえり

- 1 図書館を利用した感想を話し合いました。
- 2 できたことや難しかったことについて書きました。



こんな日本語ができました

- ☆ 本の返却は自分の住んでいるところの近くですることができるので便利
- ☆ 子供の本がたくさんあり良かった
- ☆ 中国語の本がたくさんあってよかった
- ☆ 読み聞かせコーナーがあった
- ☆ 自分の国の図書館より大きくて、本の種類がたくさんあった

ふりかえりシート

なまえ
名前

1. はじめて知ったこと

.....

3. よかったところ

.....

2. かりたほんのなまえ

.....

4. としょかんへのおねがい

.....

本棚のところに、絵と大きな字で本の種類（例：「料理の本」）が表示してあったので、今回のために特別に配慮してくださったことを知りました。
 図書館の方たちに感謝！

実践を終えて

- 出前講座の講師の話がわかりやすかった。事前に図書館の人とボランティアがしっかり打ち合わせをしておくことが大切だと感じた。
- 図書館員は積極的に図書館の利用案内の多言語版を用意するなど、外国人に図書館を利用してもらうための工夫をしてくれた。
- 本を実際に学習者に探してもらう計画がうまく行かなかったり、学習者の行動に日本語が伴っていないところがあった。
- 初めての「行動・体験型」の活動であったため、ボランティアには初め戸惑いがあったが、図書館の人と打ち合わせをしたり、学習者とペアで体験することを通して少しずつ活動への理解を深めることができた。
- 図書館の人には学習者が書いたお礼のメッセージを届けるとともに、今回うまくできなかったところの共有をしたいと思います。



ポイント

- 活動当日の流れについて、綿密な計画が必要！
- 公的な機関はとても協力的。今回のように国際交流協会と連携している場合は、前もって協力をお願いしておいてもらうと活動がスムーズ！

4

チラシを使って買い物しよう

実践した教室

- ・ 週1回平日の午前10:00～11:40に開催する地域の日本語教室です。
- ・ 学習者は 30代前後の既婚女性3名です。内2名は日本人配偶者です。
- ・ 日本語は入門か初級レベルで、日常会話は母語が英語です。

活動のテーマと目標を設定する

学習者に対して実施したアンケート「学習したい生活上の行為の事例」(カリキュラム案)で、「Ⅲ 消費生活を行う」の下位項目が一番たくさん選択されていました。

学習者の状況

- 買い物は必須行為
- 衣料品は興味・関心が高い

学習者の声

日本ではチラシをいっぱい見る。
しかし、内容が理解できない。



テーマ

チラシを使って買い物しよう

目標

チラシを見て、欲しい物をひとりで買うことができる

活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ チラシの役割がわかる ・ チラシについて知っていることや出身国のチラシのことを話し合う。 ・ チラシの役割について話し合う。 ○ チラシを正しく読むことができる ・ チラシの中から大切な情報を見つける。 ・ 衣料品店のチラシを見て、商品の情報を探す。 ・ 言葉の読みと意味を確認する。 ○ チラシを使ってわからないことを尋ねることができる ・ チラシを見て、欲しいものを決める。 ・ チラシで分からないこと、もっと知りたいことを話し合う。 ・ ロールプレイで店員に尋ねる練習をする。 ○ チラシを使った経験を伝えることができる ・ 持参したチラシや購入した物を見せながら、チラシを使った様子を発表する。 ・ もっと知りたいことを質問する。	○ チラシを使って買い物ができる ・ 欲しいものの場所を探し、店員にわからないことを尋ねる。 ・ チラシについて店員の話聞く。 ・ 店員との会話や聞いた話をワークシートに記入し、発表する。 ・ わかったことや難しかったことをふりかえりシートに記入する。
専門家や地域住民との協働	特になし	・ 衣料品店の店員にチラシを見せながら、わからないことを尋ねる。 ・ チラシについて店員の話聞く。

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時	1日目 9月30日(火) 10:00～12:00 (120分) 2日目 10月 7日(火) 10:00～11:40			
参加者	学習者 3名 (中国・韓国・台湾各1名) 日本語コーディネーター 1名 ボランティア 3名 (9/30のみ)			
活動のねらい	時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)	
1日目				
活動1	チラシの役割がわかる	10分	○ 新聞の折り込みチラシ ○ チラシがポスティングや掲示されている様子の写真	チラシって何？ 1 チラシや写真を見て、チラシについて知っていることを話し合う。 2 出身国のチラシについて話し合う。 3 チラシの役割について話し合う。
活動2	チラシを正しく読む	15分	○ 2～3種類のチラシ ○ 衣料品店のチラシ ○ ホワイトボード	いろいろなチラシを読もう 1 2～3種類のチラシを見て、大きくよくわかる言葉や数字を見つける。 2 衣料品店のチラシを見て「コレクション」「〇〇作」という言葉を探し、読みと意味を確認する。
活動3	チラシを使って分からないことを尋ねる	35分	○ 色・サイズなどを表す語彙表 ○ ロールプレイ役割カード	チラシを使って買い物の準備をしよう 1 チラシを見て、欲しい物を3つ決めて発表する。 2 チラシだけではわからなくて、もっと知りたいことを話し合う。 3 学習者が客、ボランティアが店員になってロールプレイで分からないことを尋ねる練習をする。
活動4	チラシを使って買い物ができる	55分	○ ワークシート	チラシをもって欲しいものを確かめに行こう 1 衣料品店に行く。 2 チラシを見せながら、分からないことを店員に尋ねる。 3 チラシについて店員の話の聞いたり、質問したりする。 4 ワークシートに記入する。
2日目				
活動5	チラシを使った経験を伝える	15分	○ 持参したチラシや購入した物	こんなことができたよ 1 チラシを使った様子を発表する。 2 もっと知りたいことを質問する。
ふりかえり		10分	○ ふりかえりシート	わかったことや難しかったことをふりかえりシートに記入する。

事前の準備・下調べ

- 多種類の品物のチラシを集めておく。
- 衣料品店に連絡し、チラシの簡単な説明を依頼しておく。

活動1 チラシって何？

- 1 チラシや写真を見て、チラシについて知っていることを話し合いました。
- 2 出身国のチラシについて話し合いました。
- 3 チラシの役割について話しました。

チラシを つかって かいもの しよう

なまえ ()

1. チラシについて、知っていることを 話しましょう

- > これは、何ですか？
- > どこで 見ましたか？
- > どんな品物の チラシが、 ありますか？
- > お国では、チラシは ありますか？
- > どうして チラシを 入れる(くばる)のですか？

2. いろいろな チラシを 読みましょう

- ① 大きくて よく わかる ことばや すうじを さがしましょう。

それを よみましょう。わからないときは、たずねましょう

※ みつけた ことばや すうじ

活動2 いろいろなチラシを読もう

「大きくてよくわかる」がわかりにくかったようです。

- 1 2～3種類のチラシを見て、大きくてよくわかる言葉や数字に○印を付けました。はじめはなかなか見つかりませんでしたが、「半額」「50%OFF」など、チラシによく使われる言葉や数字を見つけました。
- 2 衣料品店のチラシを見て、「コレクション」「〇〇作」という言葉を探しました。



こんな日本語ができました

- ☆ 半額、50%off
- ☆ 秋冬コレクション、ニットコレクション
- ☆ 自信作・注目作・新作



活動3 チラシを使って買い物の準備をしよう

- 1 チラシを見て、欲しい物を決めて発表しました。ご主人や子どもさんの物を選び、実生活に即して真剣に取り組んでいました。
- 2 チラシだけでは分からなくて、もっと知りたいことを付箋紙に記入し、みんなで話しました。
- 3 学習者が客、ボランティアが店員となって、ロールプレイで分からないことを尋ねる練習をしました。

この時、ボランティアも一緒に選ぶと、会話がはずみます。



こんな日本語ができました

- ☆ あかい いろが ほしいです
- ☆ ほかに なにいろがありますか？
- ☆ たつぷり？



ロールプレイでは、学習者が発話したいことをきちんと準備できるだけの時間的ゆとりが必要です。

活動4 チラシをもって欲しいもの確かめに行こう

衣料品店へ移動。

- 1 チラシを見せながら、分からないことを店員に尋ねました。
- 2 チラシについて店員の話聞き、分からないことを質問したり、出身国の状況を伝えたりしました。
- 3 店員に尋ねたことや店員の話ワークシートに記入し、発表しました。ワークシートには、自分なりの分かりやすい言葉で記入しました。



こんな日本語ができました

- ☆ 子どものベストはどこですか?
- ☆ すみません、これ、Sありますか?
- ☆ では、他のサイズを試着していいですか?
- ☆ 私の国では、この物はもっと高いです
- ☆ アプリは日本語だけですか?

店員と学習者だけの話し合いにしたのは効果的でした。



最近は「クーポン付きチラシ」が多く、利用価値も高いです。今後の活動に取り入れるといいです。

活動5 こんなことができたよ

- 1 持ってきたチラシや購入した物を見せながら、チラシを使った様子を発表しました。
- 2 発表を聞いて、もっと知りたいことを質問しました。
- 3 ふりかえりシートにチラシについて分かったことなどを書きました。



こんな日本語ができました

- ☆ これ、衣料品店で買いました
- ☆ 土曜日家族で、地下鉄の「駅ちかウォーク」に行きました。地下鉄の中でチラシを見ました。カードにスタンプを押しました。
- ☆ 入場料 300円、高い



実践を終えて

- 「他の店にも行きたいです。」「チラシの読み方がわかりました。」などの学習者の声が聞けた。
- 身近な商業施設を取り上げたことで学習に興味を抱き、活動をスムーズに進めることができた。
- 初対面の人との会話には緊張感はあるが、話す・聞く力を身につけるのに効果的であった。

ポイント

- テーマには“学習者の生活に即した活動”を
- ボランティアの役割とは“必要なときだけ日本語の支援をすること”と“学習者と同じ立場で活動に参加すること”

実践した教室

- ・ 週1回平日の午前10:00～11:30に開催する地域の日本語教室です。
- ・ 学習者は6名、年齢も国籍も異なり、半数は日本人の配偶者です。
- ・ 日本語は初級レベルです。

活動のテーマと目標を設定する

風邪で教室を休んだ人にどうしていたかを尋ねたところ、病院には行かず、買ってきてもらった薬を飲んだといいます。他の学習者も自分で薬を買ったことがない人ばかりでした。

学習者の状況

- 病気の症状を伝えられない
- 薬は人に頼んで買ってもらう

学習者の声

- 薬局に行っても、どんな薬を選んだらいいかわからない。

テーマ

ドラッグストアで薬を買う

目標

店員に症状を伝えて、必要な薬を買うことができる



活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ ドラッグストアがどんな店か知る ・ 何を買いに行くかを話す。 ・ 母国では薬をどこでどうやって買うかを話す。 ○ 体の部位や内臓の名称が言える ・ 目、頭などのことばを覚える。 ○ 一般的な病気の症状が説明できる ・ 風邪や腹痛の主な症状を話し合って出す。 ・ 発熱、咳などの症状を表す言い方を理解する。 ○ 自分の今、気になる症状を話すことができる ・ 気になる症状を話す。 ・ 店員に症状を説明する練習をする。 ○ 各国のドラッグストアや病気の対処法を知る ・ 日本との違いを話す。	○ 欲しい薬を買う ・ どこにでもある、入りやすい、大型のドラッグストアを探す。 ・ 店員との会話、理解したことをワークシートに記入し、発表する。 ・ わかったことやもっと知りたかったことをふりかえりシートに記入する。
専門家や地域住民との協働	特になし	・ ドラッグストアの店員に、欲しい薬がある場所を尋ねる。 ・ 自分の症状を話し、店員の説明を聞いて、たくさんある薬の中から選ぶ。 ・ 店員に薬の効用や商品の違いを尋ねる。

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時		1日目 10月 6日(月) 10:00～11:30 (90分) 2日目 10月13日(月) 10:00～11:30 (90分)		
参加者		学習者 6名(ドイツ・中国2名・タイ・イギリス・フィリピン) 日本語コーディネーター 1名 ボランティア 1名		
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	ドラッグストアについての情報を得る	10分	○新聞の折り込みチラシ	ドラッグストアって？ 1 ドラッグストアでどんな買い物をしているかを話し合う。 2 チラシを見て、ドラッグストアで売られている物を理解する。
活動2	一般的な病気の症状が説明できる	30分	○体の部位、内臓の名称イラスト(カリキュラム案教材例集)	体のどこがどうしたの？ 1 病気やケガの時、どう対応しているかを話し合う。 2 体の部位や内臓の名称が言えるように練習する。 3 体のどこが、どんな具合か説明する。
活動3	自分の気になる症状を話すことができる	30分	○ワークシート	症状をどう伝えたらいい？ 1 気になる症状があれば、薬があるかどうか、聞いてみる。 2 症状を正しく伝えるために必要なことばを理解する。 3 学習者が客、進行役が店員になって、分からないことを尋ねる練習をする。
活動4	どんな薬かラベルを読む	20分	○家庭にある薬 ○ワークシート	何を書いてある？ 1 普段、家庭でよく使う薬は何の薬か話す。 2 ラベルにある薬の効用、用法を読み、理解する。
2日目				
活動5	欲しい薬を買う	60分	○ワークシート	一人で薬も買えます 1 ドラッグストアの店員に、欲しい薬がある場所を尋ねる。 2 店員に薬の効用や商品の違いを尋ねる。 3 薬を買う。
ふりかえり		30分	○ワークシート ○ふりかえりシート	1 店員との会話、理解したことをワークシートに記入し、発表する。 2 わかったことやもっと知りたかったことをふりかえりシートに記入する。 3 母国での薬の買い方、病気の民間対処法を話し、国による違いを理解する。

事前の準備・下調べ

- ドラッグストアのチラシ、いろいろな市販薬の現物を用意する。
- ドラッグストアの店員に活動の目的を話し、協力をお願いする。

活動1 ドラッグストアって？

- 1 どんな時にドラッグストアへ行くかを話しました。
- 2 チラシを見て、ドラッグストアで買う物や他に売っている物について話し合いました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 風邪ひいた時、主人に薬を頼みます
- ☆ 虫のシュートやるの
- ☆ 洗剤やシャンプーを買います。子どものお菓子も。

よく利用するので、日用品名がたくさん出てきますが、「風邪薬」「虫刺され」など薬品名中心でさらっと挙げるだけにします。



体の部位や内臓の名称をすべて覚えることにより、自分の本当の症状が言えることを目指しましょう。

活動2 体のどこがどうしたの？

- 1 病気やけがの時、どうしているか話しました。
- 2 身体部位や内臓の名称を確認しました。
- 3 体のどこが、どんな具合なのか言ってみました。



こんな日本語が出てきました

- ☞ 頭が痛い
- ☞ 咳が出る
- ☞ 熱がある
- ☞ 気持ちが悪い



活動3 症状をどう伝えたい？

- 1 病院に行くほどではないが、ちょっと困っていることを話しました。
- 2 自分の説明が店員にわかってもらえるように、ことばや語句を考えました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 1ヶ月に1回お腹が痛い → ♡ 生理 (痛み止め)
- ☆ 仕事が終わると目赤い → ♡ 充血 (疲れ目、目薬)
- ☆ 暑くない、汗がたくさん → ♡ 更年期 (ホルモン剤)

- 3 ドラッグストアの店員との会話練習をしました。
- ・欲しい薬がある場所を尋ねる。
 - ・自分の症状を伝える。
 - ・良い薬をアドバイスしてもらう。



こんな日本語が出てきました

- ☞ すみません。頭が痛いんですが、薬はどこにありますか。
- ☞ 咳も出ます。どの薬がいいですか。
- ☞ アレルギーがあります。

内容によっては病院へ行くことを勧める方がよい場合もあります。



その人に必要だと思われることばは取り上げるようにします。異性間では、話にくいこともあるので、注意が必要です。

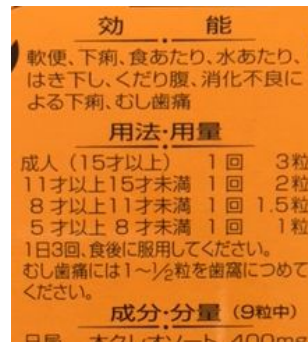
活動4 何が書いてある？

- 1 普段から家庭によく置いてある薬は何の薬か話し合いました。
- 2 ラベルにある薬の効能、用法を読み、正しい使い方を理解しました。



こんな日本語が出てきました

- 📌 塗り薬、スプレー、湿布、飲み薬、シロップ、錠剤・カプセル、1日3回・1回2錠、食前・食後
- ☆ 「食前・食後」はわかるけど、「食間」っていつ飲めばいいのかな？



活動5 一人で薬も買えます

- 1 ドラッグストアの店員に症状を話し、欲しい薬のある場所を尋ねました。
- 2 店員に薬の効用や飲み方、それぞれの商品の違いを尋ねました。
- 3 必要な薬を買いました。
- 4 店内のどこにどんな商品があるかを確認しました。
- 5 「ポイントカード」や「お買い得品」などについて理解しました。



こんな日本語が出てきました

- 📌 健康食品、サプリメント、ビタミン剤
- ♡ ご購入の際は、この空き箱を調剤室にお持ちください。
- ♡ どうしたらいいか、困ったときは、白い服を着た店員に説明してもらってください。
- ♡ ポイントカード、お持ちですか？
- ♡ ここにあるのは、お買い得品だよ。

実践を終えて

- 学習者から「人に頼まなくても、自分で買う自信が少しできました。」「これからは勇気を出して、質問します。」「日本の薬は種類がたくさんあって、どれを選べばいいのが困ったけど、買うことができました。」という感想が出た。
- あれこれと薬について質問した。うまく話せなくても、店員さんが丁寧に質問に答えてくれ、薬の飲み方や注意する点もよく理解できた。また、通じたことで、学習者の自信につながったと思う。
- 普段の授業では知る機会がなかった学習者の生活の様子がわかり、これからの活動の参考になった。



ポイント

- 生活者である学習者にとって、日本で暮らす上での不安を軽減するためには、「健康」に関わるテーマは大切
- 困った時は、文化庁作成のカリキュラム案がそのまま使える！

6

救急車が来るまでにできること

実践した教室

- ・週2回、平日の午前中に活動している地域の日本語教室です。
- ・学習者の国籍は10カ国以上で、8割以上が女性です。
- ・初級から上級までクラスがあります。

活動のテーマと目標を設定する

人の命を助けなければならない場面にいつ、どこで遭遇するかわかりません。とっさのときに必要な日本語を学習し、そのとき現場に居合わせた人たちと協力し、人の命を救えることが安心につながると考え、テーマに決めました。

学習者の状況

- 高齢の家族がいる
- 救急車の呼び方を知らない
- AEDを知らない

学習者の声

- 日本語で電話をするのが不安
- AEDの使い方を勉強したい
- 自分にできることを知りたい

テーマ

救急車が来るまでにできること

目標

救急救命活動に協力できる AEDを使うことができる

活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○人を助ける重要性を認識する ・倒れている人のイラストや人体イラスト、胸骨圧迫の写真などでことばやイメージを学習する。 ○救急車到着までにできることを知る ・イラストを使って人を呼んだり、心肺蘇生法の手順を学習する。 ○119番通報の練習 ・やり取りの練習をする。 ○AEDについて学ぶ ・どういうものか、どこにあるのか、などを理解する。	AEDの設置場所を確認するために、近くのコンビニや駅、教室のあるビルの中などを見て回る。
専門家や地域住民との協働	NPO救命ボランティアによるAED講習会を実施する。	特になし

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時	1日目 10月22日(水) 10:00～11:30(90分)+20～30分 2日目 10月29日(水) 10:00～12:00(120分) 3日目 11月3日(水) 10:00～10:30(30分)			
参加者	学習者:25名(中国、韓国、タイ、ドイツ、フィリピン、台湾、アメリカ、ベトナム、カナダ、メキシコ、エクアドル) 支援者:NPO救命ボランティア4名 自治体職員2名 教室ボランティア5名			
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	人を助ける重要性を知る	15分	○倒れている人のイラスト ○人体イラスト ○胸骨圧迫の写真	倒れている人が目の前にいたらどうする？ 1 クラス別に、イラストを見て、その時どうするかイメージする。 2 救急車が来るまでにする行動を考える。
活動2	救急車到着までにできることを知る	75分	○119番通報例の紙 ○心肺蘇生法の手順の紙・イラスト ○AEDの写真 ○ふりかえりシート	救急車が来るまでにどんなことができますか？ 1 119番通報の方法を知る。 2 心肺蘇生法を知る。 3 AEDについて知る。 4 シミュレーションする。 5 ふりかえりシートにわかったことを記入し、発表する。
活動3	<教室活動後> 場所の説明の仕方を学ぶ AED設置場所を知る	20～30分		今いる場所が言えましたか？ 1 119番通報するとき、場所の説明ができるか、一緒に町を歩いて練習する。 2 駅・スーパーに置いてあるAEDを見に行く。
2日目				
活動4	AED講習を受ける	120分	○プロジェクター ○スクリーン ○マイク ○人形 ○見学者用資料	AED講習を受けましょう 1 全クラス合同で、救急救命の一連の流れがわかるDVDを見る。 2 119番通報の練習をする。 3 NPO救命ボランティアにデモンストレーションしていただく。 4 実際に一連の流れを体験する。
3日目				
活動5	ふりかえり	30分	○AED講習会の写真 ○ワークシート ○ふりかえりシート	ふりかえり 1 クラス別に、AED講習会でしたことをふりかえる。 2 心肺蘇生法の手順の確認する。 3 119番通報の復習する。 4 AEDの使い方を確認する。 5 わかったこと、わからなかったことを記入し、発表する。

事前の準備・下調べ

- 会場視察とNPO、行政との打合せ(対面1回、メール数回)
- 専門用語パネル準備

活動1 倒れている人が目の前にいたらどうする？

- 1 イラストを見ながら、質問しました。
「倒れている人を目の前で見たことがありますか？
その時、どうしましたか？」「倒れている人が目の前に
いたら、どうしますか？」
- 2 救急車が来るまでにする行動を考え、早く適切に行動す
ることが、人の命を助けることを確認しました。



こんな日本語が出てきました

- ✎ 心肺停止、胸骨圧迫
- ♡ 早く適切な行動をしましょう。

クラスごとに、それぞれ
のレベルに合わせて学習
しました。



自分でできない時は、
近くの人に知らせて
頼むことも大事です。

活動2 救急車が来るまでにどんなことができますか？

- 1 119番通報のやり取りの練習を一人ひとり行いました。
はっきりした住所がわからない時には、近くのビルやお店の
名前を言ったり、交差点や電柱に書いてある住所を言うとい
うことを学びました。
- 2 心肺蘇生法を学びました。
- 3 AEDを見たことがあるかどうか話しました。
- 4 写真やプリントでAEDについて勉強しました。
- 5 ふりかえりシートにわかったことを書いて発表しました。



こんな日本語が出てきました

- ✎ 心肺蘇生法、通報、電気ショック
- ♡ 住所がわからない時は、119番にかけたまま、通話を
切らないでください。

活動3 今いる場所が言えましたか？

- 1 119番通報するとき場所の説明ができるか、一緒に町を
歩いて練習しました。
- 2 交差点や電柱に住所が書いてあることを確認しました。
- 3 駅やスーパーに置いてあるAEDを見に行きました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ 電柱に住所が書いてあります。
- ☆ 読めません。

活動4 AED講習を受けましょう

- 1 救急救命の一連の流れがわかるDVDを見ました。
- 2 実際の場面の音声を聞いて、119番通報の練習をしました。
実際の音声は早口で聞き取れなかったため、スピードを落として聞いてみました。
- 3 NPO救命ボランティアのデモンストレーションを見ました。
- 4 5~6人のグループになって、スライドを見ながら胸骨圧迫の練習をしました。
- 5 全員で「声かけ→119番通報→心肺蘇生→AED」という一連の流れを体験しました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ 1人では大変です。協力しましょう。
- ☆ 1分って結構長いですね。汗が出てきます。
- ☆ 骨が折れたりしませんか?
- ♡ 骨は折れます。でも、命のほうが大切です。



「ダンシングクイーン」のリズムにのって、ゲーム感覚で体験しました。「コレならできそう」と思ってもらうことも大切です。



活動5 ふりかえり

- 1 AED講習会でやったことを確認しました。
- 2 ワークシート、ふりかえりシートに、わかったこと・わからなかったことを記入しました。

実践を終えて

- 学習者からは、「救急車や警察の番号が母国とは違うことがわかった」「とっさに言葉が出てこない」「周りの人を呼ぶことが大切だとわかった」「AEDの使い方について知ることができた」「防災や救急のことばかりやっている、不安になる」「ことが難しい」「役に立つと思う」「大切なことからきちんと知っておきたい」「テキストには無い日本語なので、覚えたい」などの感想があった。
- 体験することで理解できたことがたくさんあった。
- 事前学習で覚えたことが役に立った。難しい言葉はふりかえり学習でもう一度おさらいした。
- NPOボランティアがやさしい日本語と英語で教えてくれたので、わかりやすく学習できた。
- 聞き取れない日本語でも、体験を通して理解できたことは忘れないことが実感できた。



ポイント

- 決めつけない。「日本語がわからないから、活動に参加できない」とボランティア側で決めつけてはいけません。
- 「難しい日本語」も体験することで意味を理解することができる。

実践した教室

- ・平日の午後週1回、開催している地域の日本語教室です。
- ・学習者の国籍は中国、フィリピン、タイ、イギリス、フランスなど
- ・初級から上級までクラスがあります。

活動のテーマと目標を設定する

火事は、一度に多数の命や生活を脅かす一方で、自身が注意すれば防ぐことができるものでもあります。一人ひとりが、防火、防災意識を高め、安心して暮らして欲しいという想いから、テーマにとりあげました。

学習者の状況

- 救急車、消防車の連絡方法を知らない
- 消火器を触ったことがない

学習者の声

- 火事が起きてしまったとき、どうしたらいいのかわからない

テーマ

火災 ～火事が起こった時にできること～

目標

火事が起こった時に、身の安全を守り、対処できる
一人ひとりが防火・防災意識を高める

活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ 防火、防災の必要性を認識するため、レベル別の各クラスで、写真、イラストを使用し、火事についての説明をする。 ○ 火事の時によく使う言葉の説明と発音練習をする。 ○ 各国別の火事・救急車の連絡方法とその練習をする。 ○ 施設内の火災報知機、消火器の場所を確認する。 ○ 避難経路を確認する。	特になし
専門家や地域住民との協働	消防署員による防災・防火教室を実施する。	特になし

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時	1回目 9月12日(土) 15:00～16:30 (90分) 2回目 9月16日(土) 14:00～16:30 (150分)			
参加者	学習者 34名 (中国、フィリピン、タイ、イギリス、フランスなど) 支援者 17名			
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	○ 防災の必要性を認識する ○ 火事の時のことば、表現がわかる	60分	○写真 ○イラスト ○火事に関することばなどのシート ○質問シート	もしも火事になったらどうしますか？ 1 火事についての体験談を話し合う。 2 レベル別の各クラスで、写真、イラストをみながら、火事についての説明を聞く。 3 火事の時使用することばを練習する。 4 それぞれの国の火事や救急車の連絡方法について話し合う。 5 日本の救急通報の練習をする。
活動2	火事の時、身を守ることができる	30分		避難しよう！ 1 施設内を回って、火災報知機、消火器のある場所を確認する。 2 非常口を確認する。(避難経路の確認) 3 火災が起きたと想定して、避難訓練をする。
2日目				
活動3	○ 火事の時の対処ができる ○ 火事を防ぐ方法を知る	60分	○火事の写真・イラスト ○火事に関する用語の説明文 ○ 火事の初期消火のイラスト	消防署員の話进行こう 1 火事についての説明を聞き、火事に関することばや表現を学ぶ。 2 火事を防ぐ方法や日ごろからの注意点を聞く。 3 火事の初期消火の方法についての説明を聞く。
活動4	○ 消火器が使えるようになる	60分	○ 消火器5本 ○ バケツ	消火器を使う練習をしよう 屋外で消火器を使用し、一人ひとり、消火の練習をする。
活動5	ふりかえり	30分	○ ワークシート	わかったこと、わからなかったことをワークシートに記入する。

事前の準備・下調べ

- 避難カードの写真
- 消防署員との打合せ

活動1 もし、火事になったら

- 1 火事を実際に見たことがあるか、危ない経験があるか、話し合いました。
- 2 レベル別の各クラスで、写真やイラストをみながら、火事についての説明を聞きました。
- 3 火事の時に使用することばを練習しました。
- 4 母国の火事や救急車の連絡方法について話し合いました。
- 5 日本の救急通報の練習をしました。

イラストつきのチラシを見ながら、火災の対処法といろいろなことばを勉強しました。



こんな日本語が出てきました

📄 119番通報、3分以内、消火

活動2 避難しよう！

マンションには、火災報知機が設置されているし、消火器も置いてありますが、実際の使い方は知らない学習者が多いようです。

- 1 いつも教室活動をする施設の中をみんなで回って、火災報知機、消火器のある場所を確認しました。
- 2 施設内の非常口と避難経路を確認しました。
- 3 火災が起きたと想定して、避難訓練をしました。



こんな日本語が出てきました

- ♡ あわてない、走らない
 - ♡ しやべらないで避難する
 - ♡ エレベーターは使わない
 - ♡ 安全な場所に避難したら、逃げ遅れた人がいないか確認する
- 📄 火災報知機、消火器、非常口、スプリンクラー、避難経路

避難訓練放送例

「火事です！ 火事です！
1階の給湯室で火災が発生しました。
すぐに避難してください。」

活動3 消防署員の話聞こう

- 1 火事についての説明と火事に関することばや表現の説明を聞きました。
- 2 火事を防ぐ方法と日ごろからの注意点について説明を聞きました。
- 3 火事の初期消火の方法について説明を聞きました。
- 4 わからないことを質問しました。

ボランティアは日ごろから避難誘導できるようにしておくといいですね。



こんな日本語が出てきました

📄 寝タバコ、火災警報器、タコ足配線

活動④ 消火器を使う練習をしよう

火事を見つけたときに重要な、出火から3分以内の消火活動を消火器を使って練習しました。

水の入った練習用の消火器で1人ずつ消火練習をしました。



こんな日本語が出てきました

- 🔗 火元、火点、放射する
消火器を火元まで運ぶ 安全栓を抜く
ノズルをとる ノズルを火点に向ける
レバーを引く 放射する



活動⑤ ふりかえり

活動についてふりかえり、わかったこと・わからなかったことを各クラスで話し合いました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 消火器はすごい勢いで出るから、びっくりした
- ☆ 消防署の人の話は難しい言葉が多くてわからなかったけれど、消火器の使い方は見てわかった
- ☆ 練習でもみんなで真剣にやったので、ドキドキした

実践を終えて

- 学習者からは、「119番通報の練習ができてよかった」「火災の時、煙が出たら、どうして姿勢を低くして逃げるのか理解できた」「台所の消火でも油の場合は、水をかけてはいけないことがわかった」「消火器の使い方がわかって、とてもよかった」「自分の身を守ることが大切だということがわかった」などの感想が出た。
- 火災や消火器についての説明の際、「とりあつかい・住まい・速やかに・加熱・着火」など難しい日本語が多かった。事前に、学習者のレベルについて考慮しておく必要があった。
- 消火器の実践練習の際、だれが早く消火できるかというレースのようになり、楽しく活動できた。



ポイント

- 火災や防災をテーマにするときは、いたずらに「不安な気持ち」にさせないように配りが大切
- DVDなどを見るときは、ボランティアが事前に見ておくとい

実践した教室

- ・土曜日の午前、週1回開催している国際交流協会が主催する日本語教室です。
- ・学習者の国籍は中国、フィリピン、ベトナム、インドネシアなど。
- ・主婦や技能実習生など、様々な背景の学習者がいます。
- ・入門から上級までクラスがあります。
- ・普段は少人数グループで教室活動を行っています。

活動のテーマと目標を設定する

災害が起こったとき、日本で暮らす外国人が安全に行動ができ、地域の人をはじめ周りの日本人と協力して困難な状況を克服できるようになってもらいたいと考え、テーマを決めました。

学習者の状況

- 愛知県内の様々な地域から学習者がきている

学習者の声

- 自分の住む地域の避難所がどこにあるかわからない
- 地震に遭ったことがないのでこわい



テーマ

防災 ～地震ってなに？避難所ってなに？～

目標

地震のとき、安全に避難できるようにする

活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○地震についてのDVDを見て、地震とはどういうものか、映像をもとに理解する。 ○屋内で地震が来たとき、どうすればいいのかを学び、実際に机の下にもぐったり、カバンなどで頭を守る練習をする。 ○防災チェックガイドの記入をする。 ○避難所マップを見て、自分の地域の避難所を確認する。 ○携帯電話やスマートフォンを使って、災害伝言ダイヤルの登録の仕方を学び、実際に登録する。	特になし
専門家や地域住民との協働	○日本赤十字社のボランティアから「避難所とは?」について学ぶ。 ○避難所で役に立つことを実践的に学ぶ。	特になし

非常口



活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時	1回目 11月 8日(土) 10:30～12:00 (90分) 2回目 11月15日(土) 10:30～12:00 (90分)			
参加者	学習者 17名 (中国、フィリピン、ベトナム、インドネシア、フランス) ボランティア 10名 日本赤十字社ボランティア 10名			
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
1日目				
活動1	防災について知る	15分	○地震についてのDVD	地震とは？ 1 DVDをみて、地震について視覚的に理解する。 2 感想を共有する。 3 難しかったことばについて、グループ内で共有する。
活動2		10分	○防災頭巾	地震にあった時どうすればよいか 1 地震のときの初期行動について説明する。 2 実際に机の下の隠れてみる。
活動3	防災カードに記入する	15分	○防災チェックシート* (愛知県国際交流協会(AIA)作成)	災害が起きたときに必要な情報とは？ 1 AIAが作成した、防災チェックシート*に自分の情報や、必要な連絡先を記入する。 2 自分の国の救急について伝え合う。 3 チェックガイドがどのように役立つのかをグループ内で話し合う。
活動4	災害伝言版について知る	30分	○携帯電話 ○タブレット	災害伝言版について知ろう 1 災害伝言版について説明する。 2 実際に自分の携帯電話・スマートフォンを使って登録してみる。
活動5	安全に避難するにはどうすればよいか知る	20分	○学習者の地域の避難所マップ	地域の避難所について知ろう 1 避難所について説明を聞く。 2 自分の地域の避難所マップを確認する。 3 避難所マップはどこに行けばもらえるのかを知る。
2日目				
活動6		60分	○風呂敷 ○毛布	避難所とは？ 1 災害に関する語彙を確認する。 「地震」「火事」「津波」「台風」など。 2 避難所での支援物資について説明を聞く。 3 避難所で便利なリュックとガウンの作り方を学び、実践する。
まとめ・ふりかえり		30分		1 日本赤十字社の方へわからないことを質問する。 2 わかったこと、わからなかったこと、感想などを発表する。

事前の準備・下調べ

- DVD、防災チェックガイドの準備
- 日本赤十字社との打合わせ

活動1 地震とは？

愛知県が作成した、
防災のDVDを見ました。

- 1 地震に関するDVDを見ました。
- 2 DVDを見た感想について、グループで話し合いました。
- 3 難しかったことばの意味を、ボランティアに聞きました。



こんな日本語が出てきました

 震度、津波、防災、高台



活動2 地震にあったときどうすればよいか

- 1 地震にあったときの初期行動について、ボランティアの説明を聞きました。
- 2 地震がきたと想定して、実際に机の下に隠れてみました。
- 3 外で歩いているときに地震が来たと想定して、身近なもの(カバンなど)で頭を守る練習をしました。



こんな日本語ができました

 避難訓練、緊急地震速報、誘導灯

☆ 机の下は小さいな～



活動3 防災チェックガイドの記入

- 1 防災チェックガイドをグループで読みました。
- 2 防災チェックガイドの裏面の「防災カード」に必要な情報を記入しました。
- 3 どんなときにこの情報が役に立つのかを話し合いました。
- 4 日本と自国の緊急電話の番号の違いなどについて話し合いました。



こんな日本語ができました

 緊急電話、消防、救急

♡ あなたの国の救急車の電話番号は
何番ですか？

☆ 中国は同じ119番です。

愛知県国際交流協会
が作成した「防災
チェックガイド」
を利用しました。



活動4 災害時の安否確認について

- 1 災害伝言版について、ボランティアの説明を聞きました。
- 2 タブレットを使って、登録の仕方のデモンストレーションを見ました。
- 3 各自の携帯やスマートフォンを使って、実際に登録しました。



災害用伝言板(web171)

[English](#) [한국어](#) [中文](#)

TOP画面

伝言の登録や確認ができます。

電話番号

登錄

確認 

お知らせ

本日は体験利用が可能です。
この機会に、ご家族等と利用方法を確認していただき、使い方を覚えてください。

※※利用登録におけるパスワードの定期的な変更について※※
安心、アサイトをご利用いただくために、利用登録で設定された

活動⑤ 地域の避難所について知ろう

- 1 避難所や、避難所マップについてボランティアの説明を聞きました。
- 2 避難所マップはどこに行けばもらえるのか、知っている人が、みんなの前で話しました。
- 3 自分の地域の避難所マップを見て、自宅から一番近い避難所を確認しました。



こんな日本語ができました

- 📎 避難所、広域避難所
- ☆ 避難所はどこにありますか?
- ♡ 小学校や中学校が避難所になります。



活動⑥ 避難所とは

日本赤十字社による実践！

- 1 災害や避難所について、日本赤十字社の説明を聞きました。
- 2 配給される物資をカバンを使わずに持ってみました。
- 3 風呂敷2枚を使ってリュックを作りました。
- 4 寒い冬の避難所での生活についてみんなで考えました。
- 5 毛布1枚を使って、ガウンを3人一組で作りました。
- 6 日本赤十字社の方に、わからなかったこと、不安なことを質問しました。
- 7 感想をみんなの前で発表しました。



こんな日本語ができました

- ♡ 配給、風呂敷、洗濯ばさみ
- ☆ 避難所で外国人の差別をしないでください。
- ☆ 中国人は地震について意識が薄いです。
- ☆ 外国人は避難所で心細いです。
- ☆ 地震のとき、エレベーターは使えますか?
- ♡ 電気がとまるので使えません。あぶないので、使わないでください。
- ☆ 水が止まってもトイレは使えますか?
- ♡ 水が使えないときのトイレを準備しておきましょう。



実践を終えて

- 避難所は通常、小学校や中学校なので意外と近くにたくさんあることがわかった。
- 災害に遭ったことのない人が多いため、まず、災害とは?というところから始めたほうがよい。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方は、ボランティアより学習者のほうがよく知っていたので、学習者から学ぶことがあった。



ポイント

- 防災に関する資料は豊富。防災に関しては、正しい情報を知っていることが大切なので、どんどん活用しよう。
- みんなの前で発表する場をつくることで、スピーチに自信がつく。学習者に発表をしてもらおう。

実践した教室

- ・ 平日午前中に開催している地域の日本語教室です。
- ・ 学習者の出身はアジアを中心とした数カ国で、参加人数は13～14名です。
- ・ 来日2年未満の学習者が大半で、日本語は入門・初級レベルです。
- ・ 学習者の多くは、家族同伴で来日しているか、日本人配偶者がいる主婦です。

活動のテーマと目標を設定する

防災については、「地震に備える」のテーマで学習し、備蓄品の必要性についても理解しています。しかし、「非常食」の言葉やその内容については未習で、防災学習の一環として必要性が高いテーマと考えられます。

学習者の状況

地域の日本人との交流が少なく、身近な情報をあまり知らない

学習者の声

- 台風や大雨のとき、どうしたらいいかわからない
- 地震が心配

テーマ

非常食を食べてみよう

目標

市販の非常食の中から自分に合った物を選び、災害に備えることができる。



活動の場所と協力者を考える

	教室の中で	地域に出向いて
いつものメンバー	○ 非常食がイメージできる ・ ライフライン喪失時の対応について話し合う。 ・ 非常食について知っていることを話し合う。 ○ 非常食の利用のしかたが分かる ・ グループで試食する非常食を選ぶ。 ・ 非常食の説明書きを読む。 ○ 非常食を作って、試食する ・ 説明書きに従って非常食を食べられる状態にする。 ・ 全部の非常食を試食する。 ○ 非常食を選ぶことができる ・ 試食した中から、自分が準備したい非常食を選ぶ。 ・ 選んだ理由を発表する。	特になし
専門家や地域住民との協働	特になし	特になし

活動案をつくる ※ここでは活動案(→P. 25)の一部を掲載しています

活動日時		10月 14日 (火) 10:00 ~ 11:30 (90分)		
参加者		学習者 9名 (中国3名、インド2名、台湾2名、韓国・タイ1名ずつ) 支援者 日本語コーディネーター1名、ボランティア8名		
活動のねらい		時間	準備・教材	活動内容(対話と協働)
活動1	非常食がイメージできる	10分	○ ワークシート ○ パワーポイント資料	非常食って何？ 1 電気・ガス・水道が使えなくなった時どうするか話し合う。 「のみものは?」「たべものは?」その他 2 非常食について知っていることを話し合う。 「知っていますか?」 「どんなものがありますか?」 「食べたことがありますか?」
活動2	非常食の利用のしかたがわかる	10分	○ 市販の非常食数種類 ○ アルファ米とパンの缶詰の作り方シート(説明書きに読み仮名をつけたもの)	非常食の説明書きを読もう 1 作り方シートを参考に、アルファ米の袋に記載されている説明書きを読み、意味を確かめる。 2 パンの缶詰も②と同様にする。
活動3	非常食を作って試食する	45分	○ お湯 ○ ナイフ・フォーク 紙皿・紙コップ ○ 名古屋市販売の備蓄水缶数本	非常食を食べてみよう 1 説明書きに従ってアルファ米とパンの缶詰を食べられる状態にする。 2 用意された全部の非常食を試食する。
活動4	非常食を選ぶことができる	20分	○ 使用した非常食の空き袋や空き缶 ○ 付箋紙	準備する非常食を選ぼう 1 試食した中から、自分が準備したい非常食を選ぶ(投票する)。 2 投票結果を知る。 3 選んだ理由や感想を発表する。
	ふりかえり	5分	○ ふりかえりシート	「ふりかえりシート」に記入し、来週のクラスで伝え合うことを考える。

事前の準備・下調べ

- 下調べ…非常食の種類・値段・保存期間・作り方についてHPや販売店で確認
- 試食会をして、何分くらいかかるか? 作り方は分かりやすいか? どんな味か? などを確認

活動1 非常食って何？

- 1 資料（パワーポイント）を見ながら、電気・ガス・水道が使えなくなった時どうするか話し合いました。
「のみものは?」「たべものは?」「その他?」
- 2 非常食について知っていることを話し合いました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 台湾では缶詰やケーキがあります
- ☆ テレビで見たことがあります
- ☆ ライフライン 非常食

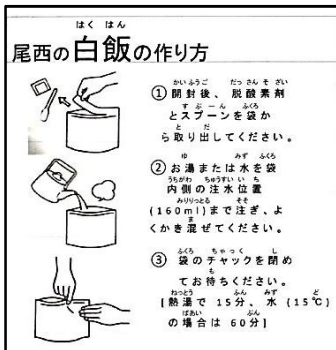
5ふん はなしあいましょう

ひじょうしょく
非常食を

- 知っていますか？
- どんなものがありますか？
- 食べたことがありますか？
- 飲んだことがありますか？

グループ内で日本語能力のレベル差がある場合は、学習者同士で教え合うことができます。

パワーポイントでの資料は、情報が1つずつ提示されるのでとてもわかりやすいです。



アルファ米作り方シート

活動2 非常食の説明書を読みよう

- 1 作り方シートを参考に、アルファ米の袋に記載されている説明書を読み、意味を確かめました。
- 2 パンの缶詰も同じようにしました。



こんな日本語が出てきました

- ☆ 消費期限が長いです
- ☆ 非常食は、どこで買えますか？

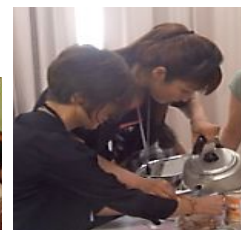
活動3 非常食を食べてみよう

- 1 説明書に従ってアルファ米とパンの缶詰を食べられる状態にしました。
- 2 用意された全部の非常食を試食しました。
アルファ米 6種類・パンの缶詰 3種類・
バランスクッキー・えいようかん（長期保存ができる羊羹）・乾パン・名古屋の名水



こんな日本語が出てきました

- ☆ パンがやわらかくて、美味しい
- ☆ 非常食は、軍隊のごはんのようです
- ☆ 名古屋の名水は、どこで買えますか？
- ☆ 野菜の非常食はありますか？



時間短縮のため、湯を使いました。所要時間60分かかりますが、水で作れます。

学習者によっては、宗教上の規律や個人の主義などのため、食べられない食品があります。日ごろの学習時に情報を収集して、ボランティア全員で共有しておくことが大切です。

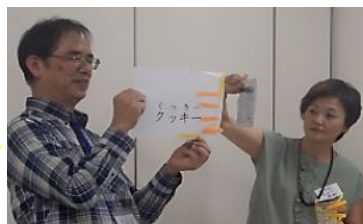
活動4 準備する非常食を選ぼう

- 1 試食した中から、自分が準備したい非常食を3つ選び、付箋紙をつけて投票しました。
- 2 投票結果を聞きました。
- 3 選んだ理由や感想を発表しながら、非常食について話し合いました。



投票したい非常食がよくわかるように、空き袋や空き缶・空き箱を一緒に展示したのはよかったです。

選択結果を「ランキング」すると、学習者の関心が高まり、効果的です。



学習者の選んだ 非常食 Top3

- 1位 パンの缶詰 (オレンジ味)
- 2位 クッキー
- 3位 ごはん (ドライカレー)
(えびピラフ味)

実践を終えて

- 入門レベルの学習者が「誰も予想できない自然災害に備えておくべきだということと、非常時に何を準備するかについてわかりました。(母語表記)」をふりかえりシートに記入した。
- 初級レベルの学習者は日本語で「こんな簡単な作り方で、いろいろなご飯ができます。大変な時に美味しいものを食べると、心が癒されると思います。さすが日本、驚いた。」と感想をまとめた。
- 学習者が非常食の意味を理解し、消費期限の長さや利便性に気付いたことがよかった。学習者から「先生もきちんと用意していますか?」の質問にドキッとした。
- パワーポイント資料を視聴しながら実践プログラムの進行を行ったので、分かりやすく時間通りに活動できた。また、使用した資料や教材をストックすることで、「いつでも」「だれでも」出来る活動となる。
- 写真やイラストで終わらず、「食べる」という体験ができたことは、学習者にとってもボランティアにとっても貴重な学習体験だった。

ポイント

- 学習者情報は “日ごろの会話の中から情報を収集し、共有すること”
- 貴重な学習とは “学習者だけではなく体験できない活動の実施”

第3章で例示した9テーマについて、文化庁の『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』の該当するページを示し、それ以外にも教材や活動のためのヒントになるものをまとめました。第5章の「教室活動に役立つウェブサイト」と合わせてご活用ください。

	教材例集	教材や活動のためのヒント
電車で出かける	P. 205 P. 116～131	・駅や観光センターに置いてある観光パンフレットを集めておけば、行きたいところを決めるのに役立ちます。
自転車で出かける	——	・交通安全や自転車の乗り方などは、警察署の出前講座を頼むことができます。
図書館を利用しよう	P. 207～208 P. 214	・図書館の職員が出前講座をしてくれます、図書館でも案内をしてくれますので、頼んでみましょう。 ・図書館以外にも、市役所のホームページにアクセスして、「出前講座一覧表」から公共施設の職員が無料で来てくれるものをテーマとして選ぶことができます。
必要な薬を買う	P. 23～39	・近くのドラッグストアに協力を依頼してみましょう。 ・薬のピクトグラムを以下のサイトから得ることができます。 http://www.rad-ar.or.jp/use/guidance/pictogram/index.html 「くすりの適正使用協議会」のトップページから「くすりの使い方」→「くすりの絵文字」をクリックします。
チラシを使って買い物しよう	P. 92～105	・チラシは新聞の折り込み広告より、スーパーや量販店に置いてあるもののほうが活用しやすいと思います。
救急車が来るまでにできること	——	・消防署の職員が救急救命の出前講座をしてくれます。 ・「横浜市消防局 生活安心情報 119番通報のかけ方」のサイトが役立ちます。動画もあります。 http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/seikatsu/119/
火事になったら	P. 72～82	・消防署の職員が出前講座をしてくれます。119番通報の練習にも協力してもらいましょう。 ・上記の「横浜市消防局 生活安心情報 119番通報のかけ方」のサイトはここでも役に立ちます。
地震に備える	P. 55～71	・消防署の職員や防災ボランティアが出前講座をしてくれます。 ・「やさしい日本語」有志の会のサイト（リンクも参照してください）から防災知識や教材を得ることができます。 http://nihon5bousai.web.fc2.com/
非常食を食べてみよう	——	・パソコンに「非常食」と打ち込めば、非常食の基礎知識を得ることができ、ショッピングサイトなどに多くの非常食が写真入りで出ています。

第4章

座談会

『多文化共生社会をめざした教室活動』



プログラム研修(→P.12)を開催し、行動・体験型の教室活動に取り組むことで、みえてきたさまざまな成果と課題。
あらためて「多文化共生社会をめざした教室活動」をつくるには
どのようなことが必要か話し合ってみました。

【座談会出席者】



司会 桜井さん
プログラム研修の企画実施に参加



相葉さん
TNN(東海日本語ネットワーク)メンバー
プログラム研修の企画実施に参加



大野さん
プログラム研修 受講生
日本語教育ボランティア暦15年



松本さん
日本語教室を主催している
国際交流協会職員
プログラム研修オブザーバー



二宮さん
プログラム研修 受講生
日本語教育ボランティア暦4年

プログラム研修(→P. 12)をふりかえる



みなさん、きょうはお集まりいただきありがとうございます。

大野さん、二宮さんは、6月～11月という長丁場のプログラム研修受講、お疲れ様でした。
全6回の座学以外に「行動・体験型」教室活動の実践や他の受講生の活動の見学など、日本語教室をやりながらの受講は大変だったと思いますが、まずはそのプログラム研修をふりかえりたいと思います。相葉さんは、研修の企画実施に参加されましたが、終了してみてもいかがでしたか？



研修を受けてそれで終わりっていう、これまでの研修のやり方と違って、実際に活動案を作って、それを実践して、また受講者間で共有するという新しいタイプの研修にどれくらい人が集まるか、参加してもらえるか、とても心配でしたよね。個人的なつながりを頼って、参加をお願いしたりして、まあ、義理で参加してくれた人もあったと思います。



最後に感想を述べ合ったとき、「頼まれて、嫌々参加したけど、参加して本当によかったです！」っていう声もあって、スタッフも思わずにっこりされてましたよね。最終回のポスター発表は完成度が高くて、結構感動しました。



「ポスターを持って帰って早く教室のみんなに見せたい」と言った人がいましたね。でも、一方で、「持って帰っても誰も興味を示さないから、ここに展示して、来た人に見てもらえるといいんだけど」と言った人もいて、ちょっと気になったんだけど。



自分の教室で実践しようとしても、周りのボランティアの協力が得られないのは、つらいですね。1つの教室から一人だけ参加して、孤軍奮闘というのは限界があるし、次に続く人が出てこない、その教室自体が変わることはあまり期待できない。



1つの教室から複数の参加が望ましいってことですね。



でも、やりやすかったと言っていた人もいましたよ。どの教室にも「教えることが得意だけど新しいことを企画するのは苦手」「文法を教えるのは自信がないけど学習者とイベントに参加するのは好き」という人など、さまざまだと思うのです。だから、まずはできる人からやってみて、他の人にじわじわと広がっていければいいと思いました。



「みんなと同じようにしなくてはいけない」と考えなくてもいいということでしょうか。自分たちでできることを考える、他の人に押し付けない、何よりも自分が無理しないという姿勢が大切ですね。



ボランティアも役割が決まると、生き生きと動き出すんですね。「行動・体験型」ってボランティアにとってもわくわくした新しい体験ができるんです。



ボランティアの自発的な心で臨むのか、人から言われてやるのかではモチベーションが決定的に違ってくるので、どうしたら「その気にさせる、やる気になってもらうか」について、企画段階からよく練る必要があると感じた研修でした。



もう一つ気になったのが、日本語がほとんどわからない入門期の学習者には「行動・体験型」は難しいと考えられているのではないかということです。「日本語が少しわかってから、生活しましょう」ってわけじゃないはずだけど。



むしろ、行動・体験型だからレベル差があっても一緒に活動できる面があると思います。もちろん、入門期の学習者への配慮は必要ですが。



そこがポイントですね。入門期の学習者に対応できる、つまり、相手の日本語レベルに合わせた「やさしい日本語」が使えるボランティアや母語を同じくする上級の学習者がサポートするといった配慮があれば、初心者にも必要な内容が多いと思います。



研修には実践活動をしている教室の見学も組み込まれていましたが、うまく活用されていたんでしょうか。



受講者のみなさんにはそれぞれ自分の生活があるので、参加する時間をなかなか取れない人もいたと思います。



残念ですね～。他の実践を見ることで参考になることはいっぱいあるんですけどね。



自分の実践活動の参考にするという意味では、モデルとなるような活動が最初の時期に実施されて、そこに見学に行ってもらえるような流れが作れるといいと思うんですが。



それこそ、それぞれの教室の事情や受講者の事情があるので難しいところですが、うまく取り入れて、当初の活動案を変更してより良い実践につながった事例もあったと思います。今回は初めての取り組みでしたが、次回からは、このあたりの仕掛けを考える必要があります。



でもね。見学さえすればいいってもんでもないと思います。見学したら、そのあとで一緒に活動をふりかえる時間が大切なんじゃないでしょうか。その実践をするまでの経緯や苦労などを知ることでコーディネーターの役割を改めて理解できると思うんですね。



受講者のほとんどがTNN※の関係者って感じがしましたが、もっと広く多くの教室に来てもらう機会があつていいんじゃないでしょうか。



TNNの団体会員にとっても、今回のような研修は初めての経験です。これまで、TNNが企画してきた研修は90分のお話を聞いておしまい！それを現場に持ち帰って実践にいかす人たちがどれほどいたかは疑問です。今はまず、理解してくれそうな人から活動を広げていく段階なんじゃないかなあ。主催者がいて、講師がいてというだけでなく、TNNから数名が講座運営スタッフとして加わったことがすごく画期的だと思う！スタッフも受講者として、カリキュラム案を活用した新しい教室活動の方法を学びながら、チームで研修全体を推進したんですね。



そういう人たちがいたから、現場に即した研修ができたわけですよ。講座にかかわる人すべてが学び合っている感じがしました。

※TNN：東海日本語ネットワーク。東海地域で日本語を母語としない人の日本語学習及び交流活動を支援している非営利の団体及び個人のネットワーク組織。



ポイント

- 課題は教室見学の充実！
- チームで取り組むメリットを実感！
- 研修を次年度につなげよう！

『行動・体験型』の活動 ～理念と実践～



ところで、実践活動は本当に「行動・体験型」の活動になっていたでしょうか？



そこが肝心なところですね。「行動・体験型」というと、教室の外に出向いて活動すればいいとか、誰かを呼んでイベント的な活動をすればいいって誤解されていそうな気がします。



「行動・体験型」って、要は、日本語を使って生活できるようなカリキュラムで教室活動をしようということですね。何が何でも現実的な体験を組み込まなくても、生活に必要な情報を得たり、活動に参加する一人ひとりと「本物の」コミュニケーションをとることで、つまり、対話することで、日本語を身に付けていこうということだと思います。教室の中で日本語を使う機会をどう作るかってことにもっと心を砕く必要がありそうです。



そうなんです。テキストで練習するより、実際に日本語を使用したほうが日本語が身につくってことを考えると、その機会が準備されていなかったら学習につながりません。その上で、聞いたり話したりした日本語をふりかえることが欠かせないと思うんだけど、意外に時間を確保していなかったりして。



まだまだ、改善の余地があるってことですね。



本来の「行動・体験型」っていうのは、教室活動すべてがこういう理念で貫かれているものでしょ。でも、今回の研修では、普段の教室活動の中でちょっと時間を割いてもらって、行動・体験型の活動をやってもらおうという形だったから、できたということですね。



実践が終わって、やれやれ…みたいなのがあって、終われば、いつものテキストに戻ってということなら、理念は伝わっていないってことじゃないのかなあ。



実践活動のほとんどが施設に出向いたり、防災などの専門家を呼んで話を聞いたり、アクティビティをしたりというものであったので、準備に手間暇がかかって大変という想いがあるって、こんな活動を日常的にするのは無理!という印象を持ったんじゃないでしょうか。



悩ましいですね。一步一步、ほんの少しでも変わることができれば、今後に期待しましょう。

コーディネーターの役割



では、この「行動・体験型」活動の中でコーディネーターが果たす役割についてはいかがでしょうか？



実践活動で、コーディネーターはどのようにその役割を果たしたかということを考えると、教室活動としての活動案をつくること、そして、その活動の進行役を務めることが中心になっていたように思います。



教室見学をいかすという点でも、活動案の見直し、進行の具体的な方法を得ることが中心という感じです。見学後の意見交換があまり行なわれていなかったのも、なぜそのテーマに決まったのかとか、どのようにして協力者と連携するに至ったのかなどにはあまり留意されてないですね。



でも、地域と連携して活動を行う場合は、顔見知りの場合は別ですが、コーディネーター一人で勝手に動かない、必ず主催者を通すとか、場合によっては、行政に仲介を頼むなど、手順を踏むことによって、スムーズに事が進むんですね。こういうことって意外と大切なんだと思います。ネットワークも広がるし。



協力者とのコーディネート以前に、教室内の連携体制をつくるのもコーディネーターの役割で、どうもこれが一番難関だったようですね。ボランティアはそれぞれの動機があって、自分の意志で活動に参加しているわけでしょう。日ごろのミーティングなどでどれほど一体感を持って活動が行われているのかが大きいかもしれません。



クラス活動の形態や内容にもよりますが、中にはレベル別クラス合同で、チームとして実践に取り組んでいた教室もありました。そういう教室は期待が持てそうです。

多文化共生と教室活動のありかた



自治体では「多文化共生推進プラン」を策定しているところもあって、外国人へのコミュニケーション支援は多文化共生施策に位置づけられてると思うのですが、ボランティアの意識はどうなのでしょう。



ボランティアによる日本語支援は、困っている外国人に何ができるだろうというところから出発していると思うんですね。「多文化共生」というと、なんかうっとうしいなあとか、お上から押し付けられているような気がするんじゃないでしょうか。



以前はそうだったかもしれませんが、今ではずいぶん変わってきたんじゃないかなあ。「多文化共生」って言葉も市民権を得てきたし。



そうは言っても、活動自体を多文化共生に結びつけて考えているわけではない。



でも、せめて自分の地域にどんな外国人住民が住んでいるのか、ボランティアの人たちにぜひ知っていてほしいですね。自分の教室を客観的に位置づけることって本当に大切だと思う。そこから、活動を見直すきっかけになるんじゃないでしょうか。



ほとんどの教室でテキストを使った従来型の活動が行われているようですが、そのあたりはどう考えればいいでしょうか。



テキストそのものが悪いわけじゃないんですよね。でも、そう言ってしまうと活動が変わらない。ふだんの生活に必要な語彙もあまり使われていない。そこをどうクリアするかが課題になると思います。



テキストを使いながらでもいいので、ちょっとそこから離れて、お互いのことを話したり、学習内容などを一緒に相談したりする対話がうまれるといいのですが。そこをどうクリアするかが課題になると思います。



「理念と実践」のところで言いたかったんだけど、この研修で学んだことで、日ごろの活動も変わるはずですね。テキストから離れられないのなら、いわゆる「導入」の部分をふくらませて、練習はしないようにするとか。



活動の形態のほうが問題じゃないでしょうか。多文化共生を謳うなら、参加者の対等性が大切になる。教えたいボランティアじゃなくて、同じ地域の住民である普通の日本人の参加があるといいですね。でも実際にはなかなか難しい。



多文化共生社会を実現するためには、学習者の社会参加をどう支援するかという点も問題になると思います。カリキュラム案では「エンパワメント」って言葉を使っていますが、日本語学習そのものが学習者にとってエンパワメントの場になっているかってことですね。



えっ？ ということですか？ 日本語が上手になったら社会参加できますよっていうのではダメで、教室活動が社会参加していることを実感できる場になるとか、生活課題の解決の場になるってこと？



その人の持っている能力が発揮され、リスペクトされる、認められるってことだと思います。たとえば、入門の学習者の通訳を依頼するとか、母国の料理を作ってもらうとか、経験談を聞くとか、学習者が主体となってやるのがエンパワメントにつながります。日本語という言語を学習するだけなら、いつまでもたっても支援される側にい続けることになります。日本人に追いつけない。

学び続けるために



今回の研修は、今後もし是非続けていけたらと思うのですが、今回それぞれのお立場で研修に関わられた皆さんは、「これから」について、どのようにお考えですか？



今回感じたのは、どちらかというと、活動歴が長い教室のほうが研修に積極的じゃないのかなあと。長年かけて教え方も確立していて、学習者も満足しているようだし。もう学ぶ必要はないって考えているのかなあ。



教授法だってどんどん進化しているんだし、常に学んで、変わっていかないといけないんだけど、なかなかそうは思わないですよ。ボランティアだし…っていう想いもあるだろうし。



ボランティアって二面性がある言葉ですよ。手弁当でこんなに頑張っている。本当にすごいことだと思うんですが、一方で「ボランティアだから勉強はしなくても、素人なんだもん」みたいなところもあったりするのでしょうか。



どうしても負担感が出ちゃうんですよね。学ぶことの楽しさのようなものがもっとでてくるといい。新しい試みって楽しいから一緒にやろうよ、という感じになるといいですね。



プロだって同じですよ。以前はあんなに熱心だったという人が勉強しなくなっちゃうというケースがあります。常に新しいことを学び続けるということは難しいですよ。



でも、それでは後に続く人の成長を阻害しかねないですよ。こういうものかって思っちゃいますよ。もっとアンテナを張って、いろいろなことにチャレンジしてほしいですね。



とにかく、まずは研修に参加してもらいたいです。ベテランの人にはベテランの人なりの、新人には新人なりの得るものがあると思うんです。一つのやり方だけにこだわらず、新しいものをどんどん取り入れていく柔軟性こそ、ボランティアの強みじゃないでしょうか。



確かにね。今年は、実践活動あまりうまくできなかったし、来年は新しいメンバーと一緒にもう一度研修を受けようかな。



それ、いいですね。是非！研修は参加することが最終目的ではないですよ。研修をきっかけに、教室活動を見直したり、よりよい活動を目指したり。ボランティア同士の対話につながるといいですよ。そういう意味でも、今年参加してくださった受講生がどんどん次につなげていただけると本当にうれしいし、そうなれば、この地域がまさに暮らしやすい地域になっていくと思うんです。



私も、教室のメンバーに勧めますね。



来年もいい研修が実現しそうですね。この地域で、テキストだけにこだわらない多様な教室が増えていくことを期待したいと思います。
今日は、さまざまなご意見をありがとうございました。

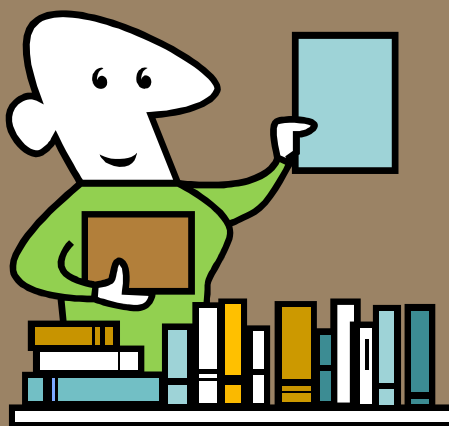


ポイント

- 日本語教室は多文化共生のための活動の場
- 教室活動を通して、学習者がエンパワーメントされることを目指そう
- 自分の教室だけでなく、広い視野を持つことが大切

第 5 章

日本語ボランティア お役立ち情報



日本語教室の探し方



日本語ボランティアをしてみたいけれど、どうやって教室を探したらいいのかわからない。



日本語ボランティアをやりたいという人がやってきたけれど、どうも考え方が違うみたいだから、他の教室を紹介してあげたい。



「日本語を勉強したい」という学習者が教室にやってきたけれど、どうもウチの教室には合わないようなので、他の教室を紹介してあげたい。

…ということはありませんか？ そんな時の、教室探しのポイントをまとめてみました。

新しく教室を立ち上げる時も、これらのポイントを基にどのような教室をつくりたいのか考えてみましょう。

物理的な条件

開催日	☐ 平日	☐ 午前 ☐ 午後 ☐ 夜
	☐ 土曜日	☐ 午前 ☐ 午後 ☐ 夜
	☐ 日曜日	☐ 午前 ☐ 午後 ☐ 夜
	☐ 不定期	
開催場所	☐ 家から徒歩で通える ☐ 自転車で通える ☐ 公共交通機関で通える ☐ 車で通うので、駐車場のあるところ	
その他	☐ 託児所のある教室 ☐ 子どもを連れて行ってもいい教室	

教室が掲げる役割

- | | |
|--|--|
| ☐ 身近な日本語を学ぶ場 | ☐ 外国人が情報を入手する場 |
| ☐ 地域社会との接点となる場 | ☐ 外国人にとっての問題解決の場 |
| ☐ 外国人同士の情報交換の場 | ☐ 外国人の居場所提供 |
| ☐ 外国人と日本人の情報交換の場 | ☐ 日本人が外国の文化を理解する場 |
| ☐ 外国人が日本の文化を理解する場 | |

日本語教室の主な内容

- | | |
|-------------------------------------|--|
| ☐ 日本語の日常会話 | ☐ 生活に必要な日本語 |
| ☐ 日本語の読み書き中心 | ☐ ビジネスマナーや就職に必要な日本語 |
| ☐ 日本語の文法中心 | ☐ 日本人と外国人の交流 |
| ☐ 日本語能力試験対策 | ☐ 日本文化 |

ボランティアに求められる能力や姿勢

- | | |
|---|---|
| ☐ 日本語教師の資格 | ☐ 外国人との信頼関係が築ける |
| ☐ 日本語を教えた経験の豊富さ | ☐ 毎回(毎週)参加できるか 継続的に参加できる |
| ☐ 外国人や多文化共生についての知識 | ☐ 教室運営に対して協力的 |
| ☐ 日本語以外の語学力 | ☐ 熱心さ 向上心 |
| ☐ 社会経験や日本文化の知識 | ☐ その他 |
| | ☐ 特に無い |

学習者が日本語教室で学びたいこと・来る目的

- | | |
|------------------------------------|--|
| ☐ 日常会話 | ☐ ビジネスマナーや就職に必要な日本語 |
| ☐ 読み書き | ☐ 日本人との交流 |
| ☐ 文法 | ☐ 他の外国人との交流 |
| ☐ 生活に必要な日本語 | ☐ 日本文化 |
| ☐ 日本語能力試験対策 | ☐ その他 |

※県内在住外国人に実際に聞いてみた結果も参考にしてください。→P. 76

まずは見学してみよう！

愛知県内の日本語教室については、日本語教室マップ(→P. 82)をご覧ください。
愛知県国際交流協会のウェブサイトでもご覧いただけます。

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp/resource/j/class/classtop.html>

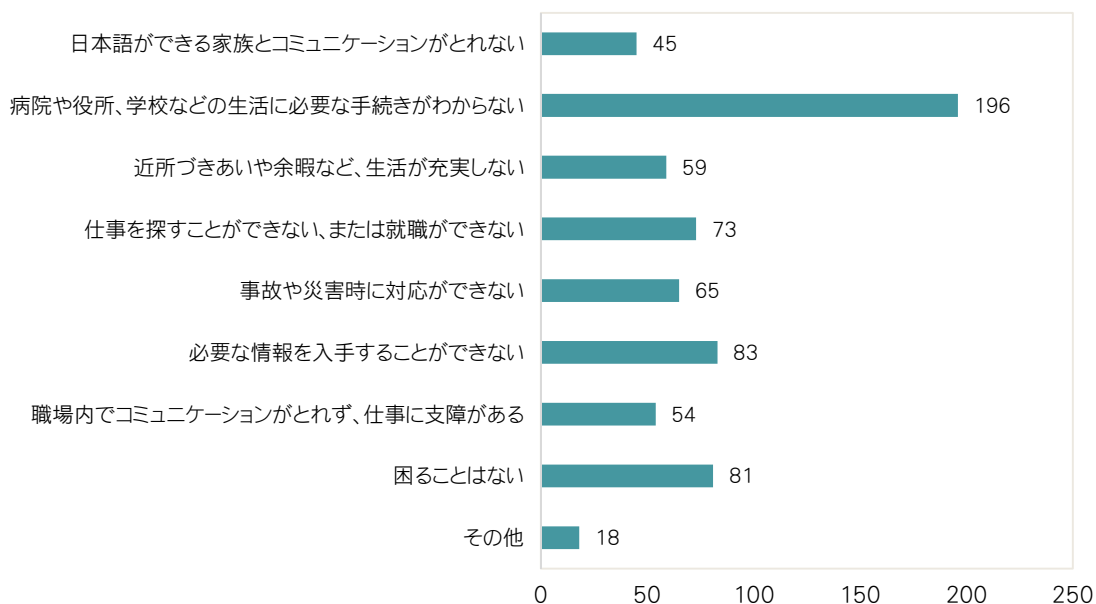
リストから自分に合いそうな日本語教室が見つかったら、まずは見学してみましょう。
ほとんどの教室が、ボランティアや学習者の見学を受け入れています。
ただし、教室活動を妨げないよう、マナーを守りましょう。
たとえば…

- 事前に見学したい旨を連絡し、当日は担当者の指示に従う
- クラスが始まる前は学習者の受け入れや準備などで忙しいので、質問等がある場合は、クラスが終了した後にする

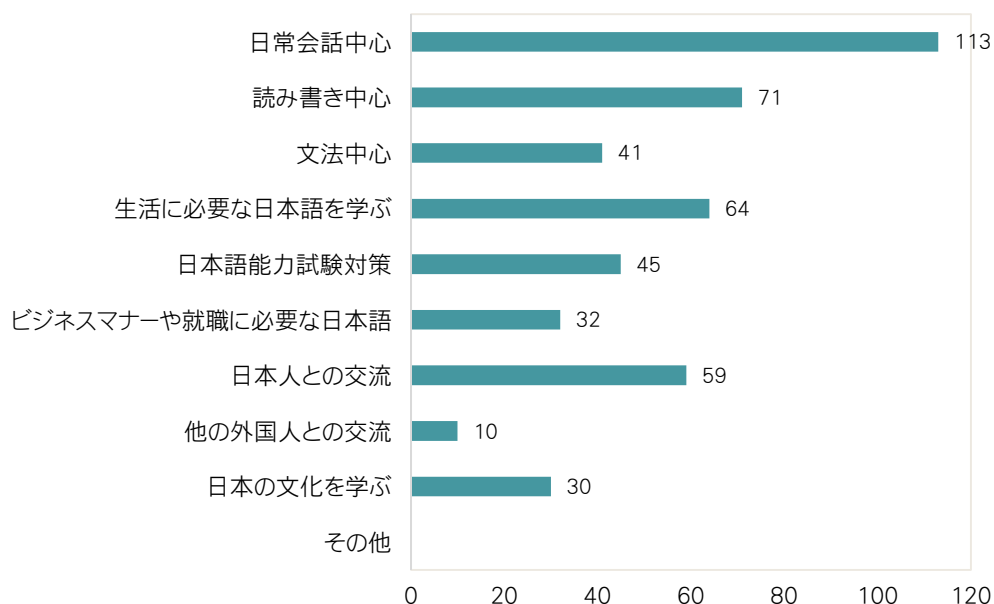
外国人住民が日本語教室に来る理由

ずばり、地域に住む外国人はどんなことを不安に思い、どんな思いで日本語教室にやってくるのでしょうか？ 2013年に愛知県が「多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」を作成した際、愛知県内に住む外国人350人に聞いた結果をご紹介します。

日本語がわからなくて日常生活で不安に思うことはどんなことがありますか？（複数回答）



どんなことを目的とした日本語教室に通いたいですか？（複数回答）



「日常会話中心」の内容としては、「買い物、会社、学校、病院など通常の日常会話で使える会話」「仕事で使える日本語」「日本人が通常使う会話」など、「生活に必要な日本語を学ぶ」には、「病院で使える言葉」「買い物に出かけて困らない程度の会話」「子どもの学校で使える会話」「仕事で使える日本語」「育児に関わる会話」などがコメントに書かれていました。

出典：「愛知県多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方（参考資料） 愛知県多文化共生室発行

外国につながる子どもについても知っておこう

大人の日本語教育活動と子どもの日本語学習支援は異なりますが、最近は両方を同時に行う日本語教室が開催されたり、保護者である学習者から相談されることも少なくありません。「外国につながる子ども」について、松本一子先生（愛知淑徳大学）の資料からご紹介させていただきます。（→P. 88 子どもの支援に役立つサイト）

外国につながる子どもとは

- 家族 … 就労のために来日した家族、中国帰国者の家族、難民として来日した家族、留学のために来日した家族、国際結婚による家族、在日韓国・朝鮮人の家族の子ども
- ことば… 日本国籍でも日本語がほとんど話せない子ども、外国籍でも日本生まれで日本語しか話せない子ども
- 経緯 … 新規来日、日本生まれ、再来日など多様な背景

★日本語指導が必要な児童生徒とは、

日本語で日常会話が十分にできない児童生徒及び日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒を指す

どんな子どもも日本の学校で勉強することができます

「外国人の子どもが日本の学校に就学を希望する場合は、日本人の子どもと同一の教育を受ける機会を保障する」。これは日本が締約国になった国際人権規約の規定により、国が決めた方針です。

また、非正規滞在の子どもも就学できます。就学手続きの際に「仮に、在留カード等の提示がない場合であっても、一定の信頼が得られると判断できる書類により、居住地等の確認を行うなど、柔軟な対応を行うこと（文部科学省「外国人の子どもの就学機会の確保に当たっての留意点について」2012.7.5付で通知）」2012年7月9日から外国人登録制度が廃止され、非正規滞在者には在留カードが発行されませんが、そうした子どもも公共料金の領収書などで居住地等の確認を行って、就学できます。

学年を下げて編入することもできます

「各学校において、年齢相当の学年への受入れや、外国人の子どもの学力や日本語能力等を適宜判断の上、下学年に一時的又は正式に入学を認めることができる（文部科学省「定住外国人の子どもに対する緊急支援（第2次）」2009.3.27付で通知）」

特に高校進学希望の15歳の子どもが10月に来日した場合、中学3年生に編入して3月に卒業後、高校進学できる場合もありますが、進学が困難な場合、1学年下げて2年生に編入した事例や、3年生で留年した事例もあります。

中学卒業資格の取得方法があります

「義務教育終了年齢を超えていて、中学校を卒業していない子どもは、中学校卒業程度認定試験（5教科）、または中学夜間学級（愛知県は名古屋市に1校のみ）を卒業して、卒業資格を取得できる」。中学校卒業程度認定試験は2011年から問題にルビがつき、日本語能力試験（N2以上取得）や英語検定試験（3級以上取得）などで一部科目が免除になりました。中学の卒業資格が取得できれば、高校進学や専修学校入学などにつながり、職業選択の選択肢も広がります。

高校入試の特別枠があります

「愛知県は外国人生徒及び中国帰国生徒等のために、衣台高校（豊田市）、小牧高校、豊橋西高校、名古屋南高校の4校で入試の特別枠がある。対象は、小学校第4学年以上の学年に編入学した者、又は第3学年以下の学年に編入学し、特別な事情があると認められる者で、学力検査は国語・数学・外国語（英語）の3科目のみで問題にルビがつく」。これは、学力はあっても日本語の力が及ばない生徒に知らせたい制度です。4校では入学後も母語のわかる支援員が非常勤で配置されます。

知っ得ヒント集

愛知県国際交流協会では東海日本語ネットワークと協働で、それぞれのボランティアが持っているさまざまな「コツ」を伝え合う「しゃべるまい会」を開催しました。その中から、ヒントをいくつかご紹介しましょう。

100均グッズでそろえる スターターキット

はじめて日本語ボランティアをするみなさん、
持っている役立つグッズは100均でそろえることができますよ～。

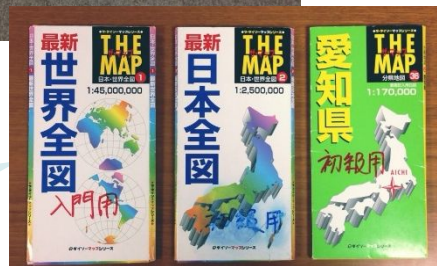


- ① クリアケース大
- ② ホワイトボード
- ③ おもちゃの紙幣
- ④ おもちゃの硬貨
- ⑤ マグネット
- ⑥ ホワイトボードマーカー×3
- ⑦ 紙時計



合計 ¥972 でした!

こんなグッズも
ありますよ～



「ちゃつとして！」～でら名古屋弁～

「ちゃつとする」は「チャット」じゃないよ。
「早くする」という意味だよ。

「こーも暑いと、かなわんでいかん。」「ほんとに、えりやあわ。」
地域に住んでいれば、生活言語として、自然に耳にする話し方、独特なアクセントがあります。外国人が無理に方言を使う必要はありませんが、同僚や近所の人
が何を話しているのか、聞き取ることは大切です。
ボランティアも標準語で話しているつもりでも、お国なまりはなかなか抜けません。外国人の場合は、むしろ使うことで親しみのわくことも多いようです。

名古屋弁の特徴は…

- アクセント(太字を強く言う)
標準語 → ありがとう あかい(赤い) くつ
大阪弁 → ありがとう あかい くつ
名古屋弁 → ありがとう あかい くつ
- ラ抜き言葉
「こなぎょおさん食べれる?」「あかん。まあ食べれんて。」
名古屋弁では「食べる」+可能「られる」=「食べられる」ではなく、
「食べれる」が正しい言い方です。

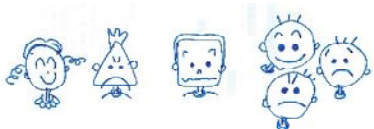
イラストを描くコツ



ことばを説明する時に欠かせないのがイラストです。

”絵を描くのが苦手”という方でもコツをつかめば無限に描くことができます。まずは顔から。いろんな表情を描いてみましょう。コツは

- ① イキイキとした線で描く
- ② オーバー気味に描く
- ③ 表情は眉の描き方でほぼ決まります



見上げる



しんぱい



ウィンク



笑う



くちぶえ



怒る



鼻歌



こわがる



おどろく



うたう



目にアザ



クール！日本のアニメ

みなさんは最近流行しているアニメが何か知っていますか？

『ナルト』、『ワンピース』…etc.

知らなくても大丈夫！でも、知っている则会話が弾んだり、仲良くなれるきっかけになるかもしれませんし、学習者に教えてもらうのも楽しいですよ。

なんと、海外で放送されている日本のアニメは実にたくさんあるんです。みなさんは以下のタイトルを見て、何のアニメかわかりますか？

♪タイトル当てクイズ♪

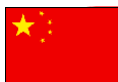
- ①Star Blazers (英語)
- ②Galaxy Express 999 (英語)
- ③Parasyte (英語)
- ④Ataque a los titanes (スペイン語)
- ⑤Attaquantes (フランス語)
- ⑥Lamu (フランス語)
- ⑦火影忍者 (中国語)
- ⑧櫻桃小丸子 (中国語)

⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

答え: ①宇宙戦艦ヤマト②銀河鉄道999③寄生獣④進撃の巨人⑤アタック・ティターンズ⑥ラム⑦ナルト⑧樱桃小丸子⑨ワンピース⑩ドラゴンボール⑪名探偵コナン⑫ポケットモンスター⑬ワンピース⑭ドラゴンボール⑮名探偵コナン⑯ポケットモンスター⑰ワンピース⑱ドラゴンボール⑲名探偵コナン⑳ポケットモンスター㉑ワンピース㉒ドラゴンボール㉓名探偵コナン㉔ポケットモンスター㉕ワンピース㉖ドラゴンボール㉗名探偵コナン㉘ポケットモンスター㉙ワンピース㉚ドラゴンボール㉛名探偵コナン㉜ポケットモンスター㉝ワンピース㉞ドラゴンボール㉟名探偵コナン㊱ポケットモンスター㊲ワンピース㊳ドラゴンボール㊴名探偵コナン㊵ポケットモンスター㊶ワンピース㊷ドラゴンボール㊸名探偵コナン㊹ポケットモンスター㊺ワンピース㊻ドラゴンボール㊼名探偵コナン㊽ポケットモンスター㊾ワンピース㊿ドラゴンボール

学習者の出身国はどんな国？

→ クイズの答えは裏表紙内側ページにあります。



中華人民共和国

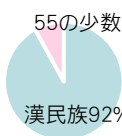
人口 約13億人



面積 約960万km²
(日本の約26倍)



民族 55の少数民族
漢民族92%



言語 漢語(中国語)

宗教 仏教・イスラム教・キリスト教など



首都
北京

クイズ 1

次のうち、中国で縁起がいいとされない生き物はどれ？

- A. ムカデ B. フクロウ
C. コウモリ D. カササギ



ベトナム社会主義共和国

人口 約9,170万人



面積 約32万9,241km²
(日本から九州をのぞいたくらいの大きさ)



民族 53の少数民族
キン族(越人) 約86%



言語 ベトナム語

宗教 仏教・カトリック・カオダイ教ほか

首都
ハノイ

クイズ 2

ベトナムにも干支がありますが、日本とは違うものがあります。それはどれでしょう？

- A. トリ(酉) B. タツ(龍) C. ウサギ(兎)

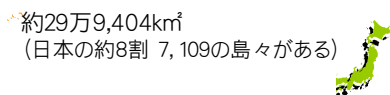


フィリピン共和国

人口 約9,234万人



面積 約29万9,404km²
(日本の約8割 7,109の島々がある)



民族 マレー系が主体。ほかに中国系、スペイン系およびこれらとの混血ならびに少数民族がいる。

言語 国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語と英語。80前後の言語がある。

首都
マニラ

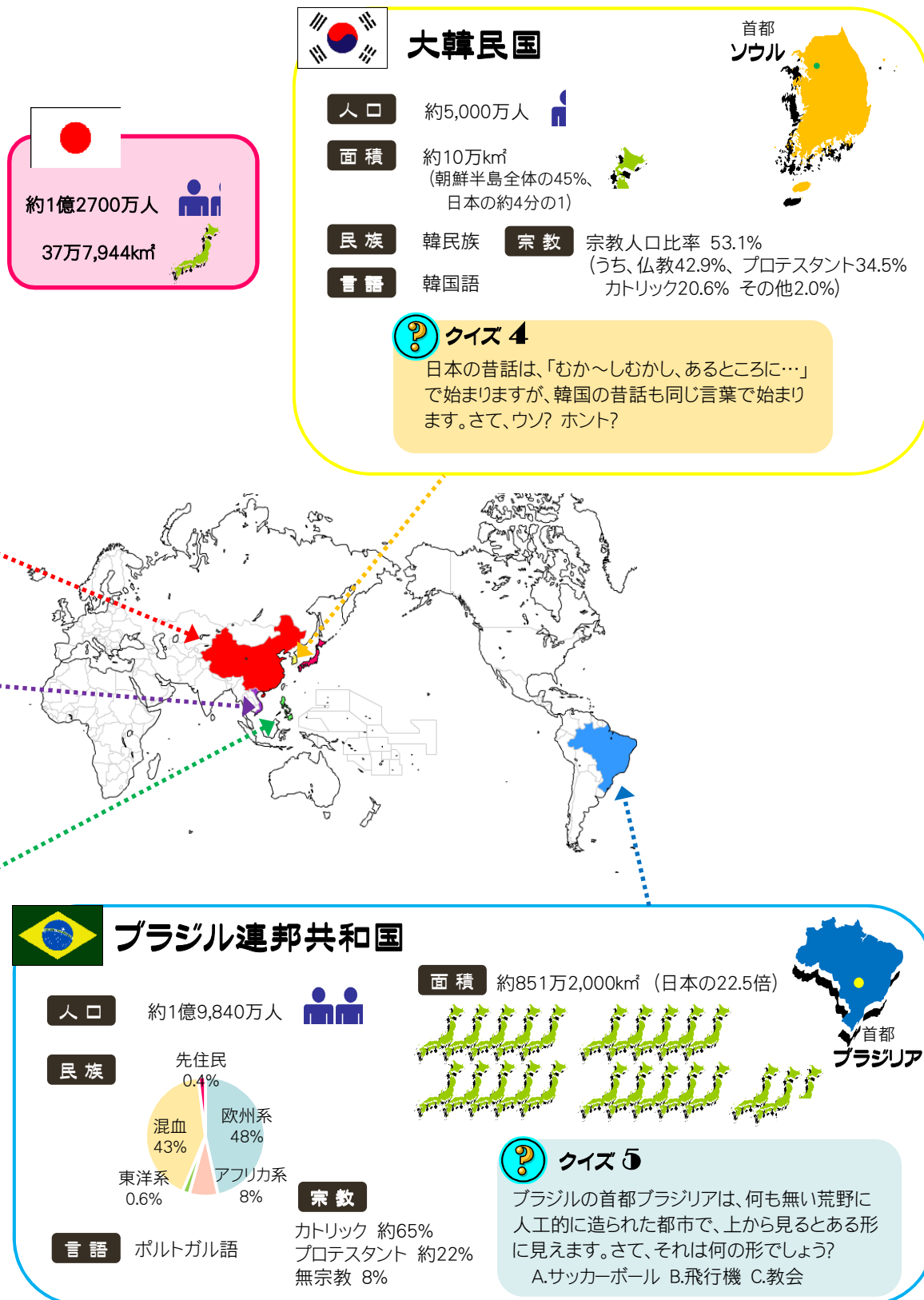
クイズ 3

日本が輸入しているバナナのうち、フィリピン産のものは何パーセントを占めるでしょう？(2009年現在)

- A. 50%以上 B. 70%以上
C. 90%以上 D. ほぼ100%

宗教 国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%。(ミンダナオではイスラム教徒が人口の2割以上)

愛知県に多く住んでいる外国人の国籍上位5国について、基本的な情報をまとめてみました。
対話のきっかけに活用してください。

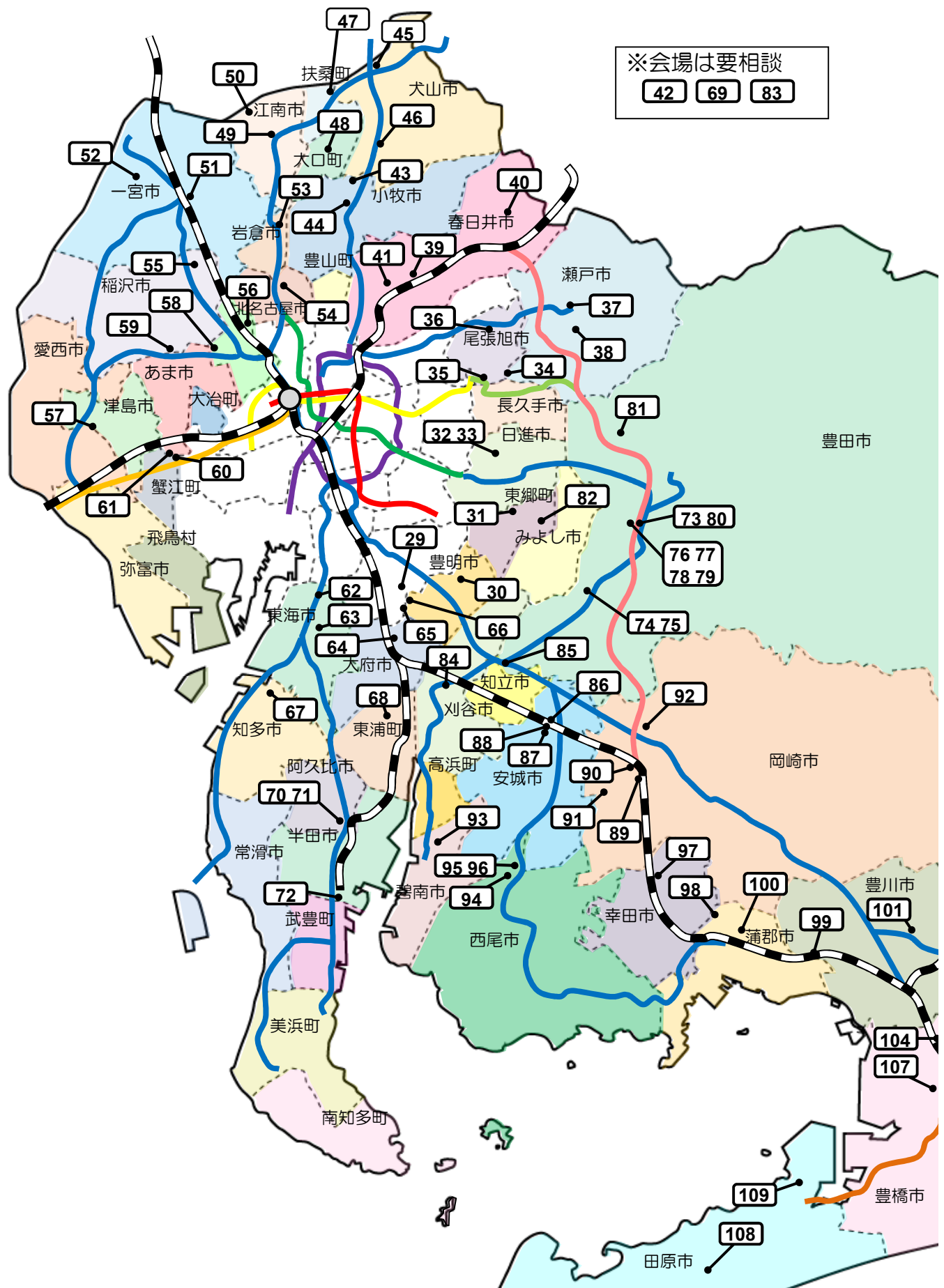


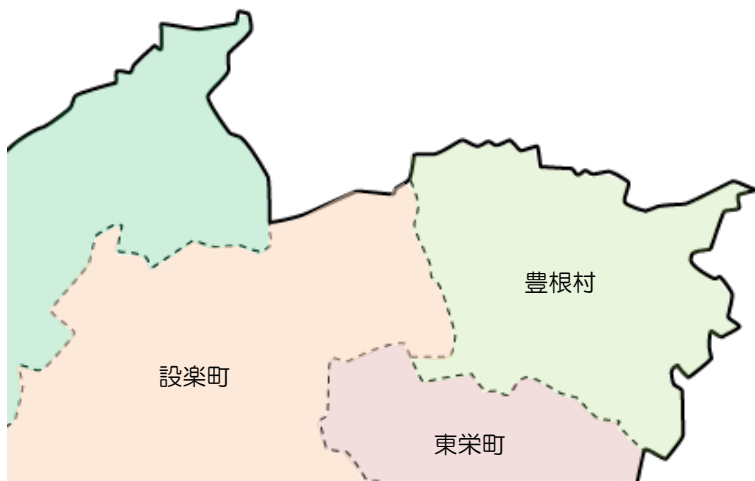
出典

基礎データ: 外務省ウェブサイト『国・地域情報』

クイズ: 『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』(愛知県国際交流協会発行) ※ブラジルを除く

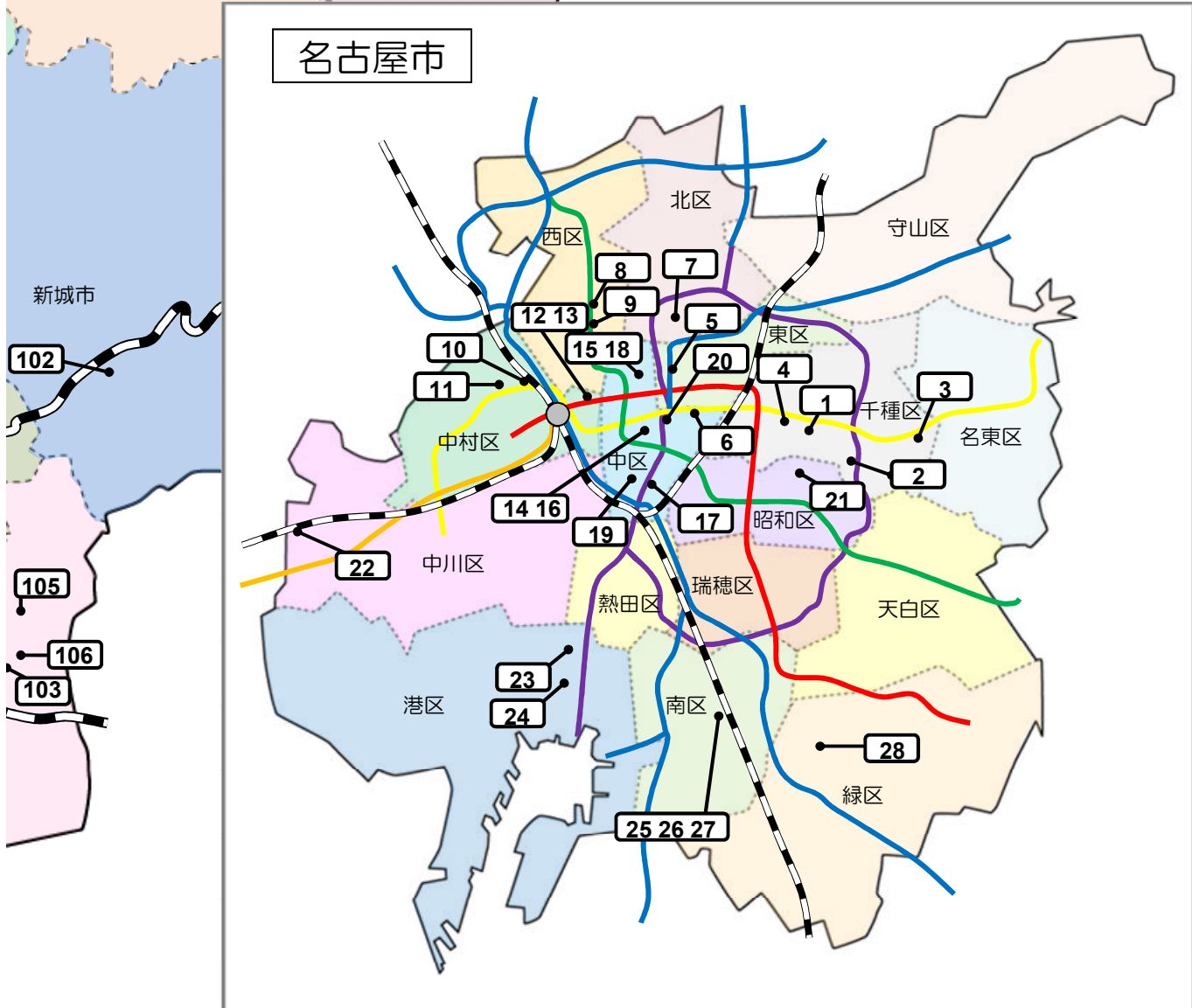
愛知県の日本語教室マップ





- JR線
- 名鉄線
- 近鉄線
- 地下鉄東山線
- 地下鉄名城線
- 地下鉄鶴舞線
- 地下鉄桜通線
- 愛知環状鉄道
- リニモ
- 豊橋鉄道渥美線

名古屋市



地域	市区町村	NO	教室名	開催場所	開催曜日・時間	最寄駅
名古屋	千種区	1	(特活)ハンプトンアカデミーオプニングリッシュ(HAE)	ハンプトンアカデミーオプニングリッシュ	日・月	地下鉄東山線「覚王山」
		2	さくらの会	名古屋大学 国際棟(旧留学生センター)	月・水 14:45～16:15	地下鉄名城線「名古屋大学」
		3	ほしがおか日本語教室	星が丘コミュニティセンター	火 10:00～11:40	地下鉄東山線「星ヶ丘」
		4	日本語教室	応相談	土 9:30～12:00	地下鉄東山線「今池」
	東区	5	日本語教室	ウィルあいち2FあいちNPO交流プラザ	日 他の曜日にも応相談	地下鉄名城線「市役所」
		6	第176期ロシア講座・にほんご	愛知民主会館	該当者の事情を相談する	地下鉄東山線「新栄」
	北区	7	黒川日本語教室	名古屋市総合社会福祉会館	木 18:30～20:15	地下鉄名城線「黒川」
	西区	8	にし・にほんごの会	西生涯学習センター	毎月第1～第4日曜日 10:30～12:00	地下鉄鶴舞線「浄心」
		9	日本語教室サンシャイン浄心南	特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター	相談により決定	地下鉄鶴舞線「浄心」
	中村区	10	あいち日本語の会	名古屋韓国会館 4階北会議室	月・日 10:00～11:30	地下鉄東山線「亀島」
		11	サダカ	花車ビル中館	火 10:00～12:00	地下鉄桜通線「国際センター」
		12	NIC日本語の会	名古屋国際センター	日 10:30～11:30、 12:00～13:30、14:00～15:30のいずれか	地下鉄桜通線「国際センター」
		13	日本の会社で働くための日本語教室	名古屋国際センター	土 10:00～11:45	地下鉄桜通線「国際センター」
	中区	14	NPOパソコンで日本語を学ぶ会	名古屋市民活動推進センター	日 13:00～16:00	地下鉄東山線・名城線「栄」または「矢場町」
		15	日本語教室「あかさたな」	あいち国際プラザ	木 10:30～12:00 (12:00～13:00サロン)	地下鉄名城線「市役所」
		16	いろは日本語の会	名古屋市民活動推進センター	木 10:30～12:00	地下鉄東山線・名城線「栄」または「矢場町」
		17	ことばの会	名古屋市女性会館	水・金 10:00～11:30	地下鉄名城線「東別院」
		18	あいち国際プラザにほんご教室	あいち国際プラザ	火 13:30～15:00 金 13:30～15:00と 19:00～20:30、土 10:30～12:00と 14:00～15:30	地下鉄名城線「市役所」
		19	東別院日本語教室	東別院会館	金 14:00～16:00、 18:45～20:45	地下鉄名城線「東別院」
		20	外国人子育てサポート教室バンビーナ	名古屋YWCA	金 10:00～12:30	地下鉄東山線「栄」
	昭和区	21	日本語教師協会	スコラハウス松下	制限なし	地下鉄鶴舞線「川名」
	中川区	22	日本伝統文化 ひまわりの会	名古屋市富田住宅会館	第2・第4土 10:00～12:00	近鉄 戸田駅
	港区	23	九番団地日本語教室 AULA DO KYUBA	九番団地一棟集会所	土 19:00～21:00	地下鉄名港線「東海通」
		24	国際留学生会館日本語学習会	国際留学生会館	土 10:00～12:00	地下鉄名港線「港区役所」
		25	Lophoc Tieng Nhat Trung tam Nagoya-ko 日本語教室 名古屋港センター	名古屋市南生涯学習センター	金: 19:00～21:00 日: 15:30～17:00 (第4・5は休み)	JR「笠寺」
	南区	26	Lop hoc Tieng Nhat Trung tam Minami	名古屋市南生涯学習センター	土: 18:30～20:30	JR「笠寺」
		27	みなみ文化日本語教室	名古屋市南生涯学習センター	金 18:30～20:30	JR笠寺駅または市バス「南区役所」「名古屋市体育館南」
	緑区	28	みどり日本語教室	市営浦里荘集会所	木 19:30～21:00	名鉄本線本「星崎」または市バス「天白橋」
		29	みどり多文化日本語教室	桶狭間荘第二集会所	第2・第4土 19:30～21:00	名鉄「有松」から市バス「郷前」

地域	市町村	NO	教室名	開催場所	開催曜日・時間	最寄駅
尾張	豊明市	30	日本語教室	豊明市総合福祉会館	金 19:00～20:45・ 日 A教室 10:00～11:45・B教室 14:00～15:45	名鉄「前後」から名鉄バス「総合福祉会館」
	東郷町	31	東郷町日本語教室(入門・初級コース)	イーストプラザいこまい館 2階 会議室	日 10:00～11:30	「赤池」「日進」「知立」から名鉄バス「和合」または東郷町巡回バス「じゅんかい君」「いこまい館(東郷町役場)」
	日進市	32	NIAにほんご教室	日進市にぎわい交流館	水 10:30～12:00	地下鉄鶴舞線「赤池」または名鉄「日進」から市内循環バス「市役所」
		33	リビングサポートあいあい の家・日本語教室	日進市にぎわい交流館	土 19:00～20:30	地下鉄鶴舞線「赤池」または「日進駅」から市内巡回バス「市役所」
	長久手市	34	ウェルカムにほんご教室	長久手市役所 西庁舎 3階公民館	月3回 土 10:00～11:45	名鉄バス 「長久手市役所」
		35	にほんごではなそうなが くてクラス	長久手市西小校区共 生ステーション	木 9:45～11:30	名鉄バス 「塚田」
	尾張旭市	36	外国人のための日本語教 室会	尾張旭市中央公民館	水 10:00～11:30 19:30～21:00	名鉄瀬戸線 「尾張旭」
	瀬戸市	37	にほんご オアシス	パルティセと	木 19:30～21:00 金 10:00～11:30	名鉄瀬戸線 「尾張瀬戸駅」
		38	にほんご教室あいうえお	萩山集会所	金 19:30～21:00	名鉄バス「萩山台北」
	春日井市	39	かすがいふれあい教室	春日井市市民活動支 援センター(愛称:ささ え愛センター)	金・日 10:00～12:00	JR「春日井」駅
		40	外国人のための日本語講 座(東部市民センター)	春日井市東部市民セン ター	日(不定期) (各全20回)	JR「高蔵寺」から名鉄バス「高 森台」下車徒歩5分
		41	外国人のための日本語講 座(中央公民館)	春日井市立中央公民 館	日 10:00～12:00 (1学期に28回)	JR「勝川」
		42	クロスカル日本語の会	応相談	教師と学習者で相談し て決める	JR 高蔵寺 春日井 勝川
	小牧市	43	INF日本語教室	岩崎ふれあい会館(県 営住宅内)	土 10:00～12:00	名鉄小牧犬山線 「田懸神社駅前」
		44	日本語教室	小牧市公民館	日 8:30～10:30、 10:30～12:30、13:00～ 15:00、15:10～17:10、 17:20～19:20	名鉄「小牧」
	犬山市	45	犬山日本語教室	犬山国際観光センター 「フロイデ」	日 10:00～11:45	名鉄「犬山」
		46	みんなの日曜塾	寺子屋シャイクハンズ	日 10:00～12:00	名鉄小牧線「楽田」
	扶桑町	47	扶桑町日本語教室”お しゃべりCafe”	扶桑町中央公民館	木 19:00～20:30 日 13:30～15:00	名鉄「扶桑駅」
	大口町	48	CEREJAカフェ	町民活動センター	土 19:00～20:30	大口町コミュニティバス「健 康文化センター」
	江南市	49	日本語習得支援教室	ふくらの家	月・水 10:30～11:30、 13:00～14:00 火・木・金 13:00～14:00	名鉄犬山線「江南」
		50	江南市国際交流協会日 本語教室	宮田地区学習等供用 施設	日 13:00～15:00	名鉄バス 「藤が丘幼稚園前」
	一宮市	51	日本語ひろば	一宮市青年の家	日 10:00～12:15 (第3日曜日・年末年始 等を除く)	JR「尾張一宮」または 名鉄「名鉄一宮」
		52	日本語ひろば びさい	三条つどいの里	日 14:00～15:30 (第1日曜日・年末年始 等を除く)	JR「尾張一宮」または名鉄 「名鉄一宮」駅から 名鉄バス「尾西公園前」
	岩倉市	53	日本語ひろば 岩倉	岩倉市生涯学習セン ター	水 19:30～21:00	名鉄犬山線「岩倉」
	北名古屋 市	54	北名古屋国際交流協 会社会人日本語教室	北名古屋健康ドーム 研修室	金 19:15～20:45	名鉄「西春」
	稲沢市	55	日本語講座	稲沢市総合文化セン ター	日 9:30～11:30 (全20回)	名鉄本線「国府宮」
	清須市	56	日本語ひろば	清須市清洲市民セン ター	月3回日 10:00～11:30	名鉄「新清洲」 またはJR「清洲」

地域	市町村	NO	教室名	開催場所	開催曜日・時間	最寄駅
海部	愛西市	57	おしゃべりひろば	市文化会館	毎月第1・3・4日 (原則) 10:00～11:30	名鉄尾西線 「日比野」
	あま市	58	JJにほんごくらぶ	甚目寺公民館	水 10:00～11:30と 19:00～20:30、 土10:00～11:30、 日10:00～11:30	名鉄津島線 「甚目寺」
		59	美和日本語教室	美和情報ふれあいセン ター	木 19:00～21:00	名鉄津島線 「木田」
	蟹江町	60	日本語しゃべろう会(火曜 日クラス)	蟹江児童館	火 10:30～12:00	近鉄「蟹江」
		61	日本語しゃべろう会(土曜 日クラス)	蟹江中央公民館	土 19:30～21:00	近鉄「蟹江」
知多	東海市	62	子どもといっしょに日本語 教室	東海市立 しあわせ村	第1・第3木 10:00～12:00	名鉄「聚楽園」
		63	東海市国際交流協会 日本 語教室	東海市立商工センター 3階中会議室	第1・第3日 14:00～1 6:00 / 第2・第4月 1 9:00～20:30	名鉄「太田川」
	大府市	64	大府市国際交流協会 日 本語教室	大府市役所 地下会議 室	日 (月2～3回) 10:00 ～12:00	JR「共和」
		65	ふらっと	大府市北山公民館	土 10:00～11:45	JR「共和」
		66	吉田フレンズ	(株) 吉田金型寮	火 19:00～21:00	JR「共和」
	知多市	67	知多市日本語教室	知多市ふれあいプラザ	水 10:00～12:00 土 14:00～16:00	名鉄「古見」
	東浦町	68	にほんごひろば	県営東浦住宅集会所 ホール	第2・4土 13:30～15:00	JR武豊線 「石浜」
	常滑市	69	日本語くらす	相談によって決める	相談によって決める	
	半田市	70	日本語スクール	雁宿ホール	土 19:30～21:30	名鉄「知多半田」
		71	日本語教室(さくら)	半田市福祉文化会館2 階 視聴覚室	日 10:00～12:00	名鉄「知多半田」
	武豊町	72	武豊日本語教室	武豊町立おおあし児童 館2F図書室	土 10:00～12:00	JR「武豊」または 名鉄「知多武豊」
西三河	豊田市	73	中級日本語教室	豊田市就労支援室(会 議室)、とよた市民活動 センター	月・水・金 19:00～20:30	名鉄「豊田市」
		74	日本語喫茶	あすて	日 15:30～17:00	名鉄三河線「竹村」
		75	たのしいにほんご	あすて	金 10:00～11:30 日 13:30～15:00	名鉄三河線「竹村」
		76	Alpha日本語教室	豊田産業文化センター	日 10:30～12:30	名鉄「豊田市」または 愛知環状鉄道「新豊田」
		77	日本語サロン	豊田産業文化センター	水 10:00～12:00	名鉄「豊田市」または 愛知環状鉄道「新豊田」
		78	にほんごひろば初級	豊田産業文化センター	土 9:30～12:00	名鉄「豊田市」または 愛知環状鉄道「新豊田」
		79	TIAにほんごひろば	豊田産業文化センター	火: 18:30～20:00・ 木: 18:30～20:00・ 金: 13:30～15:00・ 土: 10:00～11:30	名鉄「豊田市」または 愛知環状鉄道「新豊田」
		80	就労支援中級日本語講座	豊田市就労支援室	月・水・金 19:00～20:30	名鉄「豊田市」 または愛知環状鉄道 「新豊田」
		81	ホミーゴ(保見ヶ丘日本語 教室)	保見団地公団141棟 第2集会所	日10:00～12:00	愛知環状鉄道「保見」
	みよし市	82	日本語サークル	学習交流センター	土10:00～11:30 水10:00～11:30	名鉄バス「三好」
		83	あいち日本語教室	要相談(柔軟に対応)	要相談	
	刈谷市	84	KIFAV日本語教室	刈谷市国際プラザ	木10:00～11:30、 土(第2, 3, 4週) 19:00 ～20:30、日(第2, 3, 4 週) 10:00～11:30	JR/名鉄「刈谷」
	知立市	85	日本語教室	知立市中央公民館	土 19:00～20:30	名鉄「知立」

地域	市町村	NO	教室名	開催場所	開催曜日・時間	最寄駅
東三河	安城市	86	「サルビアにほんごの会」日本語教室	安城市民交流センター	土 10:00～11:30	JR「安城」
		87	安城市日本語教室	安城市民会館 他	日①9:00～11:00 ②9:00～10:20 ③10:30～11:50	JR「安城」
		88	にほんごひろば	安城市文化センター	木 10:00～11:30	JR「安城」
	岡崎市	89	岡崎日本語教室	岡崎南部市民センター分館	原則第1・第3日 9:00～12:00 休館日等は休講	JR「岡崎」
		90	日本語教室	県営上和田住宅集会所	土 10:00～12:00	愛環「六名」駅
		91	日本語教室	岡崎市六ツ美市民センター	土 18:30～20:00	JR「岡崎」から バス「下青野」
		92	日本語教室・サロン	りぶら国際交流センター	木 10:00～12:00、 土 10:30～12:30、 14:30～16:30、 日 10:00～12:00	名鉄「東岡崎」または 「岡崎公園前」
	碧南市	93	日本語教室	碧南市文化会館/碧南市役所談話室	日 10:00～11:30	名鉄三河線 「碧南中央」
	西尾市	94	さくらぎ日本語塾	さくらぎ日本語塾	曜日は要問合せ、大人 1時間半、子ども1時間 ～1時間半。週1/1時間 半。週2/1時間。	名鉄「西尾」
		95	西尾にほんごひろば	西尾市総合福祉センター「はなのき」	日 9:30～12:00	名鉄「西尾」
		96	日本語教室(木曜クラス)	西尾市総合福祉センター「はなのき」	木 9:30～11:00	名鉄「西尾」
	幸田町	97	日本語サロン	まちづくり会館	日 10:00～11:30	JR「幸田」
	蒲郡市	98	塩津教室	塩津教室	ほぼ毎日 10:00～ 12:00 他応相談 (原則、日、月、火、金、 土)	JR「三河塩津」または 名鉄「蒲郡競艇場前」
		99	大塚教室	東大塚いこい会館	第1・3土 10:00～ 12:00(夏休みは週2回 開催)	JR「三河大塚」
		100	日本語教室	蒲郡市勤労福祉会館	第1・3日 14:00～ 16:00	JR/名鉄「蒲郡」
	豊川市	101	日本語教室・日本語ひるま教室	豊川市勤労福祉会館	土 18:00～21:00 火・ 水・木 10:30～12:00	名鉄豊川線「諏訪町」
	新城市	102	しんしろにほんごひろば	勤労青少年ホーム	水 19:30～21:00	JR「新城」
	豊橋市	103	日本語個別教室	エスパノABT	不定	バス「豊岡中学校前」
		104	にほんごきょうしつ	開発ビル	土・日 15:30～17:00、 平日 10:00～正午	名鉄またはJR「豊橋」
		105	金田住宅日本語教室	金田住宅集会所	火・木 19:00～21:30	豊鉄バス「金田住宅前」
		106	柳原住宅日本語教室	東陽地区市民館	火・木 19:00～21:00	市電「赤岩口」
		107	豊橋ふれあい日本語教室	アイプラザ豊橋	木 10:30～12:00(た だし春、夏、冬季休暇 あり)	豊橋鉄道渥美線 「南栄」
	田原市	108	あかばねひらがなの会(日本語教室)	田原市赤羽根福祉センター	毎月第2・4土、第3日 13:30～15:00	豊橋鉄道「三河田原」 豊橋鉄道バス 「赤羽根市民センター前」
		109	にほんご教室	田原文化会館	金 19:30～21:00、 日 10:30～12:00	豊橋鉄道渥美線 「三河田原」

※ 連絡先や詳細については、(公財)愛知県国際交流協会のホームページに掲載してある日本語教室リストをご覧ください、当協会へお問い合わせください。

教室活動に役立つウェブサイト

行動体験型の活動に役立つサイトをご紹介します。やってみたい活動の参考になるものを探したり、サイトを参考に活動のテーマを決めたりするのにご活用ください。

- 『「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』
(文化庁2012.1発行)

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/index_3.html

文化庁の標準的なカリキュラム案を活用するために作成されたものです。教材の参考になるだけでなく、活動のつくり方、進め方の参考になります。教材はワードファイルでダウンロードできますので、地域や学習者に合わせて手を加えることができます。

- 『標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例』 一覧の他言語版

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/index_2.html

『「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』(文化庁2011.1発行)にある「生活上の行為の一覧」が23言語に翻訳されたものがダウンロードできます。学習者と一緒にテーマを選択するときに役立ちます(第2章でも紹介したものです)。

- 『とよた日本語学習支援システム 資料ダウンロード』(とよた日本語学習支援システム 運営)

<http://www.toyota-j.com/shiryou.php>

豊田市が名古屋大学に委託した事業で使用している資料が載っています。「ガイドライン」の7章～12章に活動方法が詳しく載っており、教材のサンプル(多言語版)もあります。

- 『生活場面切取動画』(社会福祉法人さぽうと21 運営)

<http://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/japanese-learning-materials/>

外国人の生活場面を取り上げた動画です。ダウンロードして、イメージをつかんでもらったり、ロールプレイの参考にすることができます。「さぽうと21」のトップ画面から「活動について」をクリックしてください。

- 『日本語教育コンテンツ共有システム(NEWS)』(文化庁 運営)

<http://www.nihongo-ews.jp/>

文化庁の地域日本語教育事業受託団体が作成した教材やそれ以外にも役立つ教材を集めて掲載しているサイトです。テーマなどをキーワードにして検索することができます。

子どもの支援に役立つサイト

- 『外国人児童生徒受入れの手引き』(文科省2011.3発行)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

日本語指導担当教員、日本語指導協力者、学級担任、学校管理職、教育委員会などの役割がわかります。

- 『進路開拓ガイドブック』『進路応援ガイドブック』(愛知県2012.3発行)

<http://www.pref.aichi.jp/0000060439.html>

前者は外国につながる子どもや保護者が中学や高校卒業後の進路を考えるときのガイドブック(4ヶ国語)、後者はそれを支援する人に役立つガイドブックです。

- 『かすたねっと』(文科省2011.3開設)

<http://www.casta-net.jp>

公開されている多言語教材や多言語学校関係文書を検索して活用できます。



P.80～81のクイズの答えです。

クイズ 1 こたえは **Bのフクロウ** です。

中国では、「梟(ふくろう)」は(キョウ)と発音され、「凶」に通じるので縁起の悪い動物とされます。逆に「蝙蝠(コウモリ)」は(ピエンフウ)と発音され、蝠(フウ)が福(フ)に通じるので縁起がよいとされます。ムカデは五毒(サソリ・ムカデ・ヤモリ・ヒキガエル・ヘビ)の1つ、最強の魔よけの生き物。五毒をかたどった小さなぬいぐるみは子どものおもちゃにしたり、服の飾りにすることもあります。カササギは「喜鵲」と書き、ラッキーバード「運がいい」という意味があります。

クイズ 2 こたえは **Cのうさぎ(兎)** です。

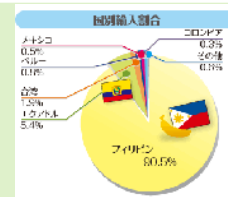
うさぎの代わりに猫があります。理由としては、中国語でうさぎを表す「マーオ」という発音がベトナムで猫を表す「マーオ」に似ているとか、猫はネズミをとるのに比べてうさぎは役に立たないのでベトナムでは猫の方が好かれているからとか、いろいろな説があります。また、牛はベトナムでは水牛になっています。農村で水牛が使われるなど人々の暮らしに水牛が身近にいるベトナムならではのですね。

ベトナムの干支 鼠、**水牛**、虎、猫、龍、蛇、馬、**山羊**、猿、鶏、犬、豚

日本の干支 鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪

クイズ 3 こたえは **Cの90%以上** です。

2009年の日本のバナナ輸入量は約125万トン、そのうちフィリピン産は116万トンで、全体の約93%を占めています。2008年のデータではフィリピンのバナナ生産量は869万トン、そのうち約12%の102万トンを日本に輸出しています。



クイズ 4 こたえは「**ウソ**」です。

韓国の昔話は、「むかしむかし、トラ(ホラギ)がタバコを吸っていた時代の話じゃ」で始まります。トラがタバコを吸うなんてあり得ないので、それほど昔のこと…という意味だそうです。韓国ではトラが馴染み深く、朝鮮半島がトラの形にたとえられたり、ソウルオリンピックのマスコットもトラの「ホドリくん」だったりしました。また、建国神話『檀君神話(だんくんしんわ)』でも、トラが出てきます。「人間になりたい」という熊とトラが、地上に送り込まれた神「桓雄」から「ニンニクとよもぎだけを食べながら100日間洞窟の中で耐えることができれば、人間になれる」と言われます。そこで、熊とトラは洞窟で暮らし始めますが、トラは途中で我慢ができなくなり、洞窟を出てしまいます。熊は100日間がんばって人間の女性になりました。そして檀君を生み、やがて檀君は朝鮮という国を建てたのです。人間になれなかったトラですが、韓国では熊よりも人気があるそうです。

クイズ 5 こたえは **Bの飛行機** です。

ブラジルの首都はサンパウロでもリオデジャネイロでもなく、ブラジリアです。1960年、ブラジル高原に建設された計画都市で、飛行機が羽をひろげたような形をしています。その機首部分には国会議事堂、最高裁判所など、翼部分は居住エリアなどとなっています。1987年には世界遺産に登録されました。

編集委員(50音順・敬称略)

安藤 よし子	東海日本語ネットワーク/NPOシェイクハンス
岡部 真理子	東海日本語ネットワーク/ほしがおか日本語教室
酒井 美賀	東海日本語ネットワーク/ことばの会・NIC日本語の会
白石 真理	東海日本語ネットワーク/ほしがおか日本語教室
鈴木 勝代	東海日本語ネットワーク/ことばの会
米勢 治子	東海日本語ネットワーク



2014年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
「使える」日本語を学ぶ！
～行動・体験型の教室活動をつくろう～

2015年2月

発行：公益財団法人 愛知県国際交流協会
〒460-0001
名古屋市中区三の丸2-6-1
TEL:052-961-8746 FAX:052-961-8045
Eメール:koryu@aia.pref.aichi.jp
URL:<http://www2.aia.pref.aichi.jp>

協力：東海日本語ネットワーク

印刷：株式会社 アイワット